

6 7 8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 5

14. 6/8-96



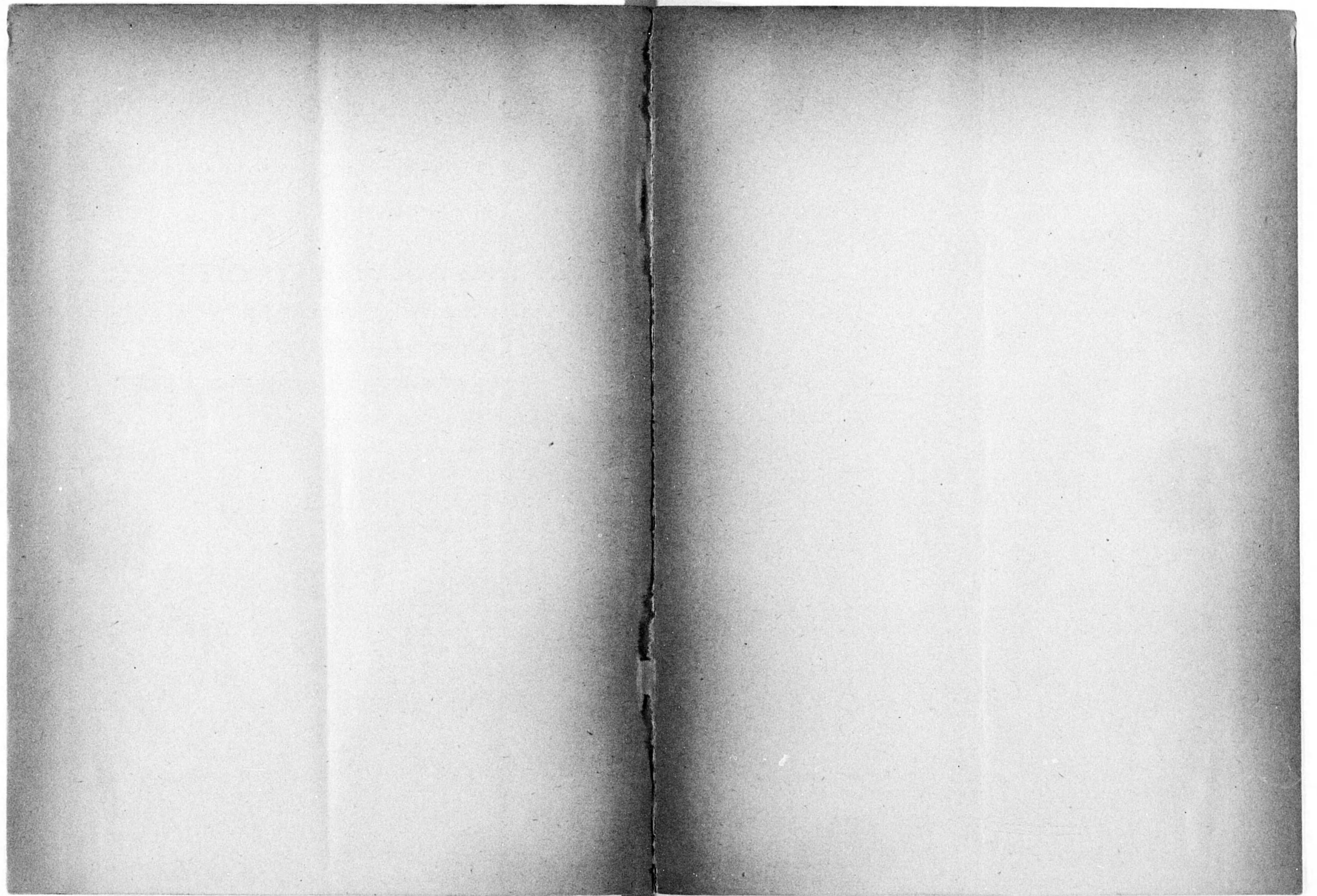
•1200600863308•

昭和十三年統計年報

● 第一區府縣立全生病院

始





院 歌

あしたに あふく ふじあやま
ゆふべに はゆる ちちぶのね
そらより ひろき むさしのの
なかに われらの すまゐあり

一

あしたに仰ぐ不三の山
ゆふべに映ゆる秩父の嶺
空より廣き武蔵野の
中に我等のすまゐあり

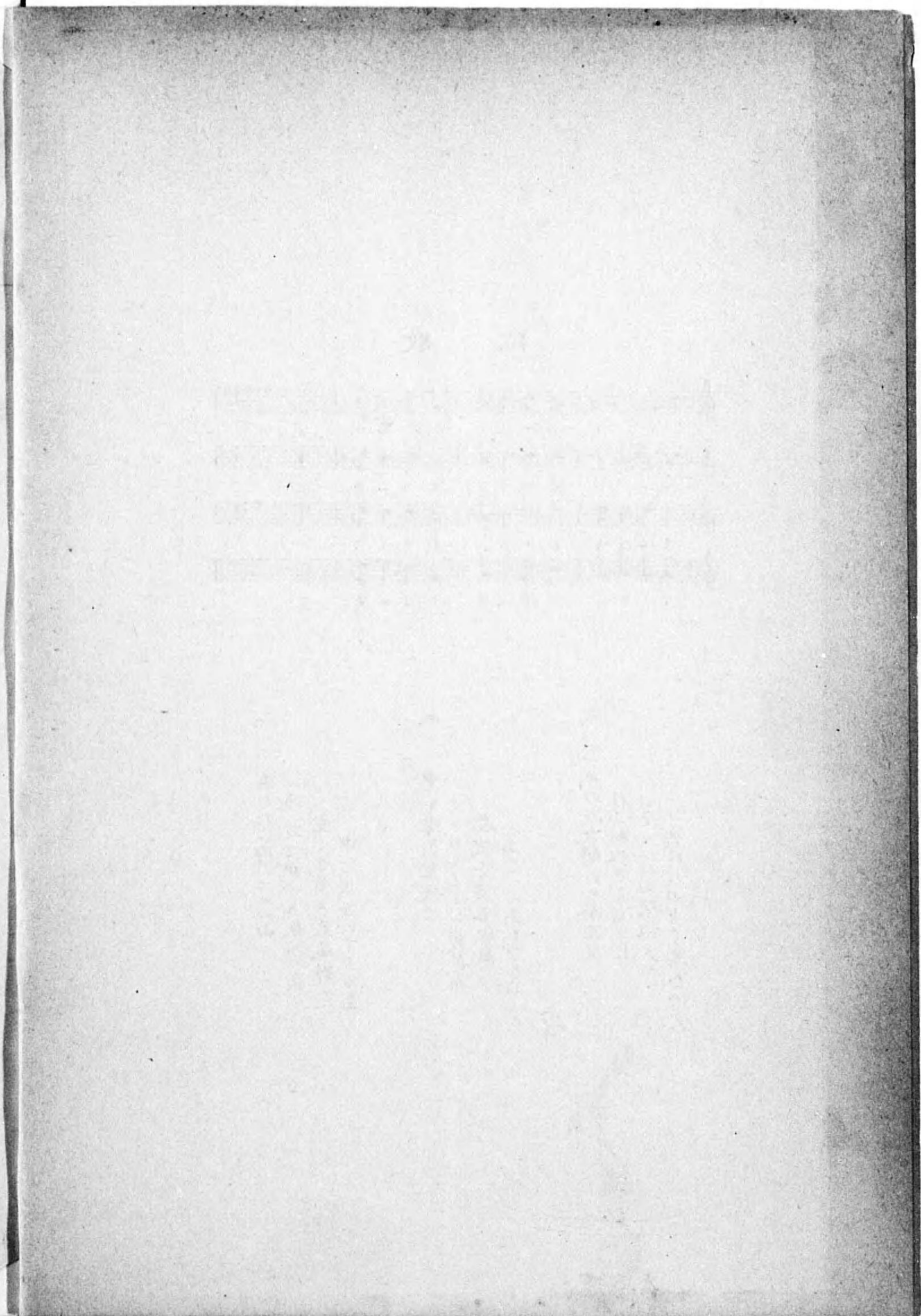
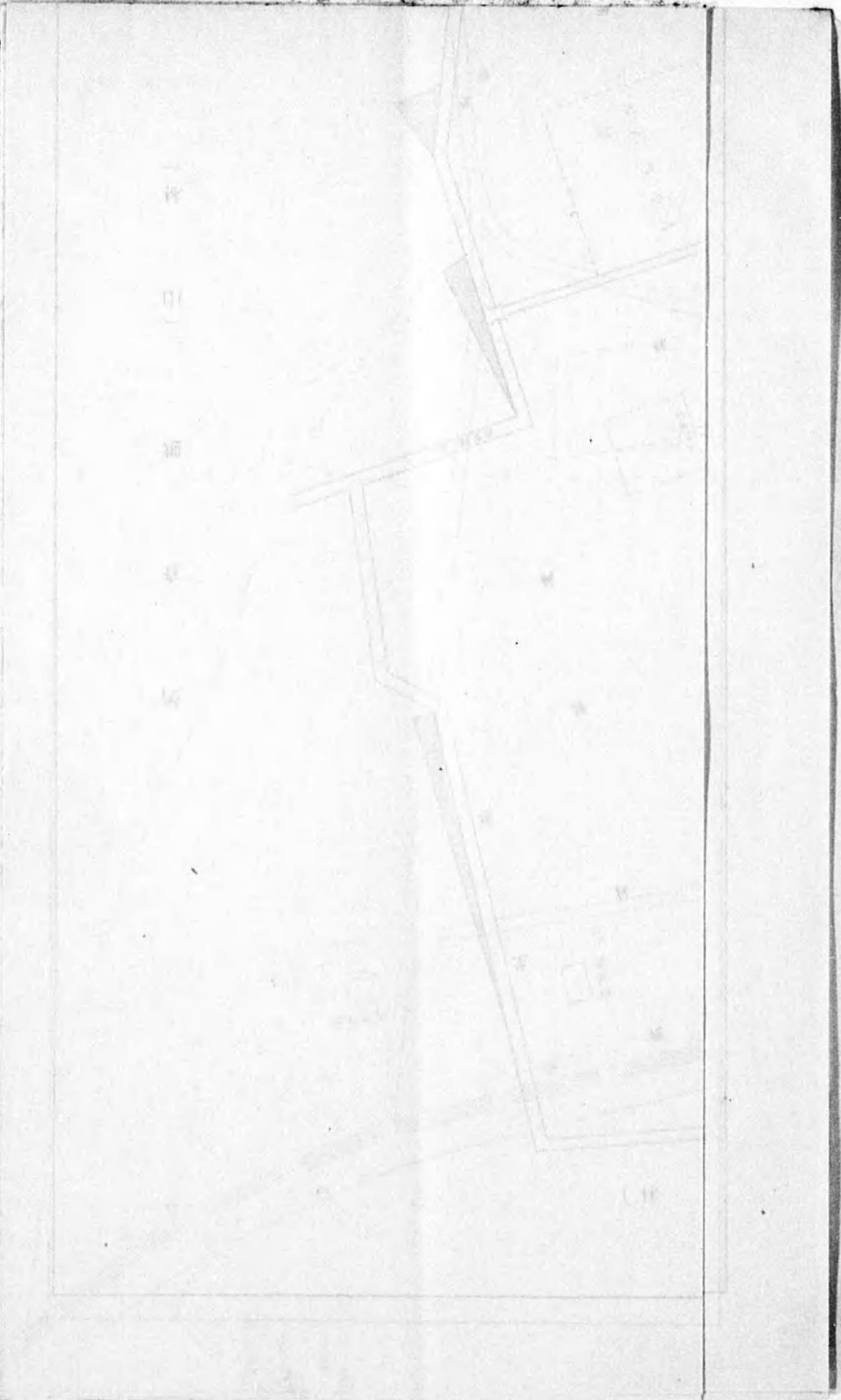
二

恵も深き聖代に
もとのとおきて幾星霜
歴史を語る松風に
ふくいん高くつとふらん

三

その名を聞けや全生の
住ふ村人とこしへに
こゝろの望抱きつゝ
共にたのしく集ひなん

- 1
- 2
- 3
- 4
- 5
- 6
- 7
- 8
- 9
- 10
- 11
- 12
- 13
- 14
- 15
- 16
- 17
- 18
- 19
- 20
- 21
- 22
- 23
- 24
- 25
- 26
- 27
- 28
- 29
- 30
- 31
- 32
- 33
- 34
- 35
- 36
- 37
- 38
- 39
- 40
- 41
- 42
- 43
- 44
- 45
- 46
- 47



村山村東郡摩多北府京東
(一之分千貳) 圖略院病生全立縣府區一第

坪六十三百九千九万拾數坪總

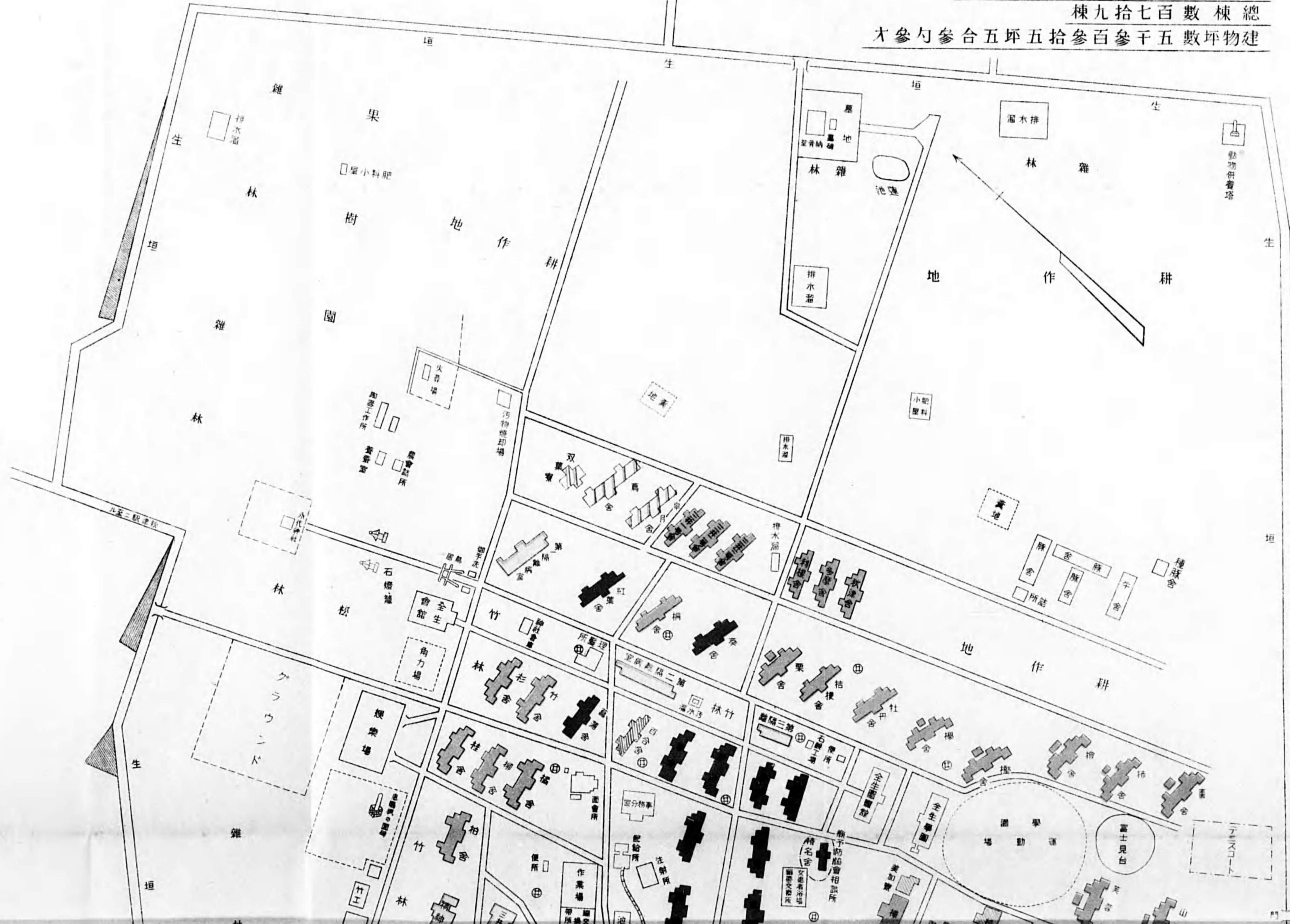
棟九拾七百數棟總

才參勺參合五坪五拾參百參千五數坪物建

(林 山) 地 有 民

民 有 地 (山 林)

民 有 地 (山 林)

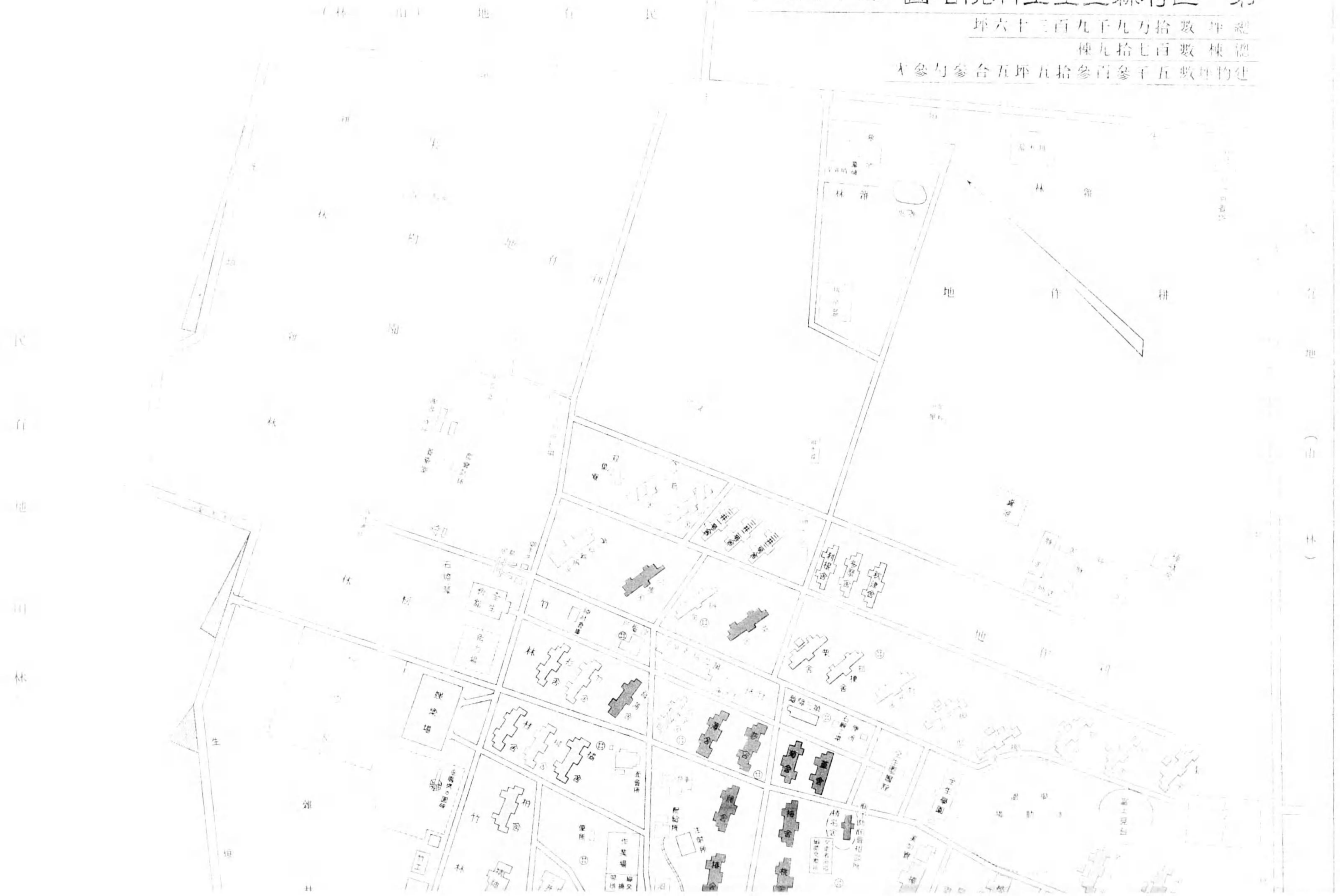


村山村東郡摩多北府京東
(一之分千貳) 圖略院病生全立縣府區一第

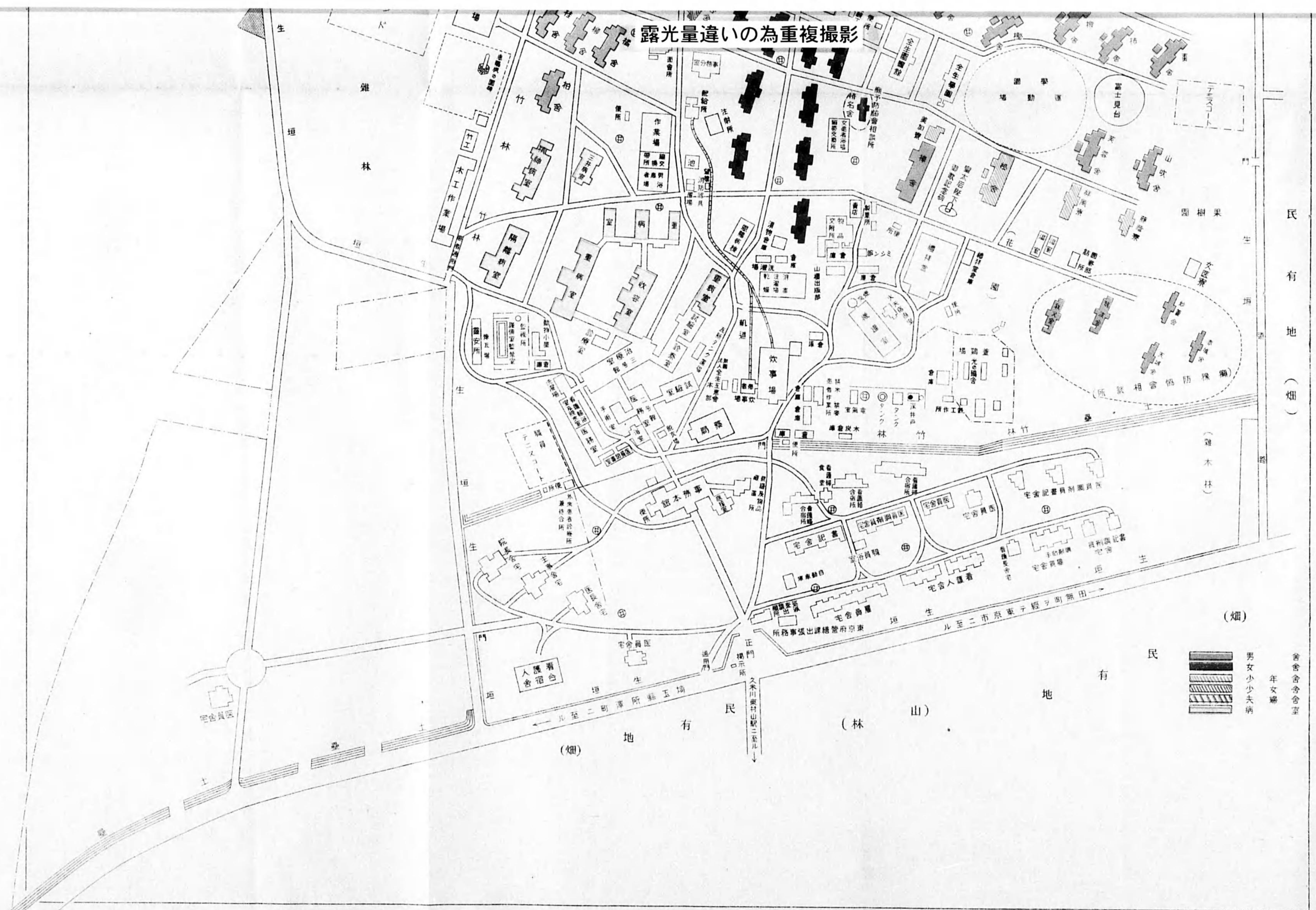
坪六十三百九千九万拾敷坪總

棟九拾七百敷棟總

木參與參合五坪五拾參百參千五敷坪物建



露光量違いの為重複撮影



- 舎舎舎舎室
- 男女少夫病
- 年女婦

民有地(畑)

(畑)

民有地

(林山)

民有地(畑)

舎舎舎

人護看
舎宿合

正門
指示所
久米川東村山駅二至ル

所務事張出課總管府京東

ル至二市京東テ經ヲ町無田

地

有

民

垣

生

垣

生

垣

生

垣

生

垣

生

垣

生

垣

生

垣

生

垣

生

垣

生

垣

生

垣

生

垣

生

垣

生

垣

生

垣

生

垣

生

垣

生

垣

生

垣

生

垣

生

垣

生

垣

生

垣

生

垣

生

垣

生

垣

生

垣

生

垣

生

垣

生

垣

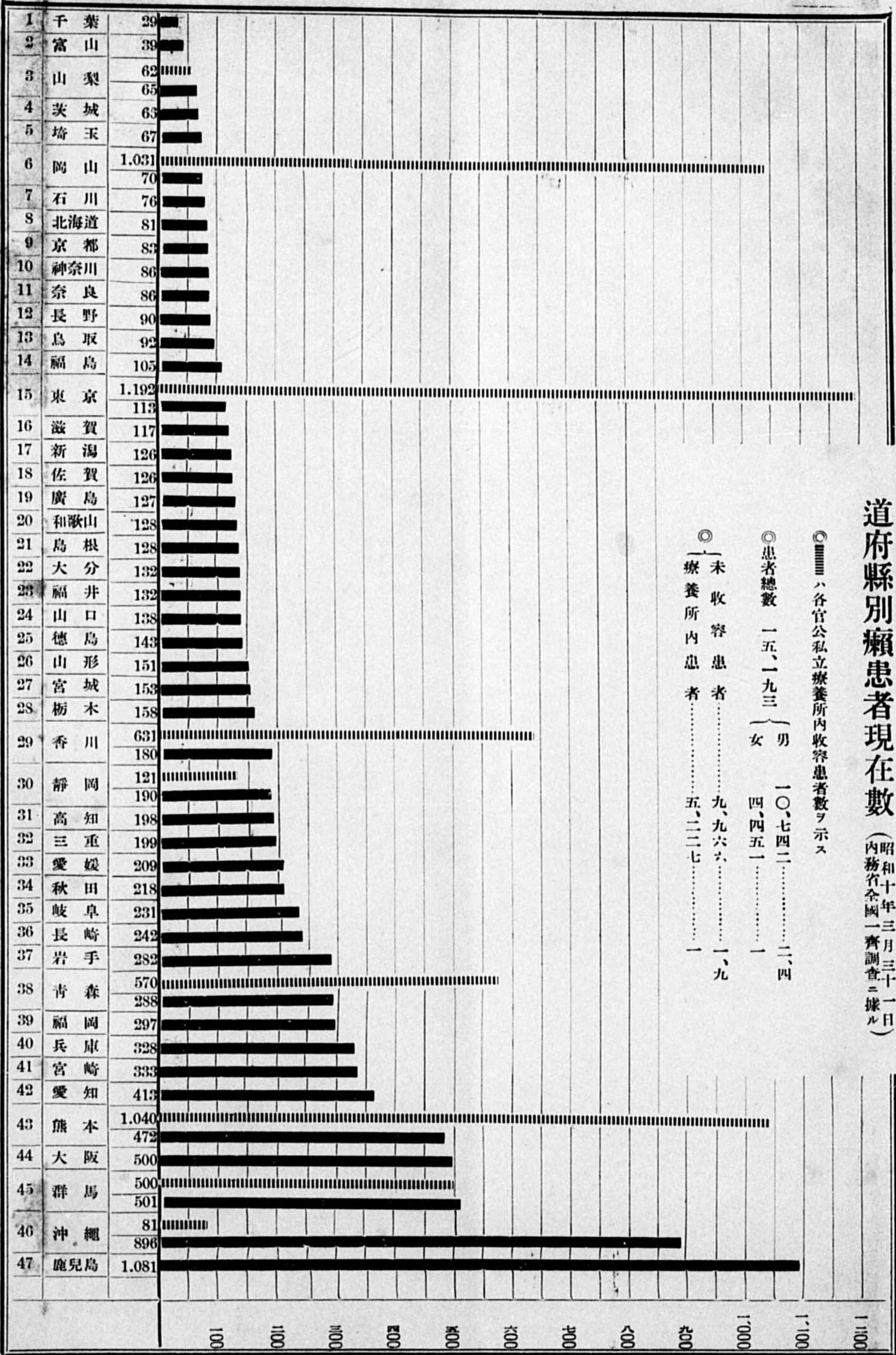
生

露光量違いの為重複撮影



(細)

	道路
	境界
	道路
	境界
	道路
	境界

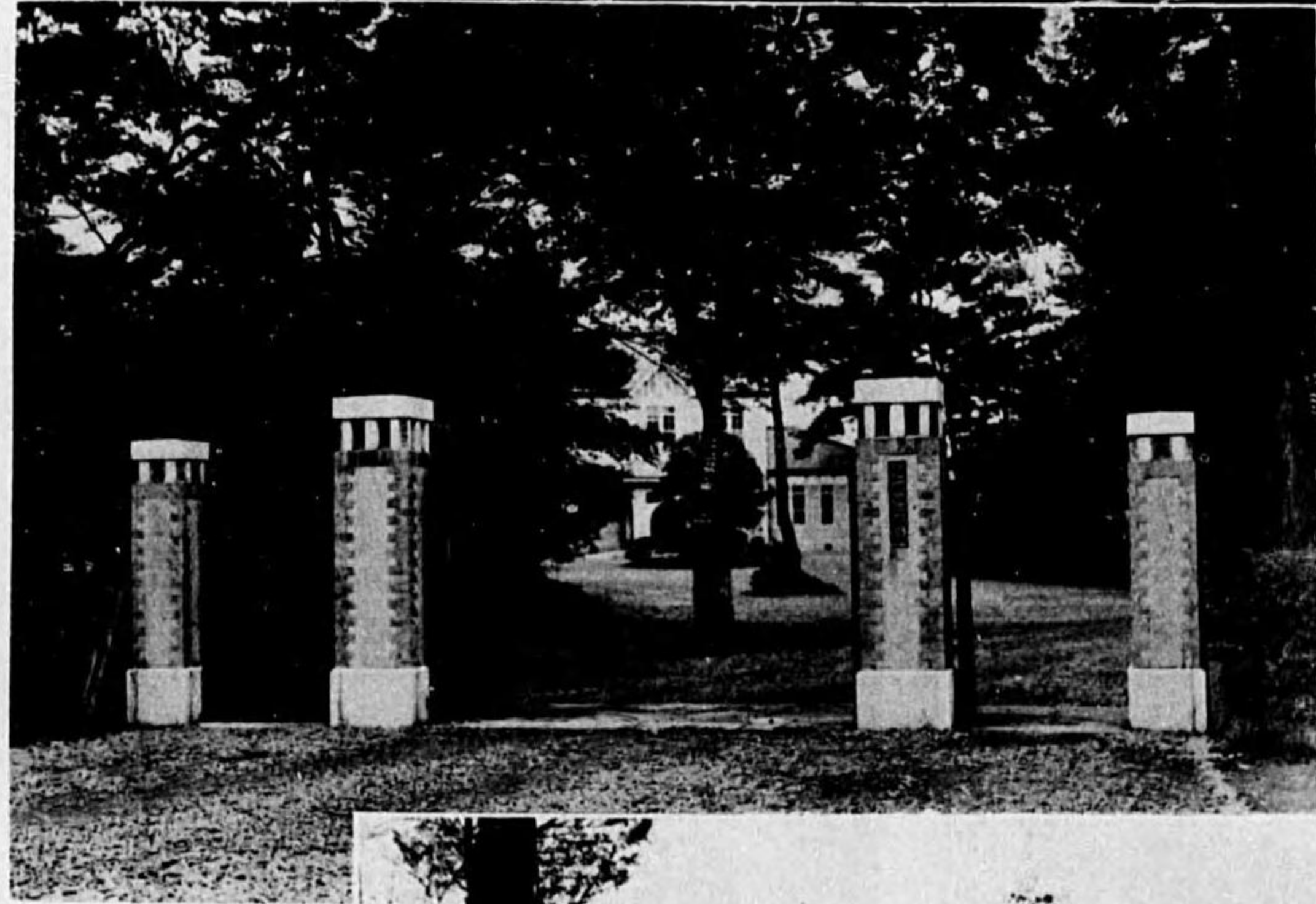


道府縣別癩患者現在數 (昭和十年三月三十一日)

○ 患者總數 一五、一九三
 ● 未收容患者 九、九六六
 ○ 療養所内患者 五、二二七

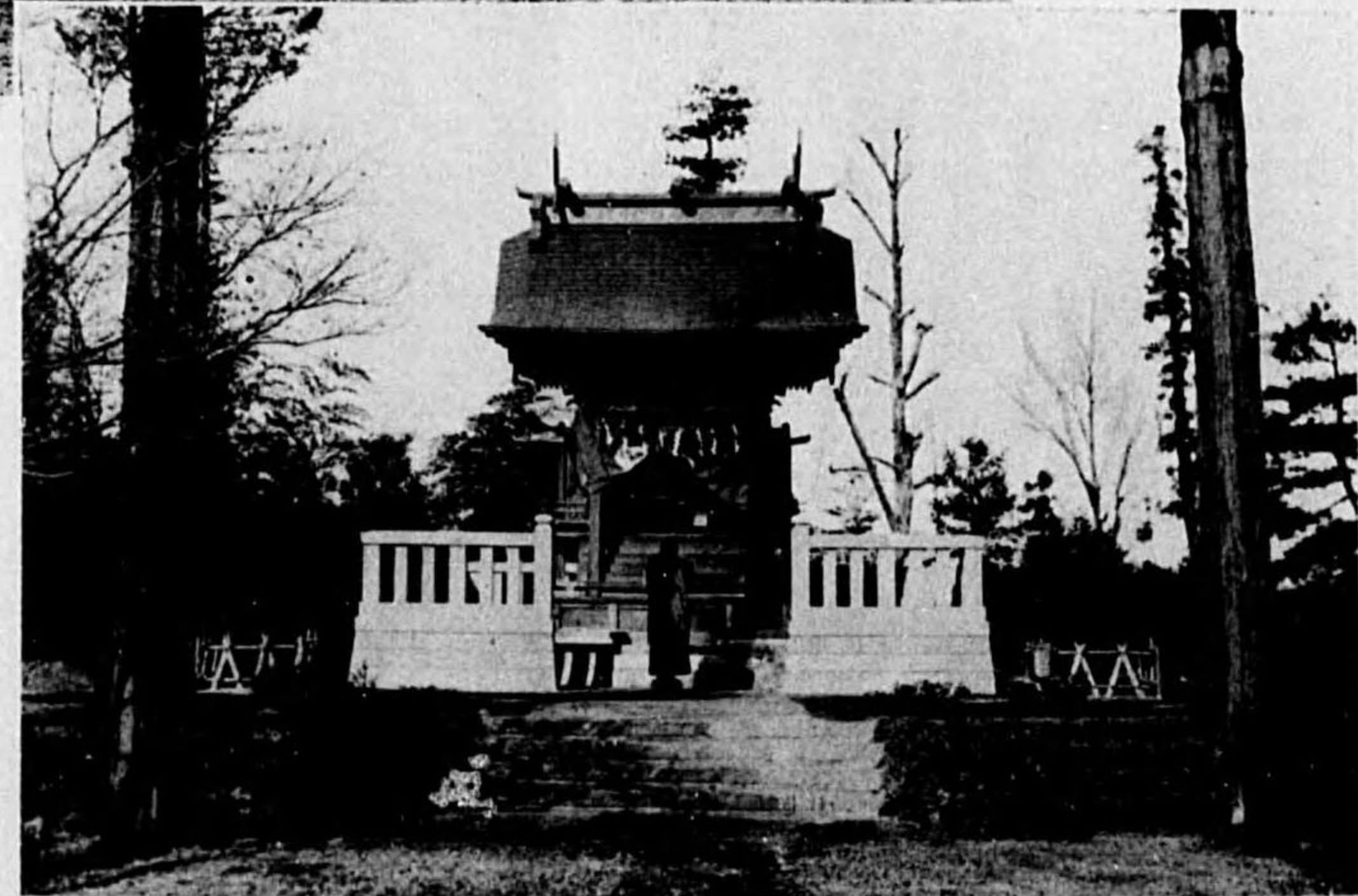


全
景



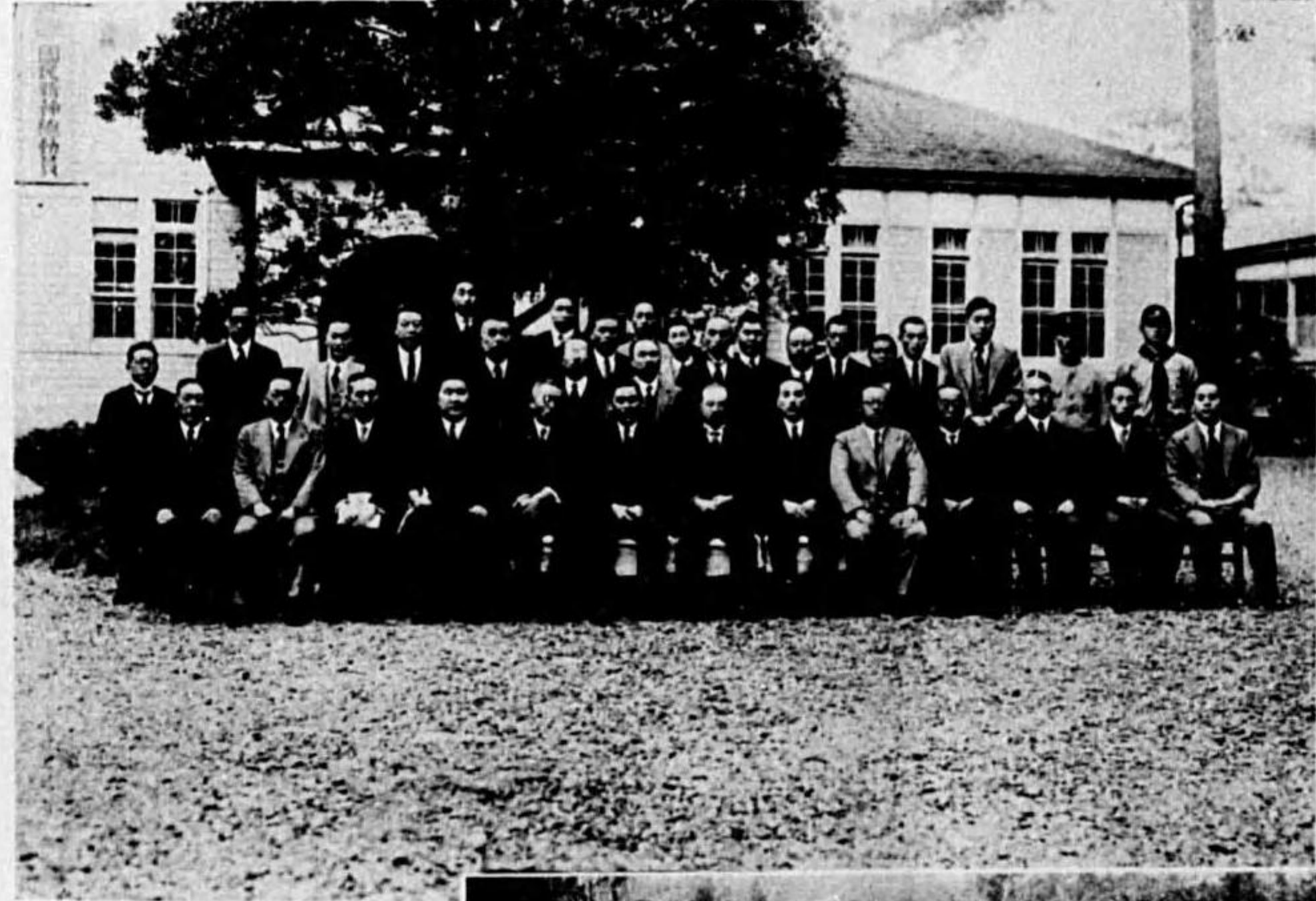
事
務
局

永
代
神
社

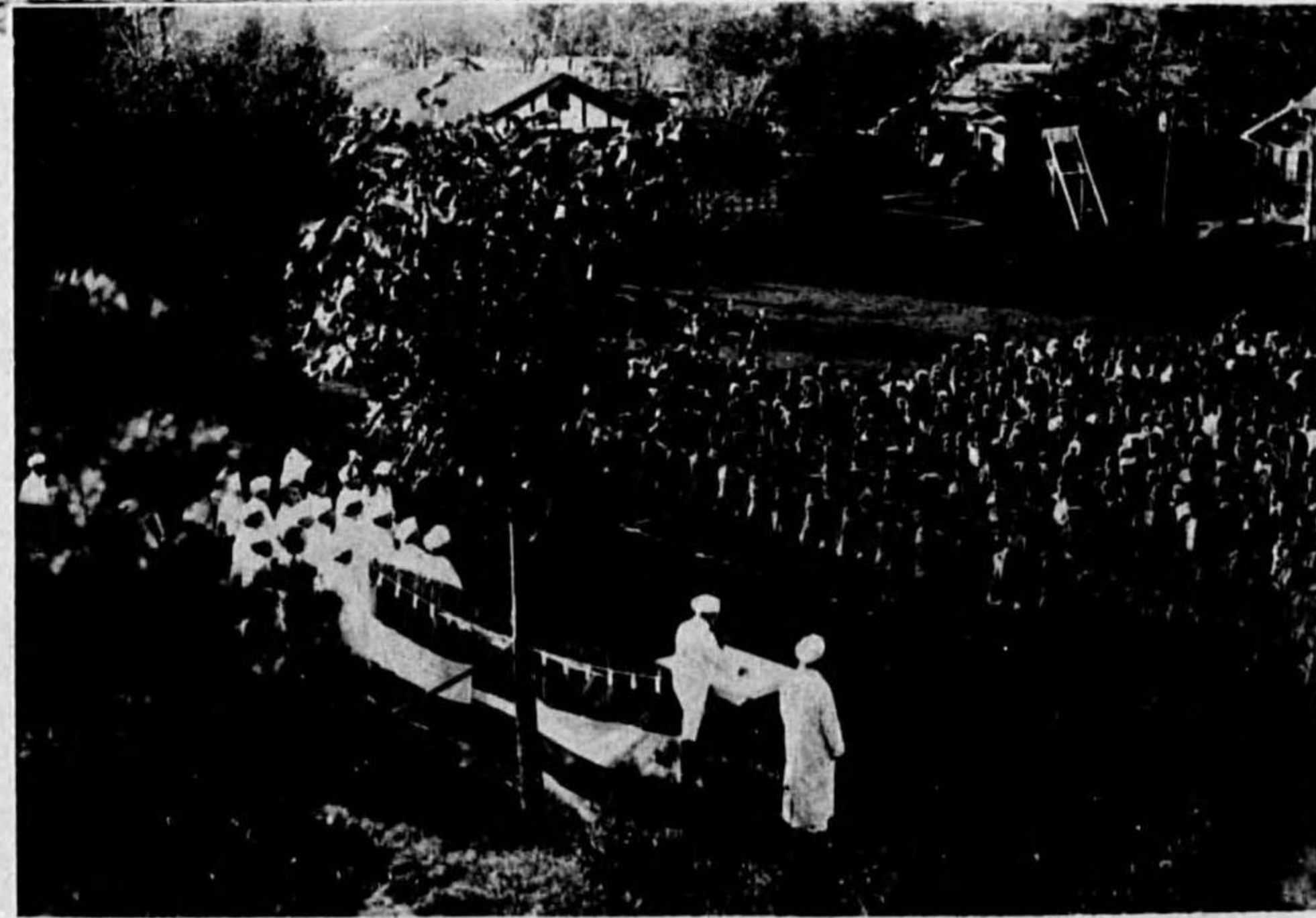




海軍大將男爵鈴木貫太郎閣下一行

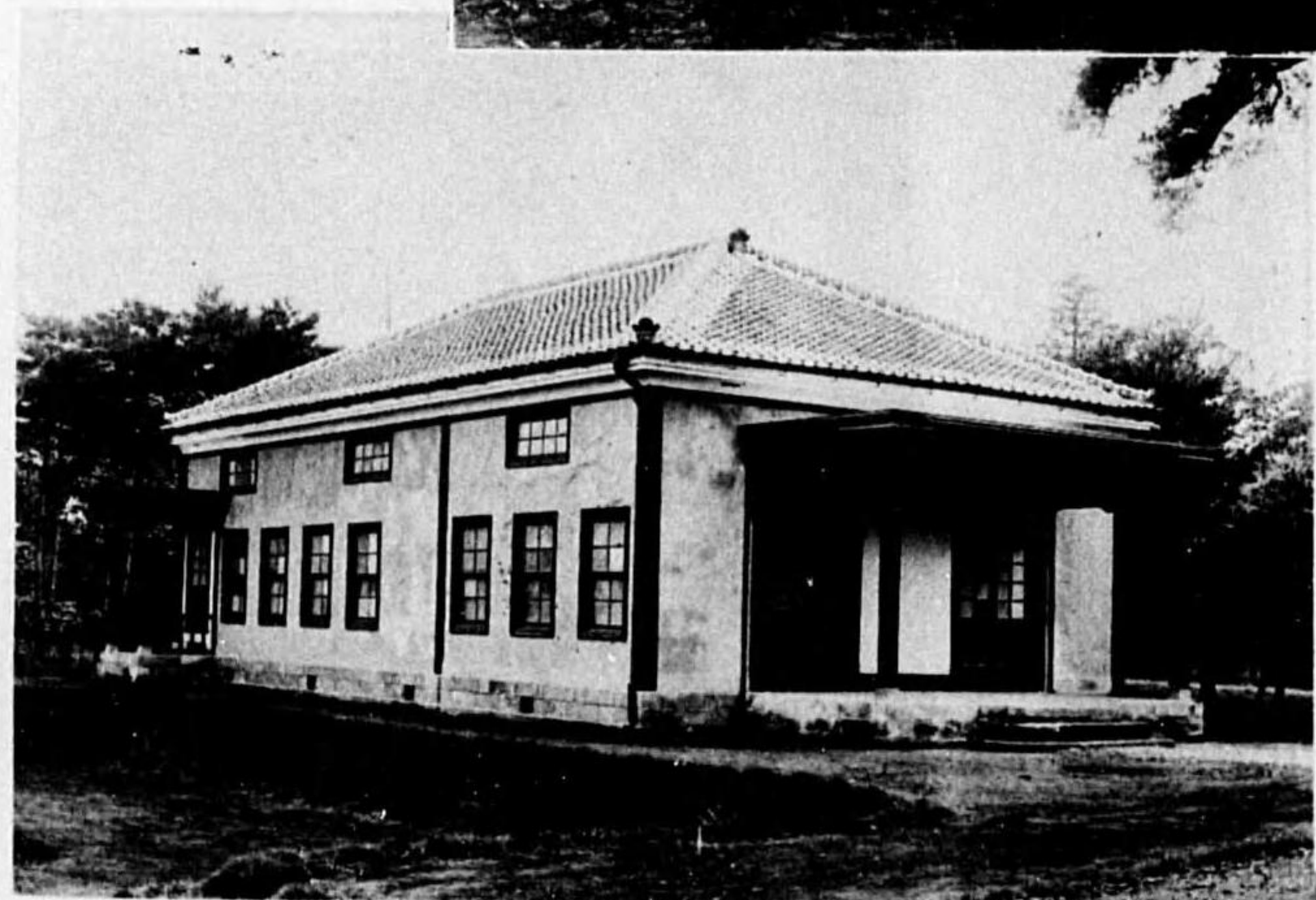


木戸厚生大臣閣下一行

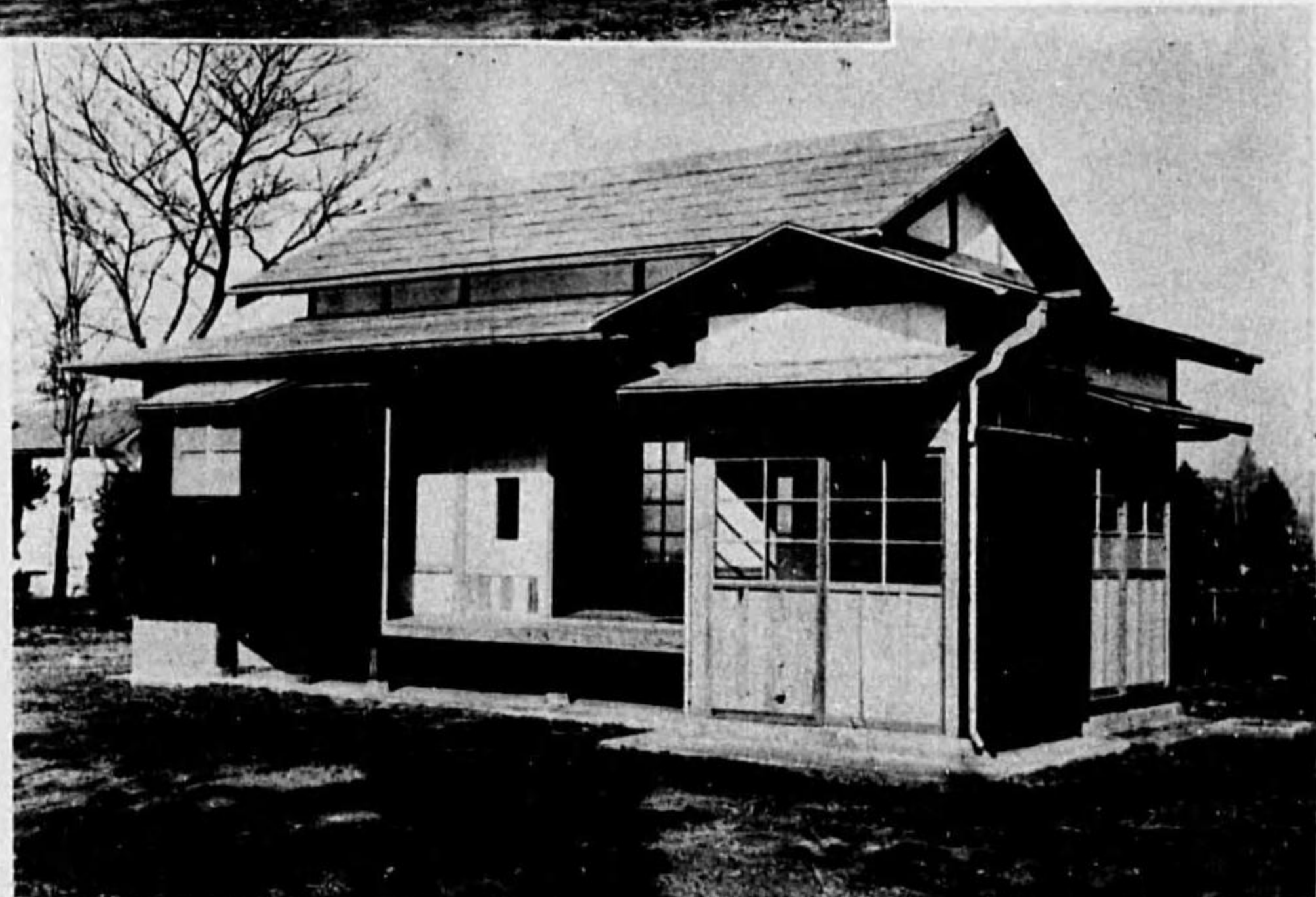


學園グラウンドニ於ケル木戸厚生大臣閣下

恩賜楓の園碑
(十三年一月
十二日竣工)

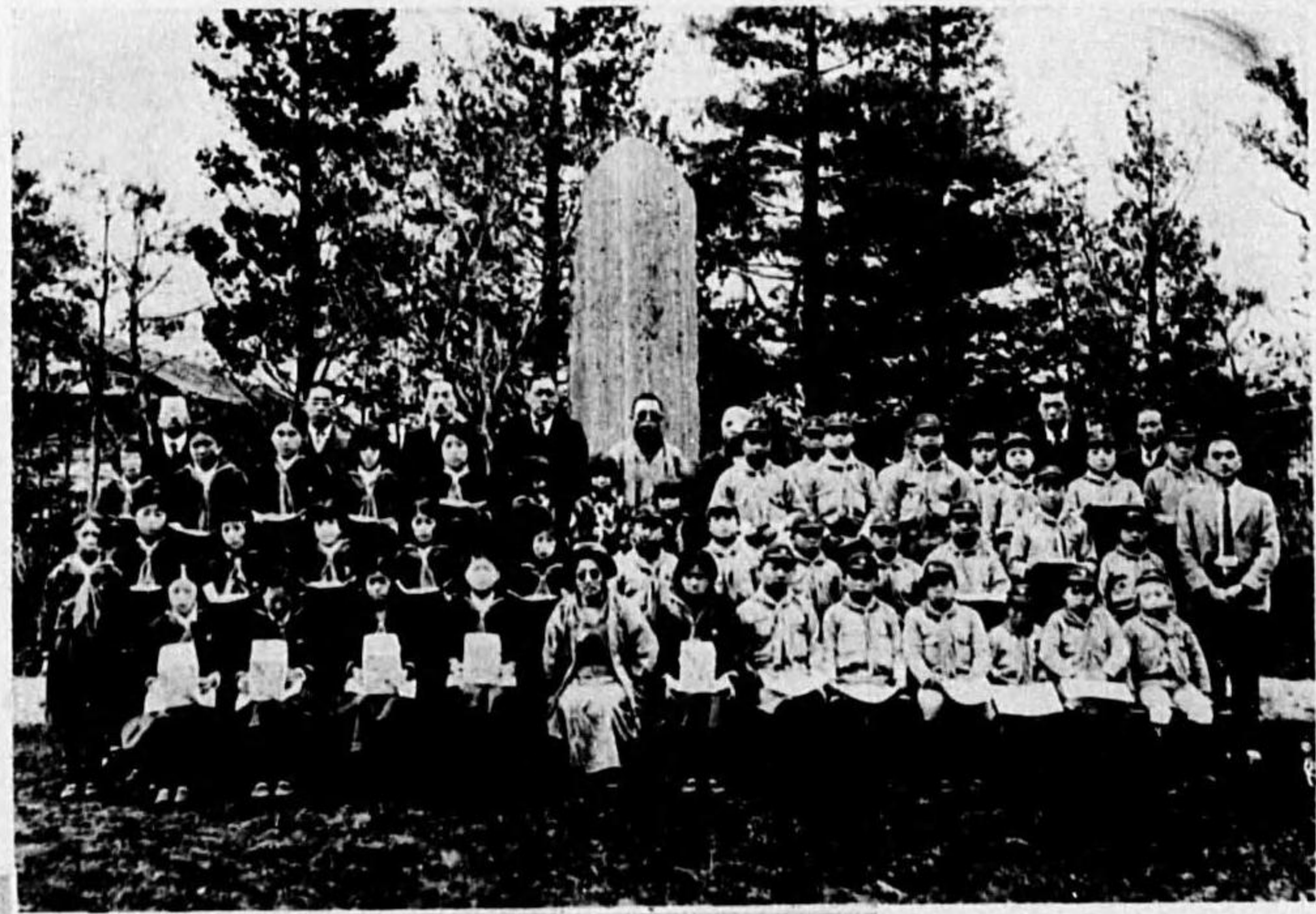


全生會館(宮内省
御下附
舊帝室博物館移築)

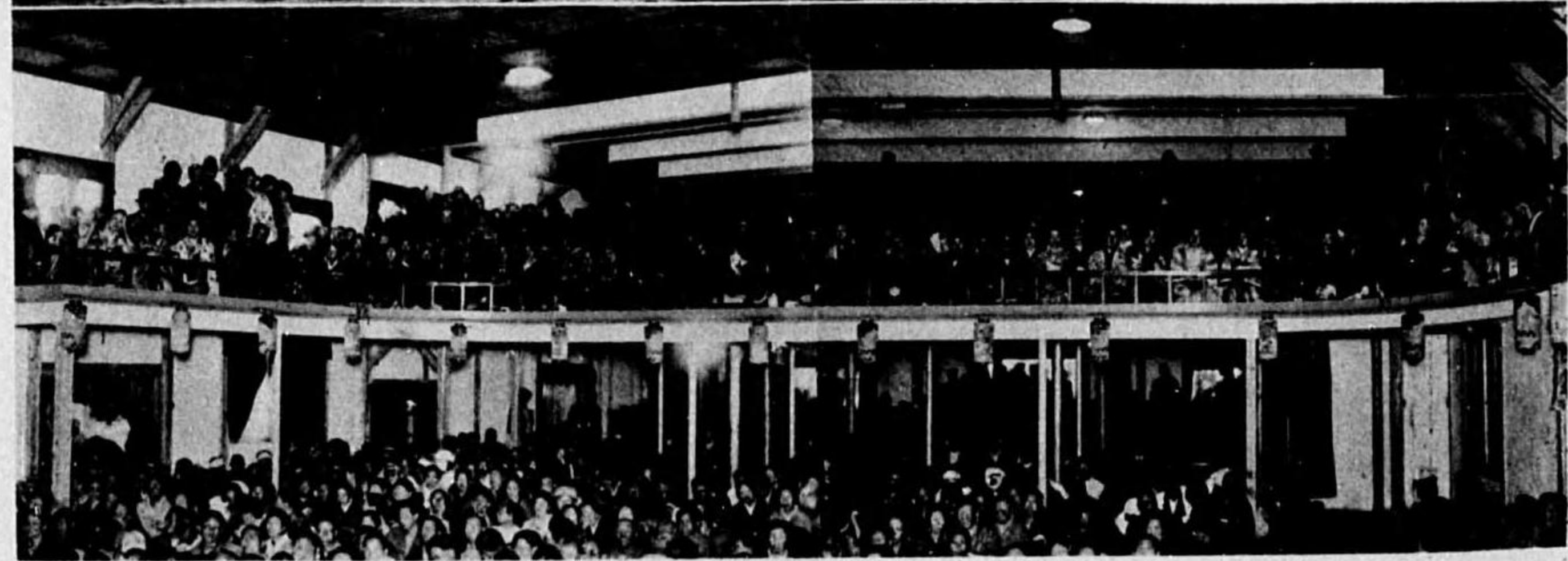


女醫寮(日東女醫會寄贈)

全生學園卒業式

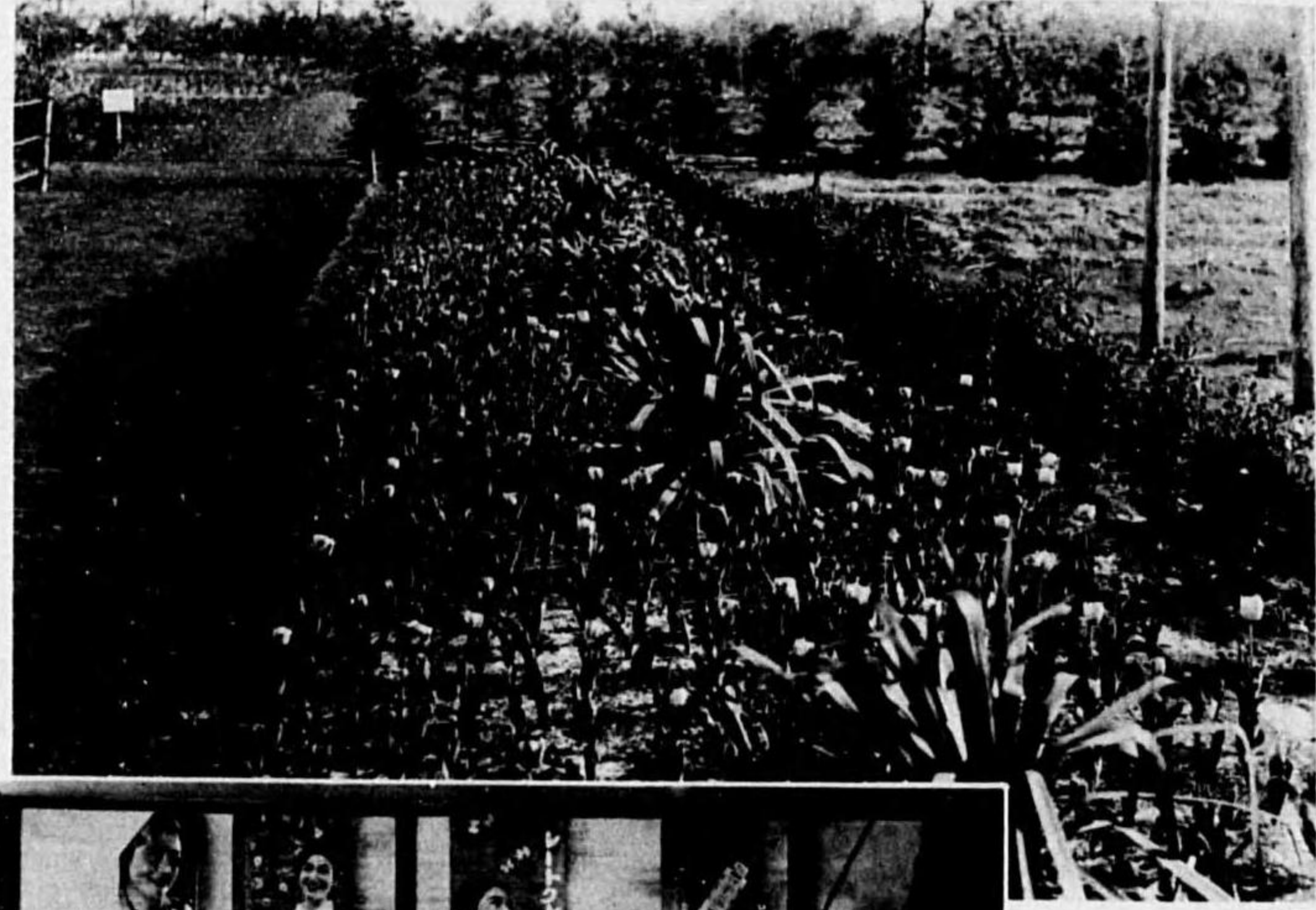


患者ノ演劇

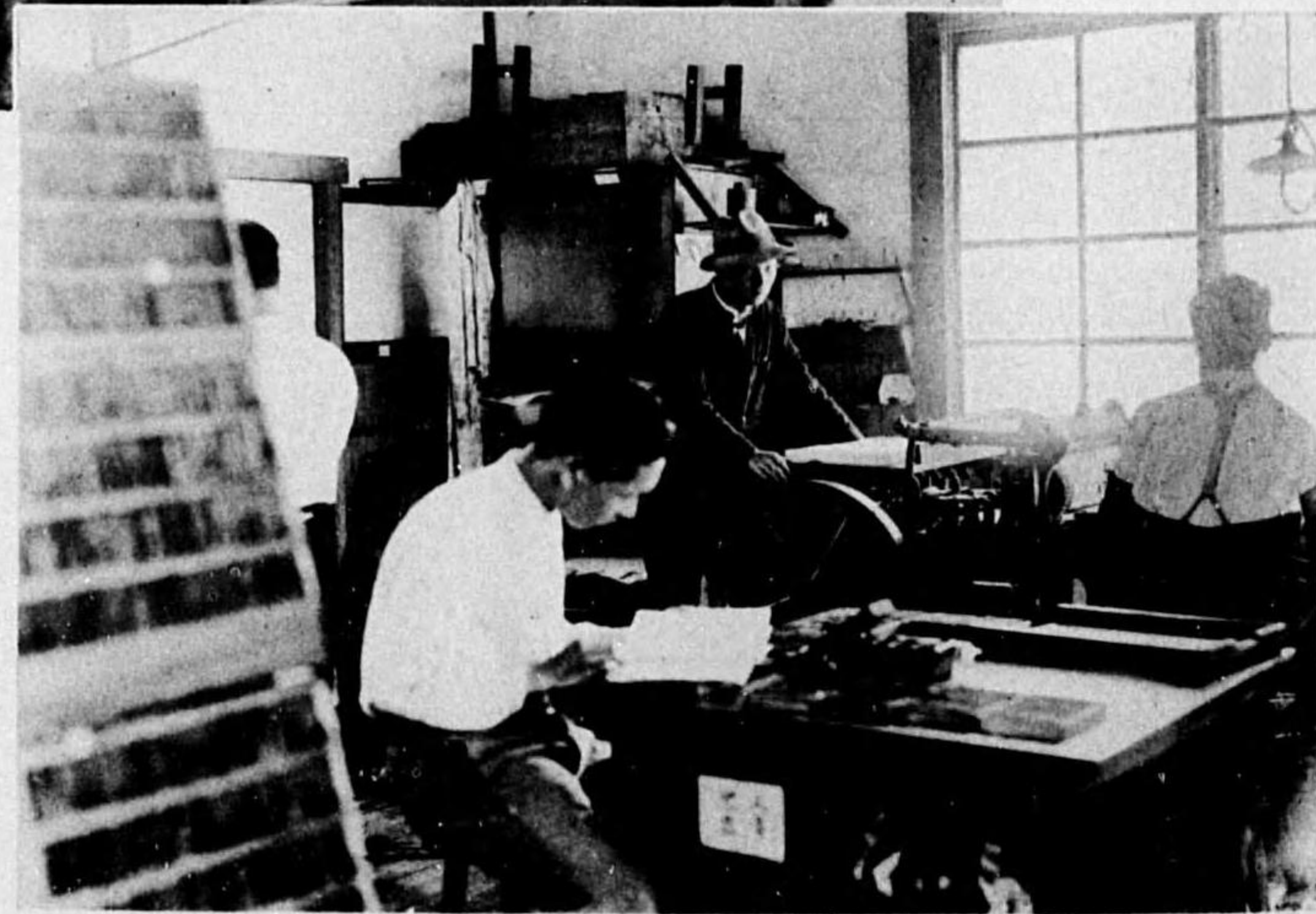


々人ノ村町隣近ル集 = 劇演者患

園藝場(五年中各種ノ草花ヲ栽培ス)

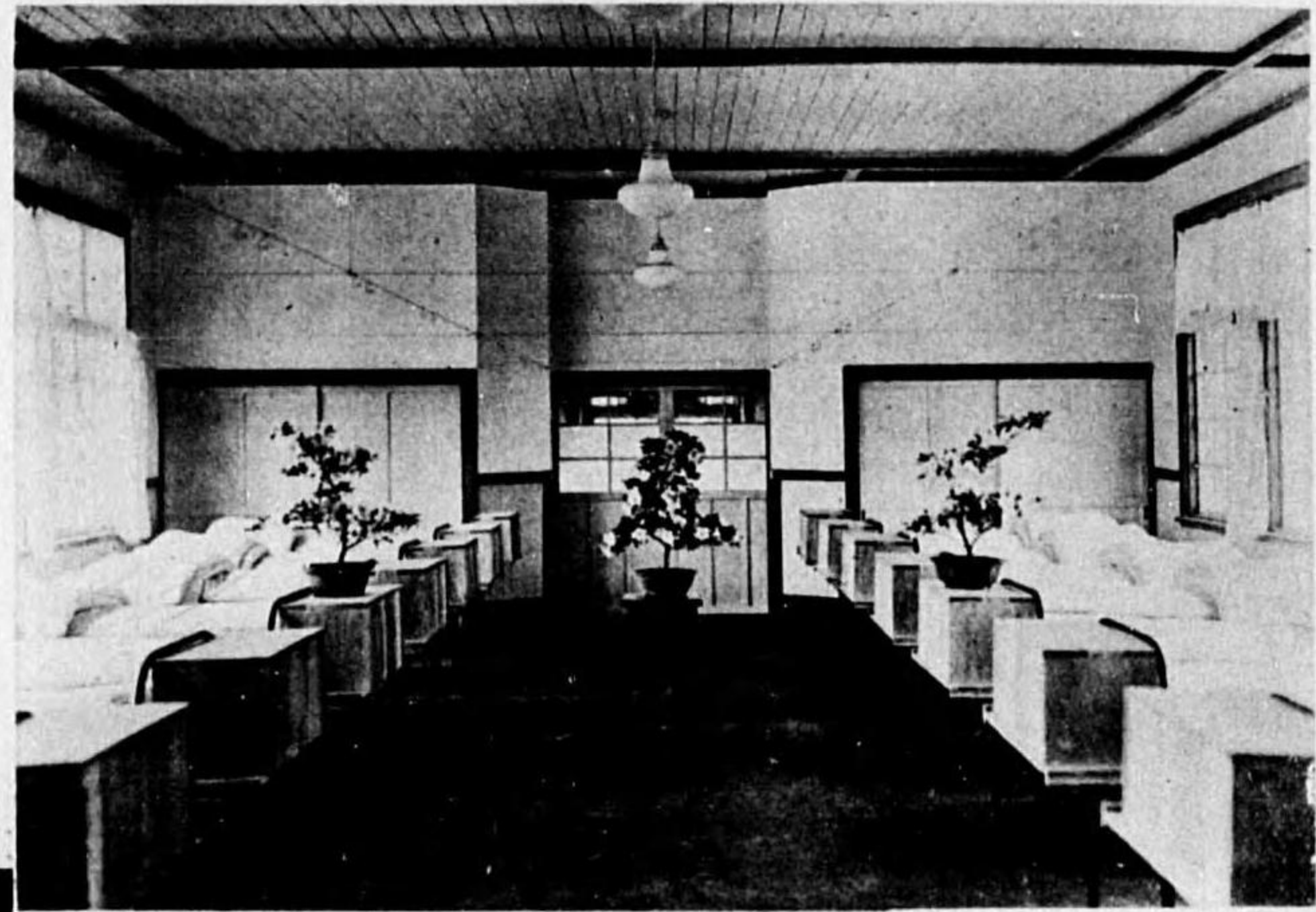


賣店(全生五惠會經營)



出版部(全生五惠會經營)

重症室ノ設備



患者ノ手當



月ケ十療治

前療治

月ケ八療治

前療治

目次

第一 沿革	一
職員異動表	一一
第二 概況	二七
一 敷地	二七
二 建物	二八
三 職員	三一
四 收容患者定員及現在數	三二
五 本年中ニ於ケル重要事項	三三
第三 總經費	三八
一 豫算	三八
二 決算	四〇
三 患者一人當經費	四二
第四 治療	四三
第五 患者ノ狀態	四六
一 衣食	四七
二 慰安及娛樂	五一
三 風紀	五二

四 教育.....五二

五 作業.....五三

第六 統計.....五四

一 收容患者異動表.....五四

二 現在患者本籍地別表.....五七

三 現在患者發病年齡別表.....五七

四 患者發病ノ時ヨリ療養所入所迄ニ至ル經過年數別表.....六〇

五 現在患者病型年齡別表.....六一

六 死亡患者病型年齡別表.....六四

七 死亡患者病名年齡別表.....六五

八 發病以來死亡迄ノ經過年數別表.....六七

九 現在患者發病當時ノ職業別表.....六八

一〇 現在患者前科者調.....七〇

第七 財團法人癩豫防協會相談所狀況.....七一

第八 一時救護所概況.....七一

附 一 院內社會事業團體.....七二

二 關係法令.....七二

第一區府縣立全生病院年報

第一 沿革

開院當初

本院ハ明治四十年法律第十一號ニ基キ同年內務省令第二十號ヲ以テ東京神奈川新潟埼玉群馬千葉茨城栃木愛知靜岡山梨長野ノ一府十一縣ヲ聯合區域ト定メ創設シタルモノニシテ時ノ東京府知事阿部浩ハ療養所所在地ノ故ヲ以テ本院管理知事トシテ明治四十年十月創設費豫算ヲ編製シ聯合府縣ノ各代表者ト會合シテ費用ノ支出分擔方法ヲ議定シタルモ豫防法實施期日改正ノ結果遂ニ實行ヲ見ル能ハサリシヲ以テ明治四十一年三月更ニ之ヲ議定スルニ至レリ

明治四十二年

一 越エテ明治四十二年二月ニ至リ東京市ヲ距ル西方八里十五町所澤町ヲ離ル、東南方約一里田無街道ニ沿ヘル東京府北多摩郡東村山村大字南秋津字開發地内ナル林野三萬七百八坪ヲ敷地ニ選定シ同年四月工ヲ起シ建築ニ著手セリ同月東京府屬大野德太郎ハ本院長事務取扱ヲ命セラレ次テ各醫員調劑員書記等ノ任命アリ同年九月月光田健輔ハ本院醫長ヲ命セラレタリ

- 一 同年九月設備セシ建物左ノ如シ
- 一 號館(事務所) 一棟 六八坪五
- 二 號館(治療所) 一棟 三〇坪
- 三 號館(治療所) 一棟 五四坪
- 試驗室 一棟 一八坪

輕症舎	一棟 四八六坪七五	重症舎	一棟 五〇坪五
隔離病舎	一棟 二七坪五	屍室(解剖室)	一棟 八坪
禮拜堂	一棟 七二坪	浴場(帶交換)	一棟 二五坪
蒸汽機關室(附洗濯場)	一棟 三〇坪	炊事場	一棟 四二坪
職員舎宅	五棟 二四四坪七五	物置	二棟 一五坪
門衛所	一棟 一三坪七五	職員浴室	一棟 五坪
汚物焼却場	一棟 三坪		

一明治四十二年九月二十八日諸般ノ準備略ホ整理ヲ告ケタルヲ以テ開院式ヲ舉行セリ然レトモ其ノ設備未タ全
タカラサルヲ以テ一時東京府荏原郡目黒村私立慰慶園ノ一部ヲ借りテ假收容所ニ充テ其ノ間ノ事務ハ東京府
廳内ニ於テ處辨セラレタリ越エテ十月十八日ニ至リ始メテ本院内ニ於テ事務ヲ開始シ收容患者ヲ移スト同時
ニ聯合府縣ノ遂致ニ係ル患者ヲ順次收容スルニ至レリ

明治四十三年

一三月大野東京府屬ハ院長事務取扱ヲ解カル、ト同時ニ休職千葉縣市原郡長池内才次郎本院長ヲ命セラレ同年
六月院長專務トナレリ
一明治四十三年勅令第三百四十六號癩療養所職員制發布ニ依リ同年十月池内才次郎ハ療養所長ニ任セラル、ト
同時ニ本院長ニ光田健輔ハ療養所醫長ニ任セラル、ト同時ニ本院醫長ヲ命セラレ其ノ他醫員調劑員書記何レ
モ任命セラレタリ
一同年度中ニ於ケル補充設備ノ箇所左ノ如シ
患者作業場兼娛樂所 一棟 八〇坪 特別室 一棟 一六坪二五

裁縫所兼物品藏置所	一棟 二五坪	通用門駐在所	一棟 一坪七五
看護人寄宿所	二棟 三一坪	浴場ノ増築	二ヶ所 一〇坪
機關手及雇員住宅	一棟 六〇坪	隔離病舎看護人控所及浴場	二棟 七坪
藥庫及器具消毒室	一棟 二〇坪	患者共同便所	一棟 一坪
手術室	一棟 九坪	看護人駐在所	一棟 七坪七五

明治四十四年

一本年中ニ於テ補充セシ建物ハ
火葬場 一箇所
此ノ敷地一五〇坪 建坪一二坪ナリ
一明治四十五年度ヨリ患者百五十人増員ノ計畫ヲ立テ増員ニ對スル建築費及救護ニ要スル一切ノ經費豫算ヲ計
上シ聯合府縣協議會ニ提出シタル結果差當リ現在ノ建物ヲ以テ五十人ヲ増員シ明治四十五年四月ヨリ之ヲ實
行スルコト、ナレリ

大正二年

一本年ニ於テ補充設備セシ建造物ハ左ノ如シ
重症舎 一棟 四〇坪 洗濯仕上ケ所兼乾燥室 一棟 一〇坪
物品交附所兼物品藏置所 一棟 一〇坪

大正三年

一二月十九日院長池内才次郎ハ願ニ依リ本職ヲ免セラレ同日醫長光田健輔ハ療養所長ニ補セラレ同時ニ本院長ヲ命セラレタリ

大正四年

一本年度ニ於テハ從來ノ建物ヲ以テ五十人ヲ増員シテ四百人トナスコト、ナリタリ然ルニ大正四年八月ノ豫算協議會ニ於テ聯合府縣當事者ハ御即位ノ大典ニ際シ尙ホ市内各所ニ癩患者ノ浮浪スル者アラムコトヲ慮リ遺憾ナク收容スヘキ決議ヲナシタリ然レトモ如何セン本年度増員ノ爲メ已ニ病舎ノ狹隘ヲ告ケ居ル際ナルヲ以テ十月中ニ四十二坪五合一棟ヲ増設スルノ已ムナキニ至リタルヲ以テ急キ工事ニ著手シ十月末ニ落成セリ依ツテ十一月ノ御大典ノ際ニハ四百二十餘人ヲ收容シ得ルコト、ナリ同年十二月一日ニハ其ノ收容數實ニ四百二十四人ヲ算セリ

同年度設備セシ建築物寢具被服日用器具ノ他ニ炊事場ノ改善ヲ施シ從來ノ薪炭ヲ廢シ鈴木式蒸汽炊事竈六箇ヲ裝置シ床面ノコンクリートヲ撤シテ花崗石トナシ尙一坪五合一増築ヲナシタルニ清潔ニシテ且ツ經濟的ナルノミナラス尙將來ニ向ツテ多少ノ餘裕ヲ存スルヲ得タリ

其ノ他豚小屋五坪ノ増設、生垣二百間ノ新設ヲナセリ

一本院ニ於テハ從來職員退職給與金支給ノ規定ナカリシヲ以テ聯合府縣ノ協議ヲ經テ大正四年度ヨリ施行スルコト、ナレリ

一本院患者墓地ニハ是迄墓石ノ設ケナカリシカ大正五年東京市淺草東本願寺ヨリ墓碑一基ヲ寄附セラレタルヲ以テ七月之レカ建設ニ着手シ九月ニ至リ其ノ落成ヲ告ケタルニヨリ同月二十二日秋季慰靈祭ヲ兼テ除幕式ヲ舉行セリ

大正六年

一本年度ニ於テ從來收容定員四百人ノ外更ニ患者百人増員ノ豫算可決セルヲ以テ増員ニ必要ナル諸建物ノ建築ニ著手シ同年十二月迄ニ左記建物ノ落成ヲ見タリ

- 輕症舎 三棟 一三二坪
- 重症舎 一棟 四〇坪
- 寢具被服物置 一棟 一〇坪
- 更ニ引續キ
- 醫員調劑員舍宅 一棟 三三坪
- 看護人舍宅 一棟 二九坪五
- 看護人寄宿所増築(在來ノ建物ニ建テ繼キ) 六坪

ノ諸建物落成ヲ見タリ

尙此外汽罐室ヲ増築シ蒸汽機關一臺ヲ据付クヘキ豫定ノ處物價騰貴ニ伴ヒ既定豫算ニテハ建築及機關ヲ購入スルコト能ハサルニ依リ止ムナク機關室増築ハ大正七年度ニ延期シ機關一臺ノミヲ購入シタリ

大正七年

一本年度ニ於テ落成シタル建物左ノ如シ

- 汽罐室 一棟 一二坪
 - 消毒用機關室増築(在來ノ建物ニ建テ繼キ) 九坪
 - 豚小屋 一棟 五坪五五
 - 炊事場物置 一棟 一〇坪
 - 醫務室 一棟 二二坪
 - 醫務室附屬渡廊下 五坪
- 一大正八年度ニ於テハ三號館(治療室)ノ模様替ヲ爲シタル外特記スヘキ事項ナシ

大正十年

一本年度ニ落成シタル建物左ノ如シ

製藥消毒兼試驗室
脱衣所

一棟 一六坪
一棟 五坪

物品交附所

一棟 三坪七五

大正十一年

一本年度ヨリ患者百人増員ニ伴フ諸設備ヲ實施センカ爲メ大正十年九月上旬聯合府縣當事者ハ東京府縣ニ會合シ十年度追加豫算建築費拾八萬千四拾四圓初度調辨費金壹萬貳千貳百五拾貳圓九拾五錢ヲ可決セリ依テ先ツ以テ敷地ヲ擴張センカ爲メ現在敷地ニ接續セル東南方山林及畑地二萬三百五十三坪ヲ同年十二月買收セリ然レトモ建築工事ハ時日僅少ナリシカ爲メニ同年度内ニ著手スルノ運ヒニ至ラザリキ

大正十二年

一院長光用健輔ハ内務省ヨリ臨時衛生局事務ヲ囑託セラレ大正十二年七月佛國ニ於テ開催ノ萬國癩會議ニ本邦代表者トシテ出席ヲ命セラレ且東京府ヨリハ佛國へ出張ノ序テヲ以テ歐米各國ニ於ケル癩豫防事務視察ヲ命セラレ同年六月六日渡歐ニ付同月四日院長不在中東京府庶務課長理事官土岐銀次郎ハ院長事務取扱ヲ命セラレタリ

一大正十三年ヨリ患者百五十人増員ニ伴フ諸設備ヲ實施センカ爲メ大正十一年九月聯合府縣當事者東京府廳ニ會合シ十一年度追加豫算建築費八萬參千五百六拾貳圓五拾錢初度調辨費貳萬貳千圓ヲ可決セリ然レトモ建築工事ハ前年度ヨリ繰越工事多ク且時日僅少ナリシヲ以テ同年度内著手ノ運ヒニ至ラスシテ大部分十二年度ニ

繰越シタリ尙患者百五十人増員ニ伴ヒ敷地ノ狹隘ヲ感セルヲ以テ十二年三月現在敷地ニ接續セル東方山林四千六百六十四坪ヲ買收セリ

一大正十二年九月一日午前十一時五十八分關東地方ニ起リタル大震災ノ爲メニ本院ノ蒙リタル被害左ノ如シ

一號館(事務所)二三號館治療所ハ屋根ノ破損及壁ノ墜落甚タシ

藥劑庫及器具消毒室(藥室)ヨリ發火シタルモ直ニ消シ止メタリ原因ハ貯藏藥品ノ顛覆破壊シタルニ由ル

收容患者ハ直ニ院内及庭園中央ニ避難セシメ幸ニ壹名ノ死傷者ナシ

輕症舍禮拜堂並ニ重症舍及新病舍診察室十二年新築ハ屋根ノ破損及壁ノ墜落箇所甚タ多シ

患者作業所兼娛樂所壹棟八拾坪ハ倒潰シ折柄該室内ニ於テ作業中ノ患者六名壓セラレタルモ直ニ匍ヒ出テ事ナキヲ得タリ

井戸水ハ一時白色ニ混濁シタルモ飲料ニ支障ヲ生セス

舊蒸汽機關ハ煉瓦崩壞ノ爲メ使用シ得サルモ他ノ汽罐大正八年建設ノモノニ故障ナカリシヲ以テ辛ウシテ

食料品支給並ニ消毒用ニ使用差支ナキヲ得タリ

建設中ノ汽罐ハ周圍ノ煉瓦ニ龜裂ヲ生シ前方へ突出シ大煙突モ亦中央部ニ龜裂ヲ生シタル箇所アリ

職員舍宅ハ瓦ノ破損壁ノ墜落箇所甚タ多シ

火葬場ハ煉瓦崩壞シ全ク使用ニ堪ヘス

一大正十一年及十二年中落成シタル建物左ノ如シ

(十一年中)

醫務室附屬便所

一棟 一坪

同上 廊下

一棟 一二坪

輕症舍

三棟 一三二坪

(十二年中)

一時收容病室及重病室	一棟	九四坪五	炊事場物置	一棟	一〇坪
同 附屬便所	一廉	一四坪	動物小舎標本置場	一棟	一二坪
同 附屬洗面所	一廉	二坪	火夫宿直室	一棟(三戸)	三〇坪
同 附屬臺所	一廉	三坪	火夫宿直室	一棟	六坪
同 附屬廊下	一廉	九坪五	患者共同便所	二棟	三坪
診察室	一棟	一三坪	看護婦寄宿所増築	一棟	一〇坪
患者面會所	一棟	六坪			

大正十三年

本年中落成シタル建物左ノ如シ

輕症舎	五棟	二二〇坪	醫務室附屬渡廊下	一棟	六坪
汽罐室	一棟	二四坪	洗濯所	一棟	一〇坪
水槽	一基		寢具被服物置	一廉	二坪
監視所	一棟	二坪	患者作業所	一廉	三坪
女患者浴場及繙帶交換所	一棟	三五坪	看護人駐在所増築	一廉	九坪五
醫務室増築	一棟	一六坪五	醫員舎	一棟	一三坪
隔離病舎	一棟	六〇坪	消毒用機關室増築	各一ヶ所	四坪五
炊夫宿直室	一棟	六坪二五	患者食品配給所	一棟	一二坪
渡廊下(普通病室ト收容病室トノ間)	一ヶ所	五坪五	火葬場	一棟	一二坪

大正十四年

一十月東京ニ於テ開催セラレタル極東熱帯醫學會及國際聯盟各國衛生技術官交換會議ニ列席ノ各會議員來院親シク視察ヲ了セラシ

一本年中落成シタル建物ハ左ノ如シ

表 門 鐵筋混凝土造鐵扉付	一基		禮拜堂	一棟	一二八坪
職員浴場増築	五坪				

大正十五年

一六月八日書記横田久ハ癩療養所主事奏任待遇ニ補セラレ同日全生病院主事ヲ命セラシ

一二月九日新禮拜堂ノ開堂式ヲ舉行シ舊禮拜堂ニ安置セル御神體ヲ奉遷シ次テ三月五日ニ眞宗五月二十日ニ日蓮宗六月四日ニ眞言宗ト順次各本尊ヲ新禮拜堂ニ遷シ各本山並ニ宗務院ヨリ高僧ヲ派遣セラレ莊嚴ナル遷佛式ヲ行ヘリ

一十一月十一日午前一時頃輕症舎松舎一號室ノ押入附近ヨリ發火シ同舎一棟四十三坪五合ヲ燒失セルモ患者中一名モ負傷者ヲ出サ、リシハ不幸中ノ幸ナリキ

一本年中新築セル建物
應接所兼參觀人控所 一棟 一二二坪 應接附屬便所並ニ渡廊下 六坪

昭和二年

一患者收容數年々増加スルニ伴ヒ敷地擴張ノ必要ヲ生シ三月中地主ト協議ノ上隣接民有地貳萬五千百六拾參坪

ヲ買収セリ

一 同年中落成ノ建物ハ左ノ通り

- 看護長舎宅 一棟 一六坪五
 - 職員浴場増築 二坪五
 - 雇員及調劑助手舎宅 一棟 三〇坪
 - 重症室改築 四〇坪
 - 輕症舎(盲人舎) 一棟 六一坪一六六
 - 同 廊下 一三坪
- 重症舎ハ開院當時ノ建築ニカ、リ腐朽甚シク到底患者ヲ收容シ得サルヲ以テ患者ノ手ニ依リテ之ヲ改築スルト同時ニ患者炊事場二〇坪ノ新築ヲナシタリ

昭和三年

一 收容患者百五十名増員ノ爲メ左ノ建物ヲ増築セリ

- 重症舎 一棟 一三一坪
 - 醫局及圖書室 一棟 二四坪
 - 同 渡り廊下 一棟 一五坪
 - 醫員調劑員書記舎宅 三棟 四九坪五
 - 輕症舎 五棟 二二〇坪
 - 看護婦寄宿所 増築 一三坪
 - 同 附屬物置 五棟 一〇坪
 - 職員浴場 増築 二坪五
 - 寢具及被服物置 一棟 一五坪
 - 井戸 三ヶ所
 - 炊事場物置 一棟 一五坪
- 一 尙患者ノ手ニヨリ重症舎一棟四〇坪ヲ改築更ニ輕症舎七坪五合ノ増築ヲ行ヒ患者作業場四八坪ノ増築ニ著手セリ

昭和四年

一 本年中落成シタル建物ハ左ノ通り

- 汽罐室 一棟 三九坪
- 看護人駐在所 (移轉模様替) 八坪七五
- 汽罐用井戸ポンプ室 (改築) 六坪
- 同 (増築) 三坪
- 診察室 一棟 四二坪
- 診察室附屬渡り廊下一棟 三坪五
- 試驗室 一棟 二四坪
- 二號館及手術室 (模様替) 四二坪
- 同 附屬渡り廊下 二坪
- 事務所小使室 (増築) 二坪
- 藥庫及製藥消毒兼試驗室増築模様替 六坪七五
- 醫員舎宅浴場 (増築) 一坪五
- 前試驗室 (移轉模様替) 一八坪
- 脫衣所兼浴場 (増築模様替) 一七坪五
- 空氣瓦斯タンク置場 一棟 三坪
- 自動車庫 一棟 一二坪
- 物品交附所兼物品藏置所移轉模様替 一三坪七五
- 看護婦食堂 一棟 一七坪五
- 同 所 (増築) 七坪五

一 右ノ外患者ノ手ニヨリ増築シタルモノハ

- 娛樂室 (増築) 四八坪
 - 繙帶交換所 (模様替) 三五坪
 - 輕症舎 (菊舎増築) 七坪五
- 一 本年中ノ施設トシテ試驗室ノ増築ヲナスト共ニ理化學的療法ノ設備ヲナシ追加豫算ニヨリ排水工事ヲ完成シ又給水方法トシテ深度三五〇尺以上ノ鑿泉ト壓搾タンクヲ新設セリ
- 防火設備ノ爲メ院内ニ火栓ヲ敷設シ又消毒毒物ノ完全ヲ期センカ爲メニ汽罐ノ増設ヲナシ消毒場洗濯場乾燥室等ノ改築ニ著手セリ
- 從來患者ノ輸送ニ際シテハ一方ナラサル不便ヲ感センヲ以テ患者輸送自動車壹輛ヲ購入シ收容ノ際ハ品川赤羽、三河島、八王子、兩國等ノ各驛マテ出向セシムルヲ以テ多大ノ便利ヲ得ルニ至レリ

一本年新ニ消防團少年團少女團等ヲ編成シ制規ノ服裝ヲナシメ輕快ナル動作ニヨリ院内ノ奉仕作業ニ從事セシメ一般患者ノ品性ノ陶冶風紀ノ改善ニ努力セリ

一患者ハ從來其ノ所在ヲ他ニ漏レサル様苦心シ種々偽名ノモトニ家族等ト音信ヲナシ來タリシモ本年新ニ郵便局内ニ私書函ヲ設置シ又送金ヲ便ナラシムル爲メニ病院名ノ記載ヲ省キ特ニ「秋津クラブ」ノ名稱ヲ付シ振替口座ニ加入シタルヲ以テ患者並ニ家族ハ非常ニ喜悅シ安心シテ通信スルニ至レリ

一九月二十八日ハ本院創立滿二十周年ニ相當スルヲ以テ之カ記念式ヲ舉行セリ

昭和五年

一皇太后陛下ニハ夙ニ痼病者ヲ御憐憫畏クモ日々ノ供御並ニ御調度品ヲ御節約遊ハサレ十一月十日 昭憲皇太后陛下ノ御名ニ於テ收容患者慰安ノ爲メ金五千圓ヲ御下賜アラセラレ尙ホ多年本病者ノ救療ニ從事シタル職員ニ對シ金品御下賜ノ恩命アリ十二月六日東京府廳ニ於テ傳達式ヲ舉行セラル其ノ光榮ニ浴シタル者院長光田健輔外十三名ナリ

一收容患者定員ハ九百人ナルモ常ニ千有餘人ヲ收容シ尙ホ聯合府縣ヨリノ申込數常ニ五十名ヲ下ラス直接入院希望者亦益々増加セルヲ以テ八月ノ各府縣協議會ニ於テ來年度ヨリ百人ノ増員ヲ可決シ之ニ伴フ重症舎一棟患者住宅三棟ノ増築ニ著手セリ

一同年中落成シタル建物ハ左ノ通り

- 一 棟 八坪 洗濯場消毒場裁縫場未消
- 一 棟 二階建一棟 七二坪 毒既消毒品置場乾燥室
- 一 棟 六坪 隔離病舎
- 一 棟 六七坪 増築一棟

(増築模様替) 一二坪

昭和六年

一三月十六日院長光田健輔ハ本職ヲ免セラレ國立癩療養所長島愛生園長ニ轉補セラレタルヲ以テ東京府衛生課長輕部修伯院長事務取扱ヲ命セラル五月五日職員林芳信醫長ニ任セラレ同日院長ヲ命セラル、ト同時ニ輕部院長事務取扱其ノ職ヲ解カレタリ

一三月二十五日職員林文雄本職ヲ免セラル、ト同時ニ長島愛生園醫官ニ補セラレタリ其ノ他醫務囑託員職員看護人ニシテ長島愛生園ニ轉シタル者五名アリ

一敷地擴張

一患者増員ニ伴ヒ敷地擴張ノ必要ニ迫ラレ聯合府縣ノ承認ヲ經テ七月現在敷地ノ北方ニ接續セル南秋津宇中原山林九千四百七十三坪ヲ買收シタリ

一定員増加並ニ移動

一三月二十五日患者男女合計八十一名ヲ國立長島愛生園ニ移送シタリ

一本年度ニ於テ收容定員百名増加シ千名トナリタルヲ以テ輕症舎三棟重症舎一棟ノ増築ヲナシ患者ノ補充ニ力ヲ致シ一ケ年間ノ收容數ハ實ニ二百五十名ニ及ヒ年末現在數千九十二名ニ達シタリ如斯多數患者ヲ收容シタルコトハ開院以來未タアラサリキ

一財團法人全生互惠會ノ設立

一畏クモ 皇太后陛下ニハ常ニ痼事業ニ關シ御軫念遊ハサレ昭和五年十一月十日癩患者及ヒ多年本事業ニ從事セル職員ニ對シ御下賜金並ニ御下賜品ノ事アリ本院ニ於テハコノ有難キ思召ヲ記念センカ爲メニ御下賜金ヲ基トシ諸般ノ寄附金收容患者ノ設立ニカ、ル全生賣店農會試作部山櫻出版部互惠部等ノ積立金品ヲ合シ財團法人全生互惠會ヲ設立シ其ノ筋ニ願出タル所四月二十五日付許可セラレタルヲ以テ六月二十六日多數名士ノ

來院ヲ得テ設立祝賀式ヲ舉行セリ
一看護人看護婦講習所設立

看護人ノ採用ニ關シテハ收容患者カ特殊ノ疾病ナルヲ以テ採用ノ困難ナルト共ニ技術取扱等ニ缺クル所アルニヨリ看護學講習設備ノ必要ヲ認メ大正四年八月東京府へ設立ノ申請ヲナシタルモ經費其他ノ關係上許可セラレサリシカ昭和五年十二月十三日再ヒ上申シタルニ同十七日付ニテ許可セラレタルニヨリ同六年一月十五日警視廳へ申請二月二十八日指定セラレタルヲ以テ五月二十九日第一回講習生ノ卒業式ヲ舉行シタリ

一患者教育舎新設

患者教育舎ノ必要ヲ認ムル事多年漸ク本年七十坪二合五勺ノ校舍ヲ新築シタルヲ以テ十一月十三日落成式ヲ兼テ學藝品展覽會ヲ開催セリ集マル所一道二府十二縣臺灣南滿洲加奈陀等ニシテ千三百點ニ及ヘリ
一同年増築シタル建物左ノ如シ

- 輕症舎 三棟 一三二坪四八 教育舎 一棟 七〇坪二五
- 同 物置 三棟 六坪 寢具及被服物置 一棟 二〇坪
- 重症舎 一棟 六〇坪 患者食品配給所 (増築) 二三坪
- 同 附屬渡り廊下 三坪 消防用器具置場及患者控所 一棟 六坪
- 精神病舎 一棟 六〇坪 禮拜堂用便所 一棟 二坪
- 患者食品配給所以下ハ患者ノ手ニヨリ建築シタルモノ 四三〇坪(六四五〇枚)
- 道路敷石

昭和七年

一昨六年十一月財團法人癩豫防協會ヨリ患者相談所二棟ノ建築方ヲ依頼シ來リシヲ以テ東京府ノ許可ヲ得テ患

者作業ニ依リ工事ニ著手シ五月下旬竣工七月一日ヨリ開所シ年末ニハ九名ノ患者ヲ收容セリ尙ホ同協會ヨリ四棟ノ増築方ヲ申シ來リシヲ以テ直ニ工事ニ著手セリ

一藤蔭靜枝嬢寄附ノ輕症舎一棟十八坪五合ハ財團法人全生互惠會ニヨリ工事中ノ處十一月竣工シタルヲ以テ藤蔭寮ト命名シ男年少者ヲ收容セリ

一明治四十二年建設シタル輕症舎十棟ハ腐朽甚タシク到底患者ノ收容不可能ナルヲ以テ本年度内ニ五棟ノ改築ニ着手シタル所三棟百三十二坪五合一勺ノ工事終了セシヲ以テ患者ヲ收容セリ
一本年中増築シタル建物ハ(前記ヲ除ク)左ノ如シ

- 電氣室 一棟 七坪五 外來患者診療所兼待合所 一棟 六坪
- 看護婦浴室及脱衣室 一棟 二九坪二五 配食器消毒所 一棟 七坪五
- 精米精麥患者作業所 一棟 一八坪五 同 渡り廊下 〇坪七五

昭和八年

一運動場開キ 四月十三日豫テ院内北隅ニ工事中ノ運動場竣工ニ付グラウンド開キヲ舉行セリ

一全生相談所輕症舎竣工 昨年建築ニ著手セシ癩豫防協會相談所輕症舎四棟ハ全部竣工セリ而シテ昨年竣工ノ分ト合スレハ六棟一〇三四四坪トナリ年末現在ノ收容患者數二十人内男十四人女六人トナレリ

一御歌記念碑除幕式 畏クモ 皇太后陛下ニハ昭和七年癩患者を慰めて下ノ御兼題ヲ仰出サレ
つれづれの友となりても慰めよ
行くことかたきわれにかはりて

ト御詠シ遊ハサレタリ
本院ニ於テハ其ノ御歌ヲ永ク記念センカ爲寄附金ヲ以テ御歌ヲ刻ミタル御坤德記念碑建設ヲ企テ十一月十日

ソノ竣工ヲ見タルニ依リ入江皇太后宮太夫閣下、鹿兒島宮内省總務課長閣下、大島内務省衛生局長閣下、香坂東京府知事閣下、清閑寺皇太后宮事務官殿始メ其他多數名士御臨場ノ許ニ盛大ナル除幕式ヲ舉行セリ

一 輕症舎改増築 明治四十二年ノ建築ニ係ル輕症舎ハ腐朽甚ク使用困難トナリシヲ以テ昨年度ニ於テ五棟ノ改増ヲ爲セシカ本年ハ残り四棟ト夫婦舎トヲ改築セリ、夫婦舎ハ從來一棟ナリシヲ二棟ト爲シ、其他重症舎一棟ノ増築並ニ看護婦寄宿舍一棟ノ新築ニ着手セリ

一 竣工セシ建物ハ左ノ通り
輕症舎 二棟 (改築) 八八坪三四 同 (夫婦舎) 二棟 (改築) 七〇坪三七

昭和九年

一 永代神社大祭

豫テ慰安會ニ於テ建設中ナリシ永代神社竣工シタルヲ以テ伊勢皇大神宮豐受大神宮明治神宮ノ御三柱ノ御神靈ヲ奉戴シ五月二十二日夜九時ヨリ全職員參列古式ニ則リ遷宮式ヲ舉行シ翌二十三日午後二時半ヨリ大祭ヲ執行セリ

一 楓苗木御下賜

五月二十六日 皇太后陛下ヨリ楓苗木百五十本御下賜ノ御沙汰アリ院長大宮御所ニ伺候拜受シ職員患者一同ニ傳達ノ上院内ニ移植セリ

一 第三區外島保養院患者委託

九月二十一日中國近畿地方ヲ襲ヘル大暴風雨ノ爲メ外島保養院ハ不幸ニモ津浪ノ襲來ヲ受ケ改築殆ント成リテ十一月移轉スルノ豫定ナリシ主要建物及舊建物全部潰滅ニ歸シタルヲ以テ生存患者ヲ全國各療養所ニ委託スルコトトナリ本院ハ九月二十七日五拾名、十月九日二十名合計七拾名ノ患者ヲ受託收容セリ

一 第一號館其他ノ改増築

明治四十四年ノ建築ニカ、ル事務所ハ狹隘且ツ腐朽セシ處本年度ニ於テ新築工成リ從來ノ面目ハ一新セラレタリ更ニ昨年ヨリ引續キ改増築中ナリシ看護婦寄宿舍一棟増築輕症舎三棟改築一八全部竣工セリ

一 寄附ヲ受ケタル建物

一 神社 本院患者慰安會事業トシテ患者ノ手ニヨリ建築中ナリシ神社一棟一坪家根銅板神明造リハ五月ヲ以テ全部落成セシヲ以テ同會ハ之ヲ本院ニ寄附シタリ

一 輕症舎 東京市本郷區駒込東片町宇都野研氏ヨリノ指定寄附ニ依リ院内財團全生五惠會ニ於テ建築中ナリシ輕症舎一棟二十二坪二合五勺ハ七月ヲ以テ竣工セシニ依リ其ノ一切ト共ニ同月二十五日之ヲ本院ニ引繼カレタリ

一 本年中ニ竣工シタル建物左ノ通り

一 輕症舎	二棟 (改)	八八坪三四	一本館事務所	一棟 (新二階建)	一二六坪九
一同	一棟 (新)	四四坪	一 附屬便所	一棟 (新)	三坪七五
一 看護婦寄宿舍	一棟 (新)	二八坪	一 附屬渡廊下	三棟	三七坪六

昭和十年

一 皇室ノ御仁慈

一月十八日 皇太后陛下ノ御思召ニ依リ院長ハ全國各官公立癩療養所長ト共ニ大宮御所ヘ伺候 陛下ニ單獨拜謁仰付ラレ午餐ヲ賜ハル而シテ其際拜受セル鶏卵ヲ本院ニ於テ孵化シタルニ牡一牝二羽ノ雛孵リタルヲ以テ院内ニ光の鶏舎ヲ築キテ飼育セシニ年末ニ至リ十八羽ノ雛ヲ増加セリ

二月十一日 皇太后陛下ノ重ネ々々ノ有難キ御沙汰ヲ拜シ院長ハ大宮御所ニ伺候院内施設ノ改善擴張費トシ

テ御下賜金ヲ拜受シタリ

一 永代神社大鳥居ノ建設

本院永代神社大鳥居花崗岩ハ特志家並職員患者ノ寄附金ヲ以テ建設スルコト、ナリ五月十五日東村山水川神社武内社掌ヲ聘シ地鎮祭ヲ執行シ同月二十一日御手洗花崗岩ト共ニ工事落成セリ

一 納骨堂除幕式

本院多年ノ宿願タリシ患者ノ遺骨ヲ收藏スヘキ納骨堂ノ建設ハ昨年京都大谷派本願寺同内侍局東京築地本願寺曹洞宗宗務院日蓮宗宗務院眞言宗豊山派宗務院同智山派宗務院淨土宗宗務院淺草淺草寺等ノ各宗門並ニ特志家ノ援助ヲ受ケ更ニ本院職員患者ノ寄附金ヲ合セテ財源トシ九年八月工ヲ起シテ以來約一箇年ノ歳月ト二千二百餘圓ノ工費延人員三千四百四十二人ノ患者ノ作業トヲ以テ漸ク竣工セシニ依リ六月十九日京都東本願寺御連枝信正院殿殿下同淺草別院沼波輪番西本願寺東京築地別院岡部輪番曹洞宗教學部長來馬琢道師外多數高僧臨場本院囑託和光堅正師司式ノ許ニ莊嚴ナル佛式ヲ以テ除幕式ヲ舉行微妙ナル奏樂裡ニ院長、主事堂前ニ進ミ除幕ヲ行ヘハ東本願寺法主親下御染筆ノ「俱會一處」ノ金文字燦然トシテ輝キ一同暫時默禱ヲ捧ケリ之ヨリ信正院殿殿下大導師トシテ法要ヲ嚴修セラレ院長ノ謝辭、主事ノ工事報告ヲ終リ内務省衛生局長、東京府知事曹洞宗來馬教學部長其他來賓ノ祝辭アリ最後ニ信正院殿殿下代理沼波僧正ノ一場ノ挨拶アリテ此ノ歴史的式典ヲ終了セリ

一 本年中ニ於ケル竣工建物

一 納骨堂一棟 四坪 慰安會ニ於テ建設ノ上本院ニ寄附シタリ

一 三井重輕症舎 昨年十月法財團三井報恩會ノ依頼ヲ受ケ本院内法財團全生互惠會ニテ建設中ノ左記病舎全部竣工セリ

重症舎 一棟 六〇坪 輕症舎 三棟 (二棟四五坪) 一三五坪

事務分室 一棟 二階建 (新) 三二坪二五 書記調劑員舎宅 二棟 平屋建 (新) 三二坪

醫員舎宅 一棟 平屋建 (新) 二〇坪 輕症舎 二棟 平屋建 (新) 八八坪三四

一 其他 昭和十年年度豫算ヲ以テ建築セラルヘキ炊事場圖書室兼集會所診療室ノ改増築ノ外貯水池ハ目下工事中ナリ

昭和十一年

一 舊帝室博物館建物下附

二月三日 院長、主事宮内省へ出向東京府輕部衛生課長立會ノ上、上野舊帝室博物館事務所外四百五拾餘坪ノ下附書ヲ拜受シ二月十日諸般ノ準備ヲ整ヘ其ノ取壊シニ着手シ三月十五日ヲ以テ全部ノカ運搬ヲ完了セリ

一月二十四日 入江皇太后宮大夫閣下ヲ通シ益田孝氏外八氏ヨリ金壹萬貳千圓也ノ移築費指定寄附金ヲ以テ本用材ヲ使用シ本院ニ於テ急施ヲ要ス可キ患者注射所外七棟ノ建築計畫ヲ樹テ三月十九日ヨリ全生會館患者注射所患者理髮所ノ建築ニ着手セリ

一 永代神社石燈籠ノ建設

本院永代神社石燈籠壹對ハ職員並ニ患者ノ寄附ヲ以テ建設シ五月二十二日竣工セリ

一 北部保養院火災

十月二十二日 此ノ日北部保養院火災全滅ノ電報ニ接シタルヲ以テ直ニ内務省ニ照會シ緊急職員會ヲ開キ速時救護班ヲ組織シ應急處置ニ要スル醫療材料並ニ藥品等ヲ携帶現地ニ急行セシムル一方職員ヲシテ罹災患者ニ送ルヘキ寢具被服百人分ノ荷造ヲナサシメ即日東京秋葉原驛發ニテ輸送シタリ

一 全生圖書館開館式

昨年末ヨリ患者ノ手ニ依リ建築中ノ全生圖書館ハ四月工事竣工シタルモ尙内部ノ設備其他ニ日時ヲ要セシヲ

以テ十一月舊圖書館ヲ此處ニ移轉シ十二月十五日開館式ヲ舉行シ併テ本院學園兒童學藝品展覽會ヲ開催シタルニ近隣町村小學校ヨリ七百餘點ノ出品アリ頗ル盛會ナリキ來賓トシテ中山田無警察署長榎本本村長小池本村小學校長他近隣小學校長並ニ教職員等多數臨席セラレタリ

一時救護所ノ開設

財團三井報恩會ヨリ寄附ノ重症症舎初度調辨設備ヲ含ムヲ一時救護所ニ充ツルコトト爲シ聯合府縣並ニ警視廳ト協議シ七月之カ開設ヲ見タリ

一本年中竣工若クハ寄附ヲ受ケタル建物

イ、竣工建物

- 炊事場 (新) 一棟 六六坪五 看護婦寄宿舎 (増) 一棟 一五坪
- 治療室 (増) 一棟 二一坪 貯水池 (増) 一箇所 三三〇石
- 醫局洗濯所 (新) 一棟 一六坪 事務所小使室附屬物置 (新) 一棟 八坪
- 渡廊下 (同) 一〇坪 全生圖書館 (同) 一棟 四五坪五
- 職員手洗及消毒所 (同) 一坪八 重症舎附屬浴場(九號) (増) 一棟 二坪二五
- 昇降口 (同) 一棟 〇坪九 同 渡廊下 一坪

ロ、寄附建物

一本院内財團全生互惠會ニ於テ建築セル財團三井報恩會ノ建物左記四棟ハ全部本院ニ寄附セラレ八月十二日之カ引繼ヲ受ケタリ

- 重症舎 一棟 六〇坪 初度調辨設備一式 (百人分) 四〇〇圓
- 輕症舎 三棟 一三五坪

一三井物産株式會社員久山寅一郎氏外三〇三名ノ寄附ヲ以テ本院慰安會ニ於テ建築セル左記建物本院ニ寄附セ

ラレ八月三十一日之カ引繼ヲ受ケタリ

- 輕症舎 一棟 木造瓦葺平家建

一一坪五

昭和十二年

一恩賜病棟落成式

皇太后陛下ノ御下賜金ヲ拜受シ御思召ヲ以テ重症病棟一棟ヲ建築スルコト、爲シ七月二十八日嚴カニ地鎮祭ヲ執行シ爾來御仁慈ニ感激セル患者ノ手ニ依リ工事ヲ進メ竣工シタルヲ以テ十一月十日神官ヲ聘シ落成式ヲ舉行此ノ日藤間皇太后宮屬高野内務省豫防課長多湖東京府學務部長岡府立清瀬病院長武崎府立靜和園長小池木村化成小學校長警視廳田無警察署員私立慰廢園主和田秀豐氏等多數來賓ノ貴臨ヲ恭フシ祝辭祝電ヲ賜ハリタリ

一永代神社玉垣建設

本院職員患者ノ寄附金五百八拾餘圓及豫テ宮内省御下付ノ舊帝室博物館礎石ヲ以テ工事中ノ永代神社玉垣ハ御惠ノ日即チ十一月十日ヲ以テ竣工シタリ

一全生劇場建設披露

昭和十一年度豫算ヲ以テ建築セル劇場ハ其ノ年度末ニ於テ竣工シタルニ依リ三月二十九日職員有志主催ノ患者慰安演劇大會ヲ催シ讀イテ四月六日東京中村歌扇阪東市太郎丈合同大一座ノ歌舞伎演劇ヲ開催シテ劇場ノ新築披露ヲナセリ

一本年中竣工若クハ寄附ヲ受ケタル建物

イ、竣工建物

- 恩賜病棟 一棟 五七坪五 藥局 一棟 七〇坪五

同	一〇月一日	同(明治四四年九月四日死亡)	調劑員兼醫員	齋藤利一
同	一〇月一日	同(明治四四年一月一五日休職)	書記	佐々木哲助
同	一〇月一日	同	同	石井綱條
同	一〇月一日	同	同	工藤理助
同	一〇月一日	同	同	清水富一
同	一〇月二日	同	調劑員兼醫員	八角六一郎
同	九月二日	大正二年五月一日轉職	同	高橋幸之助
同	九月二日	大正二年五月一日轉職	書記	吉野熊次郎
大正二年	五月一日	同	書記兼醫員	高橋幸之助
同	六月二七日	大正七年一〇月九日休職 同八年五月二三日復職	調劑員	杉山銀次郎
同	七月一六日	同	書記	安藤三太郎
同	一一月四日	大正九年四月一九日轉職	醫員	石川又藏
大正三年	二月一九日	長島愛生團長ニ轉セラル	院長兼療養所長	光田健輔
同	五月一三日	大正九年四月一九日轉職	醫員	林芳信
同	五月一八日	同	書記	毛涯鴻
同	六月二九日	大正一五年六月八日轉職	同	横田久
同	一〇月一五日	同	同	河本久米太郎
同	一〇月三〇日	同	醫員	森岡雄太郎
同	九月八日	大正一三年二月五月死亡	書記	市川章之助
同	九月八日	同	同	遠藤作次

同	七年九月三日	大正九年四月一九日轉職	醫員	服部鐵太郎
同	九年四月一九日	同	療養所醫員	石川又藏
同	四月一九日	昭和六年五月五日轉職	同	林芳信
同	四月一九日	同	書記	服部鐵太郎
同	五月四日	同	同	内藤直樹
同	一〇年二月一日	同	醫員	坂主鐵太郎
同	二月一日	同	調劑員	三上太一郎
同	八月二〇日	同	療養所醫員	川上左右須計
同	八月二四日	大正一四年一月一九日轉職	醫員	香澤貫一郎
同	一一月一九日	昭和二年三月五日 外島保養院醫員ニ補セラル	療養所醫員	櫻井方策
同	一一月二〇日	同	調劑員	齋藤勝助
同	一一月二六日	院長不在中 東京府理事官庶務課長	院長事務取扱	士岐銀次郎
同	一三年一月二二日	同	調劑員	本莊平治
同	七月三十一日	同	看護婦長	石渡六と
同	九月一二日	同	看護長	後澤長四郎
同	一〇月一日	同	書記	伊藤菊司
同	一一月三〇日	昭和五年一月二四日轉職	醫員	渡邊源次郎
同	一四年一月一九日	同	療養所醫員	香澤貫一郎
同	四月二三日	同	同	許田榮
同	六月五日	同	同	同

同	八月一日		書	記	海老澤五郎
同	一〇月三〇日	昭和五年一月二十四日轉職	醫	員	西原ツボミ
同	十一月三〇日		書	記	望月隆三
同	十二月三日		同		大熊卯之吉
同	一五年六月八日		同		横田久
同	七月二十二日	昭和七年一月二十五日轉職	醫	員	五十嵐正
同	一〇月四日		療養所醫員		島憲藏
昭和二年	五月二十八日	長島愛生園醫官ニ轉セラル	同		林文雄
同	三年一〇月一六日	昭和一三年一月一五日死亡	書	記	大川賢太郎
同	四年四月一五日	星塚敬愛園醫官ニ轉セラル	療養所醫員		鹽沼英之助
同	六月一一日	星塚敬愛園調劑手ニ轉セラル	同		大田繁隆
同	八月一一日		書	記	上田末吉
同	五年一月二四日		療養所醫員		渡邊源次郎
同	一月二四日		同		西原ツボミ
同	六月二五日	長島愛生園醫官ニ轉セラル	醫	員	大西富美子
同	六年三月一六日	東京府衛生課長	同		院長事務取扱
同	五月五日		院長事務取扱		林芳信
同	七年一月二五日		療養所醫員		五十嵐正
同	一月二八日	昭和七年九月九日 石川縣へ出向ヲ命セラル	醫	員	中島俊之
同	四月一四日		療養所主事		廣田安次郎
同			同		九年五月一八日

同	一月一八日		醫	員	齋藤春雄
同	七年一月一〇日	昭和一三年五月一八日轉職	同		長谷川久次
同	八年六月一〇日		療養所醫員		藤田敬吉
同	六月一〇日		同		阿部秀直
同	八月三一日		書	記	永井晃道
同	九年五月一八日		療養所主事		石橋伊八
同	四月一九日	昭和一二年五月五日轉職	醫	員	淺野滋
同	五月三一日		書	記	越部義行
同	十一月二五日		調劑員		小岩信一
同	一一年二月二二日	昭和一二年三月一一日死亡	書	記	肥田敏明
同	四月三〇日		調劑員		宮崎米雄
同	五月五日		療養所醫員		淺野滋
同	五月六日		醫	員	宮本正美
同	八月二〇日		同		池尻慎一
同	九月二五日		療養所醫員		日居脩一
同	一二年四月三〇日		書	記	鳥居善一
同	四月三〇日		看護婦長		坂崎たか

一敷地 一〇九九三六坪
第二 概況

内

病院敷地 一〇九八八六坪
患者一時溜所敷地 五〇坪

二建物坪數

一七九棟

五三三五坪五三三

内

一號館(事務所支關共)	一棟 一二六坪九	一號館(附屬便所)	一棟 三坪七五
同 (應接所兼參觀人控所)	一棟 二二坪	同 (附屬便所)	一棟 二坪
同 (渡廊下)	一棟 三七坪五	二號館(醫務室)	一棟 三〇坪
三號館(治療室)	一棟 七五坪	附屬職員手洗及消毒所	一棟 一坪八
試驗室	二棟 四二坪	試驗室附屬渡り廊下	一棟 二坪
解卵器置場	一棟 一坪	各館便所	三棟 五坪五三
各館渡廊下	一棟 一五坪	三號館中央昇降口	一棟 〇坪九
裁縫所及物品藏置所	一棟 二五坪	裁縫所渡り廊下	一棟 九坪
物置(事務所用)	一棟 五坪	醫務室	一棟 二二坪五
醫務室渡廊下	一棟 八坪五	醫務局及圖書室	二棟 二四坪
手術室	一棟 九坪	手術室渡廊下	一棟 二坪
脫衣所	一棟 五坪	脫衣所及浴場	一棟 一七坪五
醫局洗濯所	一棟 一六坪	一時收容病舍及重症舍	一棟 一一三坪五
一時收容病舍附屬廊下	一棟 九坪九	重症舍	二棟 一九一坪

重症舍附屬渡廊下

診察室

普通病舍

九號病舍附屬浴場

空氣瓦斯タンク置場

患者面會所

監視所(監禁室用)

藥局附屬地下室

炊事場倉庫

汽罐室

汽罐用井戸ポンプ室

洗濯所

事務分室(二階建)

物置(物品交附所用)

輕症舍

輕症舍(夫婦舍)

輕症舍附屬物置

新隔離病舍

患者浴場(男子用)

特別室

年

報

重症舍附屬渡廊下	一棟 一八坪	三井重症舍	一棟 六一坪
診察室	二棟 五五坪	診察室附屬渡廊下	一棟 三坪五
普通病舍	三棟 一四三坪五	普通病舍渡廊下	一棟 五坪五
九號病舍附屬浴場	一棟 二坪二五	九號病舍渡廊下	一棟 一坪
空氣瓦斯タンク置場	一棟 三坪	動物小舍標本置場	一棟 一二坪
患者面會所	一棟 六坪	監禁室及謹慎室	一棟 一七坪
監視所(監禁室用)	一棟 二坪	藥局	一棟 七〇坪五
藥局附屬地下室	一棟 五坪	炊事場(一部二階建)	一棟 六六坪五
炊事場倉庫	五棟 五二坪	患者炊事場	一棟 二〇坪
汽罐室	一棟 六三坪	消毒所汽罐室	二棟 五五坪五
汽罐用井戸ポンプ室	一棟 六坪	火夫宿直室	一棟 六坪
洗濯所	一棟 一八坪	洗濯仕上所兼乾燥室	一棟 一〇坪
事務分室(二階建)	一棟 三二坪二五	物品交附所兼物品藏置所	一棟 二一坪二五
物置(物品交附所用)	一棟 二坪	物置(寢具被服其他用)	三棟 三五坪
輕症舍	三六棟 一五八〇坪二六	三井輕症舍	三棟 一三五坪
輕症舍(夫婦舍)	三棟 八五坪八七	少年舍	一棟 一一坪五
輕症舍附屬物置	九棟 一八坪	隔離病舍	二棟 九四坪五
新隔離病舍	一棟 六七坪	患者作業所兼娛樂所	一棟 五〇坪二五
患者浴場(男子用)	一棟 三五坪	患者浴場及繙帶交換所(女子用)	一棟 三五坪
特別室	一棟 一六坪二五	看護人駐在所	一棟 一一坪七五

禮拜堂 一棟 一二八坪
 屍室及汚物置場 一棟 二〇坪
 監視所 一棟 二坪
 見張所 四棟 一坪七七七
 動物飼育舍 一棟 一四坪
 納骨堂 一棟 四坪
 患者一時溜所 一棟 九坪
 自動車庫 一棟 一八坪
 主事舍宅 一棟 三四坪
 醫員舍宅 四棟 九一坪
 書記舍宅 三棟 一一一坪五
 看護長舍宅 一棟 一六坪五
 雇員調劑助手舍宅 一棟 三〇坪
 看護人寄宿舍 四棟 一〇三坪
 職員浴場 一棟 一五坪
 洗濯場消毒場裁縫場未消毒既消
 毒品置場乾燥室 一棟 七二坪
 寢具及被服物置 一棟 二〇坪
 禮拜堂用便所 一棟 二坪
 外來患者診察所兼待合所 一棟 六坪

患者食品配給所 一棟 三五坪
 汚物燒却場 一棟 三坪
 患者共同便所 三棟 四坪
 豚小屋 二棟 一〇坪五五
 火葬場 一棟 一二坪
 物置舊火葬場 一棟 一二坪
 門衛所 一棟 一三坪七五
 所長舍宅 一棟 三八坪七五
 醫員舍宅 一棟 二七坪五
 調劑員舍宅 二棟 三三坪
 醫員調劑員舍宅 一棟 六六坪
 機關手及雇員舍宅 一棟 六〇坪
 看護人舍宅 二棟 五九坪五
 看護婦食堂 一棟 一七坪五
 唧筒室 一棟 八坪
 精神病舍 一棟 六〇坪
 消防用器具置場及患者控所 一棟 八坪
 教育舍 一棟 七〇坪二五
 電氣室 一棟 七坪五
 精米精麥患者作業所 一棟 二四坪

看護婦浴室及脫衣室 一棟 二九坪二五
 配食器消毒所渡廊下 | 〇坪七五
 患者圖書館 一棟 四五坪五
 患者作業場 一棟 一六〇坪

配食器消毒所 一棟 七坪五
 神社 一棟 一坪
 恩賜病棟 一棟 五七坪五

三職員

院 長	林 芳 信	調劑員	小 岩 信 一
主 事 員	石 橋 伊 八	同 記	山 田 元 雄
醫 生	西 原 ツ ボ	同 書	海 老 澤 五 郎
同	五 十 嵐 正	同 同	望 月 隆 三
同	藤 田 敬 吉	同 同	永 井 晃 道
同	阿 部 秀 直	同 同	上 田 末 吉
同	淺 野 滋	同 同	越 飯 部 義 行
同	長 谷 川 久	同 同	鳥 居 善 一
同	池 尻 慎 一	同 同	伊 藤 居 善 一
同	八 木 英 忠	看 護 婦 長	後 藤 長 十 郎
同	齋 藤 勝 助	看 護 婦 長	坂 崎 太 郎
同	本 莊 平 治		

年 報 備 雇 員

機	關	手	一	電	工	手	一
雇	助	手	六	給	小	使	一
調	助	手	二	炊	夫	夫	五
工	手	手	一	火	夫	夫	三
作	業	託	五	洗	人	人	三
囀	託	託	一	濯	人	人	三
看	護	人	一	裁	人	人	三
看	護	女	六	縫	人	人	三
看	護	男	一	雜	人	人	三
看	護	女	五	臨	時	役	三
看	護	女	三	時	時	時	一

四收容定員

定員	一、二〇〇人
年末現在數	一、一六九人
内	男 三七八 女 三八六
癩豫防協會相談所	男 一 女 一
一時救護所	男 一 女 三

五本年中ニ於ケル重要事項

一 恩賜楓の園記念碑竣工
 皇太后陛下御下賜ノ楓苗木丈餘ニ成育シタルヲ以テ院内閑靜ノ地ニ移植「恩賜楓の園」ヲ造營シ此處ニ記念碑ヲ建設中ノ處一月十二日竣工セリ

一 大宮御所伺候
 十一月二十八日御召ニ依リ院長大宮御所ニ伺候

皇太后陛下ニ拜謁仰付ラレ院内狀況ヲ具ニ言上院内諸施設諸行事撮影ノ寫眞帳ヲ奉獻セリ而シテ翌二十九日院長ハ職員並ニ患者ヲ招集シ禮拜堂ニ於テ大宮御所ニ伺候セル御模様ヲ述ヘ謹ミテ陛下ノ御仁慈ノ程ヲ傳達セリ

一私設社會事業獎勵

二月十一日東京府廳ニ於テ管内優良社會事業團體ニ對シ宮内省御下賜金、厚生省獎勵金、東京府助成金傳達式ヲ舉行セラル

本院患者慰安會ニ對シテハ左記ノ通り御沙汰アリタリ

- 一金參百圓也 宮内省御下賜金
- 一金五百圓也 厚生省獎勵金
- 一金壹百圓也 東京府助成金

一職員表彰

二月十一日東京府廳ニ於テ管内優良社會事業團體永年勤績者ニ對シ財團法人三井報恩會ヨリ表彰ノコトアリ本院職員ノ表彰セラレタルモノ看護人淺見爲造外二十一名ナリ

一舊帝室博物館移築狀況

宮内省御下附ノ舊帝室博物館建物ノ移築ハ左記ノ通り工事進捗シ僅ニ内部設備ヲ餘スノミトナレリ

全	生	會	館	(四	五	坪)	理	髮	所	(二	五	坪)				
注	射	場	(二	八	坪)	光	の	雞	舍	(七	五	坪)				
園	藝	部	詰	所	(二	〇	二	五	坪)	輕	症	患	(四	五	坪)	
漬	物	倉	庫	(四	二	坪)	禮	拜	堂	附	屬	倉	庫	(二	五	坪)

一應召職員家族慰問

二月十五日東京府廳關係職員一同ヨリ今時事變出征家族慰問トシテ菓子折一箇宛贈呈アリ院長主事外代表職員當該家族ヲ慰問之ヲ傳達セリ

一 光明園委託患者歸園

昭和九年九月二十一日風水ノ襲來ヲ受ケ壞滅ノ悲運ニ遭ヒタル第三區府縣立療養所外島保養院ハ其ノ位置ヲ岡山縣長島ニ定メ再建工事中ノ處此程竣工シ光明園ト命名シ全國各療養所ノ委託患者ヲ歸園セシメツ、アリシカ本院ノ委託患者五十一名最初委託七〇名ハ七月五日光明園醫員吉田重春引率ノ下ニ歸園セリ

一 武漢陷落記念式

國民齊シク待望ノ武漢三鎮ハ十月二十七日午後五時半完全ニ攻略全國一齊ニ記念式ヲ舉行セラル、ニ當リ本院ニ於テモ翌二十八日學園校庭ニ全員集合記念式ヲ舉行シ院長ノ祝辭永代神社ニ參拜奉告ノ後院內愛國行進ヲ行ヒ散會シタリ

一 請願巡查設置廢止

大正二年四月ヨリ設置セル請願巡查派出ハ今時事變ニ際シ多數警察官ノ應召アリ警視廳ノ都合ヲ以テ十月三十一日限り一時之ヲ廢止セラル

一 歲末無料診療

皇后陛下ノ有難キ思召ヲ奉體シ東京府管内官公私聯合ノ歲末無料診療團體ニ參加シ十二月^自二十八日十日間ニ亙リ近隣九ヶ町村ニ於ケル貧困者及應召軍人遺家族ノ無料診療ヲ實施シタルニ受診者延二百餘名ニ及ヒ深甚ノ感謝ト感激ヲ受ケタリ

一名士ノ講演慰問並ニ布教

三月五日 陸軍記念日ニ先ンシテ小野鍊雄師ノ案内ニ依リ陸軍大佐國分習也氏來院消防少年少女各團

ヲ檢閲シ後禮拜堂ニ於テ軍事講演アリタリ

四月八日 禮拜堂ニ於テ釋尊降誕花祭會ヲ執行セシニ和光堅正師、小野鍊雄師、中山大忍師外淺草本願寺ヨリ高僧多數臨場法會嚴修ノ後布教アリ同夜佛教餅の日會寄贈ノ映畫會ヲ開催盛會裡ニ終了セリ

四月九日 本院發行ノ雜誌『山櫻』俳誌『芽生』等ノ爲メ永年ノ恩師齋藤俳小星先生ヲ招聘俳句大運座會ヲ開催セシニ仲珂耕田口秋思堂、杜田吟兒各先生ノ御臨席ヲ得タリ

四月二十二、三日 兩日ニ亙リ春季患者歌舞伎劇ヲ開催シタルニ厚生省、東京府警視廳其他近隣各町村ヨリ貳千有餘名來觀患者ノ熱演ヲ聲援サレ大ニ盛觀ヲ呈シタリ

四月三十日 俳誌『鴨野』刊行ノ本田一杉氏來院禮拜堂ニ於テ患者俳句會ヲ開催シ講演句評等ヲ行ハレ翌日辭去セラル

五月十六日 春季慰靈祭ヲ執行シタルニ淺草本願寺別院ヨリハ和光師ノ案内ニヨリ伊藤脩巳師、小林良甫師外高僧多數來院西本願寺築地別院ヨリハ大八木謙三師眞言宗中山大忍布教師、日蓮宗小野布教師代富澤鍊性師臨場セラレ開院以來物故患者千六百三十六名ノ慰靈法要ヲ嚴修後法語セラル

五月二十三日 武内神官ヲ聘シ永代神社例祭ヲ執行來賓トシテ田無警察署長、嶋田東村山、長小池化成小學校長外多勢臨席セラル

六月九日 布教師小野鍊雄師ノ案内ニテ日蓮宗々務院管長代理宗務總監富川玄快僧正、社會部主事、中村鍊敬外高僧多數臨場禮拜堂ニ於テ大施餓鬼會ヲ執行シ夫レヨリ動物供養ノ法要ヲ嚴修セラル

六月二十日 眞言宗青葉祭執行ニ際シ高野山東京別院ヨリハ中山布教師ノ案内ニテ主監山田覺初僧正、東京宗務支所長蓮眞猛師外高僧多數臨場禮拜堂ニ於テ法要嚴修ノ後法話セラル而シテ此ノ日東京金剛講員二十餘名來院弘法大師ノ御和讃アリタリ

六月二十三日 皇太后陛下御誕辰奉祝記念週間ニ際シ小野鍊雄師ノ案内ニテ海軍大將男爵鈴木貫太郎

閣下來院院内消防、少年少女團等ヲ御檢閲夫レヨリ禮拜堂ニ於テ 今上陛下御日常ニ關シ謹話アリタリ
七月二十五日 清瀬村金龍寺住職武田勝一師ヲ司會トスル北多摩佛教聯合會主催ノ孟蘭盆大施餓鬼會
ハ二十餘名ノ高僧列席ノ下ニ執行引キ續キ臨席ノ曹洞宗布教師松山大器老師法話ノ後同會寄贈ノ柳家お
やめ一行ノ寄席大會ヲ催サル

九月二十九日 東京府廳ニ開催ノ本院昭和十四年度豫算協議會ニ出席セラレタル聯合府縣衛生課長一
行來院院内ヲ視察ノ後北條神奈川縣衛生課長ハ一行ヲ代表シ禮拜堂ニ於テ患者一同ニ訓話セラリ

十月十四日 秋季慰靈祭ヲ執行シタルニ淺草東本願寺別院ヨリ小林良甫師外高僧臨場開院以來死亡患
者壹千六百七拾四名ノ慰靈法要ヲ嚴修後法話セラリ

十月二十一日 宗祖日蓮聖人ノ會式ヲ執行シタルニ日蓮宗々務院管長代理社會部長加藤通溫僧正外高
僧臨場加藤師法話セラル尙臨席ノ海軍中將男爵井上清純閣下ハ院内消防少年少女ノ各團檢閲ノ後事變ニ
對スル我等ノ覺悟ト題シ講演セラル

十一月三日 明治節ノ佳辰ニ當リ患者ノ組織セル秋光會主催ノ菊花品評會ヲ開催セシニ出品二六一點
ノ多キニ達シ東京千秋會小金井支部役員鈴木倉之助氏外一名來院審査セラリ

十一月七日 宗祖ノ報恩講ヲ執行シタルニ東本願寺淺草別院伊東脩己師外六師來院法要嚴修ノ後法話
セラル而シテ同夜ハ淺草本願寺寄贈ノ映畫ノ會ヲ催サル

十一月九日 木戸厚生大臣閣下ハ高野豫防局長、勝俣豫防課長、藤原傷兵保護院計畫局長、岡田東京府知事、
草間東京府衛生課長、板倉東京府道路主事、林東京市保健局長外同道院內巡視ノ上職員並ニ患者ニ對シ一場
ノ御挨拶セラル

十一月十九日 本院第十一回農產物品評會ハ十一月十六日ヨリ二十日ニ至ル五日間ヲ會期トシテ開催
セシニ地元東村山ヲ始メトシ久留米、大和田、清瀬、小平、所澤、松井、片山、大和、吾妻等十數ヶ町村ヨリノ出品二二

五四點ニ達ス、而シテ十九日審在長佐藤東京府農事試驗場長ノ薦告ニ據ル褒賞授與式ヲ舉行セリ、來賓トシ
テ石川所澤警察署長、豊田多摩矯正院教官外隣接各町村長、農會長、農事世話人等多數臨場セラル

十二月二十三日 クリスマスニ際シ東京好善社藤原鈞次郎和田慰慶園主、日本M.T.L理事白戸八郎氏、ハ
ナフオード氏、齋藤宗次郎氏、田中儀三郎氏、小倉勇太郎氏等多數臨席禮拜堂ニ於テ祝賀式ヲ舉行同夜後藤安
太郎氏、清水廉氏外來院日本M.T.Lヨリ寄贈ノ映畫會ヲ開催セラル

一職員ノ出征

昨十二年七月七日北京郊外蘆溝橋ニ於テ端ヲ發シタル支那事變ハ益々擴大セラレ、本院職員ニシテ應召出
征中ノモノ左ノ如シ

- 昭和一二年 八月二日 看護人 高野啓次郎
- 同 八月二六日 醫員 池尻慎一
- 同 九月一〇日 看護人 金子市太郎
- 同 一〇月一七日 洗濯人 齋藤久男
- 同 一〇月二五日 看護人 武藤保

一職員異動

- 四月三〇日 伊藤十五第一區府縣立全生病院書記ニ任ス
- 五月一八日 療養所醫員日戸脩一願ニ依リ本職ヲ免ス
- 同 醫員長谷川久次療養所醫員ニ任ス第一區府縣立全生病院醫員ニ補ス
- 八月二六日 八木英忠第一區府縣立全生病院醫員ニ任ス
- 一二月九日 調劑員宮崎米雄願ニ依リ本職ヲ免ス
- 一二月一五日 山田元雄第一區府縣立全生病院調劑員ニ任ス

一敷地擴張

患者増員ニ伴ヒ敷地擴張ノ必要ニ迫ラレ聯合府縣ノ承認ヲ得テ現在敷地西北方ニ隣接セル南秋津上原山林一萬七坪ヲ買收シタリ

第三 總 經 費

一、豫 算

歳入經常部

科 目	昭和九年度	昭和十年度	昭和十一年度	昭和十二年度	昭和十三年度
不用品賣拂代	四十五圓	四十五圓	五〇〇圓	五〇〇圓	五〇〇圓
患者遺留金	二〇・八〇	二〇・八〇	二〇・八〇	一〇〇	一〇〇
各府縣分擔金	二四三・三〇四・六五	三三〇・五二二・四三	三〇三・九四二・九九	二九一・二七四・〇〇	三三四・二七一・〇〇
癩癧防協會委託患者費辦償金	四・五六三・〇〇	四・六六六・五〇	七・三〇〇・〇〇	七・六六五・〇〇	八・二二一・〇〇
職員納付金	三〇三・五〇	五三三・四〇	五四八・三三	七四七・〇〇	七四七・〇〇
恩給分擔金	一	四〇二・五七	四八三・〇〇	四八三・〇〇	四八三・〇〇
外島保養院委託患者費辦償金	一	一	一〇三・四八・〇〇	九三六・七・〇〇	一一三・一〇・〇〇
合 計	二四八・三九四・四五	三三六・一九一・九	三三三・六九五・一〇	三〇九・五八七・〇〇	三五五・五〇八・〇〇

歳入臨時部

科 目	昭和九年度	昭和十年度	昭和十一年度	昭和十二年度	昭和十三年度
線越金	一・四五三・〇〇	三・三三六・一	一・〇〇	二・三八九・〇〇	一・〇〇
寄附金	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
合 計	一・四五三・〇〇	三・三三六・一	一・〇〇	二・三八九・〇〇	一・〇〇
歳入總計	二四九・九四七・四五	三三九・五二八・〇	三三四・六九五・一〇	三一〇・九七六・〇〇	三五六・五〇八・〇〇

歳出經常部

科 目	昭和九年度	昭和十年度	昭和十一年度	昭和十二年度	昭和十三年度
體給	三〇・三五八・〇〇	三三・二二六・〇〇	三三・四一七・〇〇	三三・七三三・〇〇	三三・三三三・〇〇
雜給	五二・二七八・九・〇	五五・八五五・一・〇	五八・〇一四・二・五	六二・二九三・一・〇	六六・〇〇六・〇・〇
患驗者	一一〇・六六四・九・五	一一三・二四三・三・九・五	一四四・〇一〇・一・〇	一六九・九一〇・二・五・〇	一七三・〇三〇・五・〇・〇
修繕費	八七・三・五・五	八七・三・五・五	八七・三・五・五	八七・三・五・五	八七・三・五・五
雜費	六・九八七・四・〇	八・二七六・〇・〇	八・五一一・〇・〇	八・九七七・九・〇・〇	九・三三三・三・〇・〇
恩給	三三・一七一・〇・五	三二・七三二・四・四・五	三三・一八九・五・〇・〇	三三・三九九・三・〇・〇	三三・一三一・〇・〇・〇
豫備費	一・八四九・〇・〇	二・四二五・〇・〇	二・四二五・〇・〇	二・四二五・〇・〇	二・四二五・〇・〇
合 計	三三六・一九三・四・五	三三〇・三八六・〇・五	三三三・三三三・〇・〇	三三二・一九七・七・〇・〇	三三三・三三三・〇・〇

歳出臨時部

科	目	昭和九年度	昭和十年度	昭和十一年度	昭和十二年度	昭和十三年度
建	築費	一三、五〇〇〇〇	三六、五三〇〇〇	二九、〇〇五〇〇	一、七二六、五〇〇	一、七二六、五〇〇
敷	地購入費			一三、五〇〇〇〇		
初	度調辨費		一九、〇一七、七五			一、〇〇〇〇〇
合	計	一三五〇〇〇〇	五六、三三二、七五	三九、〇〇五〇〇	一、七二六、五〇〇	一、七二六、五〇〇
歳	出總計	二四九、六九三、四五	三六六、一七八、〇〇	三三三、六九五、二〇	三二一、九七七、〇〇	三三四、五一〇、〇〇

二、決算
歳入經常部

科	目	昭和八年度	昭和九年度	昭和十年度	昭和十一年度	昭和十二年度
不用品賣拂代			四三、二八八	一一六、三三七	四一、四四四	七、四八、八三
患者遺留金						
各府縣分擔金		二二八、二六六、六五	二四三、三〇四、六五	三〇三、五二一、四二	三〇三、九四二、九九	二九一、二七四、〇〇
痲瘋防協會委託患者費辦償金		一、八五八、七〇	三、七二四、七五	三、五六二、三三	四、七二六、〇〇	六、一六五、二〇
外島保健院委託患者費辦償金			八、一五三、八〇	一一〇〇、七四〇	一〇一、四四、〇〇	八、八〇、五五
職員納付金		二七、二八六	二九、八六二	三七、二九五	四〇、〇三八	五五、九九三
恩給分擔金				四〇、二五七	四八、三〇九	四八、三〇九
合	計	二三〇、一九八、二六	二五五、九一四、〇〇	三三六、九九三、〇四	三三〇、一一〇、八〇	三〇八、三三八、〇〇

歳入臨時部

科	目	昭和八年度	昭和九年度	昭和十年度	昭和十一年度	昭和十二年度
繰越	金	二二、三二七、七七	一、八七七、六一	八九、四八	二、三九〇、七	一、五二一、三六
其他	金					
合	計	二二、三二七、七七	一、八七七、六一	八九、四八	二、三九〇、七	一、五二一、三六
歳	入總計	二五三、七二五、九七	二五七、七九二、六一	三三七、〇八二、五二	三三三、五九九、九七	三〇九、五五二、三六

歳出經常部

科	目	昭和八年度	昭和九年度	昭和十年度	昭和十一年度	昭和十二年度
俸給		二七、三二四、四六	二六、〇八五、九七	二六、七三七、五一	二九、〇七二、七三	三〇、六六九、六一
雜給		五三、九二八、九八	五五、六三〇、八〇	五八、六七一、七二	六一、六七四、〇八	六七、五六六、八七
患雜者	給	一一〇、四六一、三〇	一一七、四七〇、七三	一二二、五二九、八九	一四九、八六九、九七	一六五、〇一八、九四
試驗者	給	七、一四一、六一	八、二八〇、三	八、七三三、五二	八、六三三、三八	六、二九、七〇
修繕費		六、六〇二、五三	六、四八七、二二	八、二七五、六四	八、五〇九、二八	八、九七七、九七
雜給		二二、五七〇、六二	二四、九一六、八八	二九、二七五、七六	二九、八七四、八四	三三、七二六、八五
恩給	金	一、三六三、三三	二、七八三、〇〇	二、三四三、〇〇	二、三四三、〇〇	二、八九四、〇〇
合	計	二二二、九六五、三八	二四四、二〇二、六三	二六八、七〇二、〇四	二八二、二〇七、二八	三〇九、四八三、九四

歳出臨時部

科	昭	昭	昭	昭
目	和	和	和	和
建築費	昭八年度	昭九年度	昭十年度	昭十一年度
調辦費				
初度購入費				
敷地費				
合計	一八八七三〇〇	一三、〇〇〇〇〇	三六、二八八、六六六	二五、三三二、二二三
合計	一八八七三〇〇	一三、〇〇〇〇〇	五九、九〇四、一〇一	三八、七〇三、三三三
歳出總計	二五、一八三、八三八	二五、七七一、二六三	三二、四六九、二四五	三二、〇七七、七六一
富該年度中收容患者延數	三三〇、六八二	三三〇、六八二	三三〇、六八二	三三〇、六八二

三、患者一人當經費

年次	經常部決算		食費決算		治療費決算		被服費決算		富該年度中收容患者延數
	總額	日當人	總額	日當人	總額	日當人	總額	日當人	
昭和三年度	二二四、五八四、三三七	七〇〇	六六、六七四、四四一	二〇七	二〇、二四〇、六八九	六三	三、一四九、九七	九	三三〇、六八二
昭和四年度	二四七、五九八、八一	七二二	六九、二九一、一一二	一九九	二〇、七六三、七七八	五九	六、一六六、八四	一八	三三〇、六八二
昭和五年度	二二二、三三二、二四一	六一七	六一、一三六、九七七	一六一	二〇、八六六、三三七	五五	四、六九二、二八	一一	三三〇、六八二
昭和六年度	二一九、九三二、一八	五七四	五七、六一三、九九七	一六二	二二、三二一、八九	五八	五、六五四、五五	一一	三三〇、六八二
昭和七年度	二二〇、八一、九六〇	五七七	六一、〇六一、二四	一五〇	二二、九八九、七一一	五七	五、四四八、六一	一一	三三〇、六八二
昭和八年度	二二二、九六五、三八	五七五	六四、八四六、二四	一五八	二二、八六七、八七	五六	六、三九三、三三	一六	三三〇、六八二
昭和九年度	二四四、二〇二、六三	六一一	七〇、四六八、八一	一七〇	二二、七八二、七九	五三	八、〇五七、九七	二〇	三三〇、六八二
昭和十年度	二六八、七〇二、〇四	六五九	八三、四三〇、九三	一九七	二五、二六五、四八	六〇	六、七九九、八二	一八	三三〇、六八二
昭和十一年度	二八二、二〇七、二八	六五四	八六、三三三、九二	一九四	二六、五六三、七三	六〇	七、一七四、九三	一八	三三〇、六八二
昭和十二年度	三〇九、四八三、九四	六八六	九三、八七三、二三	二〇〇	二八、六六六、〇五	六二	九、四二二、一一	二〇	三三〇、六八二

備考

- 一、當該年度中收容患者延數欄△印ヲ付セルハ癩豫防協會委託患者延數○印ハ大阪委託患者ノ延數ナリ。
- 二、一人一日當總經費中患者費及雜費ハ癩豫防協會委託患者並大阪委託患者延數ヲ加算々出セリ。

第四 治療

現今癩ノ治療藥トシテ最モ推奨スヘキモノハ大風子油ナリ。本院ニ於テハ厚生省衛生試驗所製ノ大風子油ヲ使用セリ、本油ハ主トシテ「ヒド」ノカルプス、アンテルミンチカ及ヒ「ヒド」ノカルプス、アルビーナ「種子」ヨリ搾取セルモノナリ。之ヲ攝氏百二十度前後ニ熱シテ消毒滅菌シ、臂筋肉或ハ大腿上膊等ノ皮下ニ一回二〇—五〇ccツツ一週三回注射シ一箇年百回—百二十回ニ及ヒ數年間連續ス。只嚴寒ノ候ニアリテハ藥液ノ吸收不良ナルヲ以テ二、三週間休止スルコト、セリ。

大風子油ノ有効ナルコトニ就テハ既ニ一般ノ認知スル處ニシテ、コノ注射ニヨリ斑紋結節、浸潤ノ吸收消失潰瘍ノ治癒眉毛頭髮ノ再生等臨床上著明ノ効果ヲ認ムルノミナラス癩菌ノ皮膚、粘膜等ヨリ破壊消滅スルノ狀ヲ顯微鏡下ニ證スルコトヲ得即チ之等組織標本ヲ鏡檢スルニ初メ無數ノ癩菌ヲ宿シタル癩細胞ハ次第ニ癩菌ヲ失ヒソノ消滅ノ場所ニ脂肪樣體ノ顆粒ヲ含有セル一種ノ空泡細胞ニ變スルヲ認ムルナリ。

然レトモ斯ノ如キ機轉ノ全身各組織ニ一齋ニ起ルヤ否ヤニ就テハ疑問ノ存スル處ニシテ何レカノ部分神經内或ハ細小血管ノ内皮細胞内等ニ於テ癩菌ハ依然トシテ變化セス潜伏生存ヲ續ケ一定ノ期間多クハ六、七年ヲ經過シ身體ノ抵抗力ノ減弱アランカ譬ヘ大風子油注射ヲ繼續シツツアルニ關ハラズ再ヒ活潑ナル繁殖ヲナシ病狀ノ増悪ヲ來スコトアルハ屢々認ムル處ナリ。斯ル再發生ノ結節浸潤ニ對シテハ大風子油ノ効力モ初發性ノソレニ比シ著シク劣リ容易ニ病勢ヲ輕快鎮靜セシムルコト能ハサルハ甚タ遺憾ナリ。

近來斯ル場合ニ沃度加大風子油「エチール」エステルヲ局所的ニ結節内〇二—〇三ツツ、數回注射スルコトニヨ

リテ其ノ結節ハ概ネ吸收スルヲ見タリ然レトモコノ方法ハ個々ノ結節ニ就テ行ハサルヘカラスノ煩アルヲ缺點トナス。

四四

大風子油及ヒソノ製劑以外近時試用セラレツ、アル藥品トシテハ諸種ノ金製劑硫黃製劑等アルモ未タ全身的ニ大風子油以上ノ効果ヲ擧クルノ域ニ達セサルヲ遺憾トス。

次ニ患者ニ對スル治療的處置ニ就テ述ヘン。本院ニ於テ患者ヲ收容スルヤ初メ防疫的意味ニ於テ數日間收容患者病室ニ居ラシメ、癩ノ各症狀及ヒ其ノ他ノ傳染性疾患、合併症等ノ有無ヲモ檢診シ其ノ症狀ニ應シテ或ハ一般患者ト共同生活ニ入ラシメ或ハ重症患者病室ニ移ス等夫々適當ナル處置ヲ講ス。

一般入院患者ノ診察ハ醫長及ヒ醫員囑託醫十一名ノ醫師ニヨリテ分擔シ便宜上内科、外科、眼科、耳鼻咽喉科、レントゲン科、物理療法科、齒科、口腔科、繃帶交換科等ニ分テリ。

内科ニ於テ多ク見ル病症ハ、癩菌ノ破壊吸收スル時ニ發スル癩性結節性紅斑ニシテ同時ニ神經痛關節痛等ヲ併發スルコト多シ、本症ハ患者間ニ於テ熱帶下唱フルモノニシテソノ經過ハ數週ヨリ永キハ年餘ニ亙リ煩ハシキ發疹發熱ヲ反覆シ爲ニ身體衰弱シテ結核性疾患ヲ誘發シテ死ノ轉歸ヲトルコトアリ。本症ニ對スル療法トシテハ輕症ナル者ニハ三%クロールカルシウム液ノ靜脈内注射ヲ毎日行フ事ニヨリテ良好ノ結果ヲ來スコトヲ得。又劇烈ナル關節痛ヲ伴フ場合ニハ「銀エレクトロイド」ノ皮下又ハ靜脈内注射ヲ施シテ相當効果ヲ納メツ、アリ。癩性神經痛モ亦屢々來ル症狀ニシテ患者ノ最大苦痛トスルモノナリ、此ノ療法ハ局所療法、鎮痛劑鎮靜劑ノ内服或ハ「テトロドトキシシン」「アンチピリン」等ノ皮下注射「クロールカルシウム」ノ靜脈内注射「ボカイン」ノ神經幹内注射等ニヨリテ概ネ好結果ヲ得ルナリ、更ニ近時之等ニ赤外線療法ヲ併セ試ミツ、アリ。「モルヒネ」等ノ麻醉藥ハ一時的ノ鎮痛作用アルモ習慣性トナリ中毒性ニ陥リ易ク患者自身ノ不幸タルノミナラス甚シキニ至リテハ療養所内ノ秩序ヲ亂リ一般社會ノ安寧ヲ害スルニ至ルノ惧レアルヲ以テ本院ニ於テハ「モルヒネ」類ノ使用ヲ嚴禁セリ。

其ノ他ノ内科的疾患トシテハ結核性諸疾患ノ外癩性腎臟炎ヲ屢々見ル、本症ハ患者ノ死因中重要ナルモノナリ。外科的治療ノ大ナルモノハ繃帶交換ナリ。癩結節或ハ浸潤ノ崩壞ニヨリテ生スル癩性潰瘍ノ處置ハ大多數ノ患者ニ就テ行ハサルヘカラス。斯ル患者ハ日々數百人ニ及フ癩性潰瘍、足穿孔症ニ對シテハ「リバーノール」沃度ホルム、或ハ種々ノ軟膏類ヲ症狀ニ應シテ使用ス。

又人工太陽燈ノ照射モヤ、見ルヘキ効果アリ、手術ヲ要スル患者モ亦多數ニシテ喉頭ノ癩結節又ハ浸潤腫脹ニヨル狭窄ハ窒息死ヲ招ク危險アルヲ以テ氣管切開手術ヲ行ヒテ之ヲ救フ事屢々ナリ、瘰癧、火傷、足穿孔症等ノ爲ニ手足骨ノ壞疽ヲ來セルモノハ之ヲ除去セサルヘカラス、時ニハ下腿ノ切斷手術ヲ要スルモノ亦尠カラス、然ラスンハ全身ノ敗血膿毒症ヲ惹起スルノ恐アレハナリ。又神經ノ浸潤肥厚シテ劇烈ナル神經痛ヲ來セル場合ハ神經鞘剝離手術ヲ施シテ良好ナル結果ヲ得ツ、アリ。

眼科的疾患トシテハ癩性角膜炎、外鞏膜炎、虹彩毛樣體炎、續發性白内障等多ク爲ニ失明ニ陥ル者モ尠カラス、從ツテ是等ニ對スル處置ハ極メテ必要ナリ、就中虹彩切除手術ハ瞳孔閉鎖症及ヒ角膜溷濁ノ瞳孔領ヲ覆ヘル場合ニハ最モ推奨スヘキ手術ナリ。

失明統計

		收容患者數	失明者數
男	七八三	一六六	
女	三八六	八五	
計	一一六九	二五一	

備考 失明者ハ兩眼共一米ノ距離ニ於テ指數ヲ辨シ得サル程度以下ノモノ病型別ハ神經癩男 名女 名他ハ

年報

四五

鼻腔咽喉ノ粘膜ハ癩ノ好發部位ナルヲ以テ耳鼻咽喉科の治療モ亦忽ニスルヲ得サルナリ、鼻翼或ハ鼻腔内ノ癩性潰瘍浸潤ニヨル鼻道ノ崩潰或ハ狹窄閉鎖又ハ喉頭狹窄等ニヨル呼吸障害之等諸症ニ續發シ易キ慢性中耳炎等ハ最モ多キ病症ナリ。

右ノ如キ診療上重症ニシテ特別ナル加療ヲ要スルモノハ重症者病室ニ入ラシム、重症室ハ十一室約二百床ヲ有シ夫々擔任ノ醫員看護婦ヲ定メテ一般病院ニ於ケル入院治療ノ如クシ、尙輕症患者ヲ付添ハシメテ服藥衣食其他治療ノ介補ヲナサシメツ、アリ。

第五 患者ノ生活狀態

本院ニ收容セル患者一千六百九十九名十二月末日現在ハ四十三病舎ニ分住セシム、概ネ一舎ヲ四室トシ之カ一室ハ十二疊半ニシテ六七名ノ患者ヲ容ル、少年舎及家族舎ハ一般舎ト異ナリ八疊乃至十疊ノ間トス。

然シテ此等四十三舎ヲ輕症舎(二十八舎、不自由舎十五舎)ニ大別シ更ニ輕症舎ヲ男子舎(十八舎)、女子舎(四舎)、少年舎(二舎)、少女舎(一舎)家族舎(三舎)ニ區別ス。

男女輕症舎ハ自治的ノ制度トシ各舎ニ一名ノ舎長(任期六ヶ月選舉制)ヲ置キ其ノ舎ノ整理衛生、衣食作業等ノ世話ヲナサシム。

少年少女舎ハ十八歳未満ヲ收容シ各舎ニ寮父母患者ヲ置キ少年少女ト同居生活ヲ爲シ訓育ニ當ラシム。家族舎ハ戸籍上ノ夫婦ヲ同棲セシム現在ノ家族二十四組ナリ。

不自由舎ハ盲人及ヒ手足不自由ニシテ自用ヲ辨シ能ハサルモノ、又ハ六十歳以上ノ老人等ヲ收容シ、各舎ニ一人若クハ二人ノ輕症ナル患者ヲ付添ハシメ衣食其ノ他ノ世話ヲナサシム。現在收容數三百八十餘名ナリ。精神病舎ハ別ニ一棟ヲ設ケテ之ヲ收容シ付添人ヲシテ監視介補ニ當ラシム。現在ノ精神病者數二十名ナリ。

而シテ一般輕症患者ハ午前ハ専ラ治療時間トシ午後ハ各種ノ作業ニ從事ス、輕症患者ニシテ重症トナレルモノ又ハ餘病併發ノモノハ別ニ設ケタル重症室ニ收容シ快復後ハ自舎ニ歸合セシム。

一、衣 食

イ被服寢具 患者一人ニ對シテ貸與又ハ給與スル被服寢具ハ左ノ通り

品名	品質	數量	貸與ノ別	時期上	期間用	備考
綿入	三河黒縞	一	貸與	十二月	三年	
襪	同	一	貸與	十二月	三年	
衣	三河白縞	一	貸與	十一月	三年	
着	綿	一	貸與	六月	二年	二年毎ニ一枚貸與
股	晒木	一	給與	六月	二年	
腰	冬夏男女	一	給與	十二月	二年	死亡退院ノ際ハ返納セシム(昭和十二年以後)
帶	冬夏男女	一	給與	十二月	二年	
同	冬夏男女	一	給與	十二月	二年	
足	冬夏男女	一	給與	十二月	二年	
手	冬夏男女	一	給與	十二月	二年	
掛	冬夏男女	一	給與	十二月	二年	
敷	冬夏男女	一	給與	十二月	二年	

品名	品質	數量	貸與ノ別	期同上	使用期間	備考
大枕	綾織木綿	一	貸與	同		
小枕	綾織木綿	一	貸與	同		
包	布	一	貸與	同		
枕	三河生木綿	一	貸與	同		
覆						

備考

- 一、右ノ外重症患者ニハ病衣付添患者ニハ看護衣醫局雜役ニ胸掛理髮用ニ作業衣及胸掛髮結患者ニエブロン、藥運搬及火種配給患者ニ雨合羽洗濯患者ニゴム長靴ヲ各病舎ニハ蚊帳ヲ貸與ス。
- 二、新調被服ハ全患者ニ一齋ニ貸與シ同時ニ使用中ノモノヲ返納セシム。
- 三、貸與期間中ト雖モ甚シク破損シタルモノハ隨時新品若クハ修理品ト交換セシム。
- 四、返納品中修理使用ニ堪ヘ得ルモノハ消毒洗濯修理ノ上保管シ置ク。
- 五、新調被服ノ裁縫ハ女患者ニナサシム。
- 六、寢具手入及被服修理ハ女患者裁縫人現在十三人ニナサシム。
- 七、洗濯ハ各自出來得ルモノ、外ハ洗濯場ニ於テ之ヲ行フ。
- 八、入院ノ際携帯ノ私物衣類ハ贅澤ニ涉ラサル限り之ヲ使用セシム。

口、食物

(1) 主食物

- 一、粥食 一人一食白米百瓦約七勺宛ノ割ニテ支給ス。
- 二、普通食(中搗米日方七分) 一人一日平均分量約四六〇瓦約三合九勺

(2) 副食物

但四大節其他特別御馳走ノ日ニハ一食若クハ二、三食分ヲ白米飯トシ、正月三ケ日ハ一食分餅ヲ給ス。

三、精米精麥八十馬力電動機ニ依ル精米機、押麥製造機械ヲ以テ患者ニ作業セシム。

玄米、大麥ノ購入ハ各府縣ニ於テ生産移出検査ヲナシ、而モ品質等級及數量ノ明瞭ナルモノヲ以テス從ツテ既製品ヲ購買スルヨリ經費ノ節約ヲナスコトヲ得。

一、概況 野菜物ヲ主トシ魚類、豆腐類、肉類及漬物類之ニ次キ其他ハ雜品ニシテ每朝味噌汁ヲ與フ。

二、重症患者ノ副食物 大體普通食ト同一ナルモ普通食ノ鹽魚ナル時ハ鮮魚若クハ鶏肉ヲ給シ澤庵、菜漬類ナル時ハ金山寺味噌、ガンモドキ若クハ鮮魚等ヲ給ス、猶重症者ニハ滋養品トシテ牛乳、鶏卵、葛粉、砂糖等ヲ給ス其人員ハ毎日平均約二百名ナリ。

三、御馳走 祝祭日、五節旬本院記念日、宗教上ノ諸儀式日其他特殊ノ催アル日ニハ院内飼育ノ豚鶏ヲ調理シテ與ヘ、又雙刺身、壽司、章魚、牡丹餅、赤飯其他ヲ給與ス尙間食トシテ汁粉、草餅、甘酒、果物菓子、甘藷等ヲ給スルコトアリ。

四、院内生産品 精米、押麥、豆腐製造ノ外患者ノ手ニ依ル院内生産ニ野菜類、豚牛乳、鶏及鶏卵等アリ之等ノ生産品ハ患者慰安會ノ手ヲ經テ病院之ヲ購入シテ患者ニ支給ス。

本年中ニ於テ患者ノ手ニ依リ生産供給シタル額ヲ表ニ示セハ

品目	數量	價格	品目	數量	價格
野菜類	二二,四〇八〇〇	四,一六六・二	鶏	二〇,三八〇〇〇	一,一四九・一
牛乳	七,七四九・〇	一,三三九・三	豚	三〇,六七〇〇	一,〇〇五・二
鶏	三,一五〇〇	一,二九三・〇	肉	一三,四一五・七	七,六九〇・七
合計			計		

五其他 魚類ノ一部ハ直接安房鴨川ヨリ野菜類ハ附近生産者及當業者ヨリ大麥ハ埼玉縣ヨリ購入ス、食糧品購入ニ對シテハ榮養價品質價格等ノ研究ヲ常ニ怠ラス最良ノ方法ヲ講シ居レリ。

(3) 調理配給

主副食物ノ調理配給ハ共ニ職員ノ炊夫之ニ當ル、而シテ患者飼育ノ豚若クハ多量ノ鶏ヲ屠ル時其他特ニ手數ヲ要スル献立ノ際ハ別ニ設ケタル患者炊事場ニ於テ患者ヲシテ一部若クハ全部ノ調理ニ當ラシム。

(4) 食費

昭和十三年度ノ食費豫算ハ定員一、二〇〇人一人一日當二一錢五厘ナリ、而シテ物價ハ日々騰貴シ、其ノ安定スル所ヲ知ラサル状態ナルヲ以テ本年度末ニ近クニ從ヒ豫算ニ不足ヲ生セシメサル様腐心シ居レリ。今昭和十三年中食費經理ノ實情ヲ表示セハ左ノ如シ

主副食 食料	昭和十三年		一人一日當平均	
	數量	金額	數量	金額
食料	11,071.5斤	8,800.730	10.4斤	8.6
食料		3,891.080		3.2
食料		2,264.220		1.9
食料		6,089.600		5.1
食料		9,510.430		7.8
合計		28,565.060		23.8

給食延人員四五六、一四九人癩豫防協會及大阪委託患者ヲ含ム

(5) 豫算ノ運用

一般社會ニ生活スル人々ハ自由ノ天地ニ在リテ種々ノ快樂慰安ヲ享ケ得ラル、モ社會ト全然離隔シタル此小天地ヲ一生ノ住家トセサルヘカラサル患者ニ取リテ食物ハ唯一無二ノ慰安ナルヘキコトヲ思フ時

此ノ貴重ナル豫算ヲ一層有意義ニ運用スヘキモノトス。

二、慰安及娛樂

由來癩ハ慢性難治ノ疾患トセラル、カ故ニ患者ハ稍々モスレハ精神ノ動搖悲觀ニ陥リ易ク自然ト信仰ヲ欲求シテ各宗教ニ歸依スル者多シ而シテ本院ニ於テハ各患者ノ信仰ノ自由ヲ認メ各宗教々師ハ院内禮拜堂ニ於テ特定ノ日ニ布教慰問セラル今全患者ヲ各宗教別ニスレハ佛教徒ニ屬スル者九九〇名内眞宗四〇六名日蓮宗三六〇名眞言宗二二四名基督教ニ屬スルモノ一六五名何レノ宗教ニモ屬セサルモノ一四名ナリ、而シテ眞宗ハ大谷派本願寺ヨリ日蓮宗ハ同宗務院ヨリ眞言宗ハ高野山金剛峯寺ヨリ毎月布教師ヲ派遣シ基督教ハ好善社ヨリ毎月二回日本M.T.Iヨリハ毎月一回宣教師ヲ定期派遣サル。各教團ハ教典ノ研究暗誦ニ熱心ナルノミナラス其ノ派ニ屬スル重症者極貧者ヲ慰安看護シ同病相憐ノ實ヲ擧ケツ、アリ、而シテ祝祭日宗祖ノ記念日ニハ全職員患者擧ツテ一堂ニ會シ和氣霽々タル中ニ之ヲ祝フノ風アルハ本院ノ誇リトスル所ナリ。

宗教家ノ外社會教育家、社會事業家其他多數ノ名士各種ノ藝術ニ堪能ナル諸氏ノ慰問近年益々多キヲ加ヘツ、アルコトハ患者慰安上頗ル悅フヘキコトナリ、其他患者ノ春秋ニ催ス芝居、碁將棋、庭野、卓球等ノ運動競技、餅搗花祭、青葉祭、盆踊、クリスマス、會式、報恩講又ハ詩歌俳諧等ノ諸會ハ單調無味ナル療養生活ニ多大ナル慰安ヲ與ヘテ居ル。其他浪花節講談、芝居映畫等ヲ開催シ又蓄音機、ラヂオ等ノ設備アリ。

之等ノ慰安娛樂ノ事業ハ大部分管理知事ヲ會長トスル第一區府縣立全生病院患者慰安會ノ出資補助ニヨルコトハ本院當事者ノ常ニ感謝措ク能ハサル所ナリ。

更ニ又患者ニシテ病重リ失明或ハ手足麻痺脱落シテ自己ノ起居サヘ不自由ナルモノ又ハ合併症ノ爲メ久シク病床ニ呻吟スルモノ多クハ何レヨリモ小遣ヲ受クル途アラサルヲ以テ之等不幸ナル人々ヲ慰安救済センカ爲ニ昭和六年四月財團法人全生互惠會ヲ組織セリ。本會ハ長クモ昭和五年十一月十日 皇太后陛下ノ御仁慈ニ依ル御下賜金ヲ基礎トシテ設立サレシモノニシテ購買部、農産部、印刷部、工藝部、裁縫部、牧畜部等ヲ經營シ此

ノ利益ヲ前記ノ目的ニ充ツ。
 之ニ依ツテ重症者ノ慰藉セラル、コト實ニ大ナリ、コレ偏ニ陛下ノ御仁徳ノ賜ニシテ誠ニ有難キ極ナリ。
 又最近財團法人癩豫防協會ヨリラヂオ、オルガン其他運動音樂演藝映畫等ニ關スル器具ヲ寄附セラル、コトハ誠ニ感謝ニ堪エサル所ナリ。

三、風紀

開院當時ニ在リテハ大部分浮浪患者ナリシヲ以テ風紀上遺憾ノ點少カラサリシカ漸次院内生活ニ觀ミ來レルト同時ニ患者收容力ノ増大スルニ從ヒ聯合府縣各地方ノ自宅ヨリ入院スルモノ次第ニ増加シ風紀ハ逐次改善セラレ逃走ノ第一原因ト見做サル、賭博ノ如キモ大正八年以來全ク根絶シテ多年ノ陋習ハ一掃セラレ眞ニ平和ナル一大家族ヲ建設スル状態ニ至レリト言フモ過言ニアラサルナリ。

四、教育

開院當初患者ハ無教育者多カリシヲ以テ患者中教育ニ經驗アルモノヲ選ビ教師トナシ普通教育ヲ施シ來リシカ近年兒童ノ入院増加シ六十名ヲ越エルニ至リシヲ以テ此等年少者ニ對スル教育ニツキ深ク考慮シ數年前ヨリ職員中教育ニ經驗アル者ヲシテ其ノ任ニ當ラシメ小學校ノ教科ニ準シテ教授シツ、アリシカ昭和六年度ニハ新ニ七十坪ノ教育舎ヲ建築シ且ツ其ノ設備モ稍々充實セシヲ以テ全生學園ト稱シ町村立小學校ト殆ンド大差ナキ教育ヲ施シ得ルニ至レリ。而シテ學園小學校卒業者ニシテ更ニ勉學ノ志アルモノ、又ハ年少時發病シ勉學ノ機會ヲ失ヒタル中年患者ノ爲補習科ヲ設置シ以テ知識ノ向上人格ノ陶冶ニ努メツ、アリ。管テハ一字ナカリシ者モ次第ニ向上シテ郷里ノ父母兄弟ト通信ヲナスニ至リ、又和歌、俳句ヲ理解創作シ各種ノ新聞雜誌ニ投稿シ入選スルモノ尠カラス。

更ニ學校教育以外ニ青少年、少女團ヲ組織シ之ニヨリ青少年少女ヲシテ規律アル生活ヲ爲サシム、即チ青年團ヲ以テ消防隊ヲ組織シ訓練操作ヲナサシメ、青少年少女團ニハ訓練奉仕作業ヲナサシメ大ナル効果ヲ收メツ、ア

リ。

院内圖書館ハ本院見學ノ學生諸氏及特志家ノ寄附ニ依リテ漸次充實シ圖書ノ閱讀及稗史小説ノ貸出ヲ爲セリ之ニ依リテ多數ノ盲目患者ハ團樂シテ小説ノ朗讀ヲ聞クコトヲ樂ミノ一トナシ居レリ。

又五惠會印刷部ヨリハ「山櫻」(芽生)「呼子鳥」武藏野短歌等ノ月刊雜誌或ハパンフレットヲ發行シテ各患者ノ詩歌、文章ヲ掲載シ院内患者ノ慰安ニ供シ他面外部ニ對シテハ院内平和ノ生活ヲ記述シテ社會ノ理解ト同情ヲ得ルニ努メ以テ癩ノ豫防宣傳ニ資セリ。

患者教育程度 (入院當時ノ調査ニ依ルモノ)

教育別	教育程度		計	教育程度		計
	男	女		男	女	
無教育ノ者	五八	一〇〇	一五八	一九	一〇	二九
多少文字ヲ知ル者	一五	一一	二六	八	五	一三
尋常小學校程度	一九	一一八	一三〇	六	一	七
同卒業程度	三二	九七	一二九			
高等小學校程度	八八	一一	九九			
同卒業程度	一七八	三二	二一〇	七八三	三八六	一一六九
合計						

五、作業

患者ハ一般手足及ビ顔面ニ潰瘍ヲ有スルモノ多シ然レドモ重症有熱ノモノヲ除キ比較的健康ナルモノ、終日ノ閑居無聊ハ却ツテ病症ノ經過ヲ惡化スルノ虞レアリ、此ノ弊害ヲ除カンガ爲任意適當ナル作業ニ從事セシム。

就中農業ハ此ノ目的ニ最モ適合シ尙身體ノ健康ヲ増進シ他面蔬菜ノ成育ヲ樂マシメ而シテ其ノ收穫品ハ病

區送致先	性體		收容患者數		退院		院		數	
	男	女	計	計	計	計	計	計	計	計
直接收容	188	191	379	379	1	1	1	1	1	1
警視廳	102	102	204	204	1	1	1	1	1	1
神奈川縣	36	36	72	72	1	1	1	1	1	1
新潟縣	23	23	46	46	1	1	1	1	1	1
埼玉縣	23	23	46	46	1	1	1	1	1	1
群馬縣	23	23	46	46	1	1	1	1	1	1
千葉縣	23	23	46	46	1	1	1	1	1	1
茨城縣	23	23	46	46	1	1	1	1	1	1
栃木縣	23	23	46	46	1	1	1	1	1	1
計	188	191	379	379	1	1	1	1	1	1

第六統計
一、收容患者異動表

(昭和十三年末現在)

作業別	慰勞金額	作業別	慰勞金額	作業別	慰勞金額
舎長	1450	汚物	47	大豆	10
學事	1450	風呂	7	火水	6
寮父	1450	裁縫	7	園藝	10
圖書	1450	葉細	27	藥工	15
整理	1450	物燒	7	士官	28
理髮	1450	却却	4	左官	28
除髮	1450	洗濯	14	大工	28
掃除	1450	動物飼	3	豆腐	10
添換	1450	洗濯	3	腐製	10
交付	1450	濯育	3	製造	10
帶交	1450	洗濯	3	製造	10
再製	1450	洗濯	3	製造	10
糞尿	1450	洗濯	3	製造	10

院ニ於テ買上ケ食膳ニ供スルモノナルヲ以テ病院ニ取ツテハ大ナル經濟トナリ彼等ニ向テハ大ナル慰安トナル。其ノ他各種ノ作業ニ従事スル者ニハ慰勞金ヲ給與シ之ヲ獎勵シツ、アリ。左ニ作業別及慰勞費ヲ擧ケン

年報

年	五二年	五一年	五〇年	四九年	四八年	四七年	四六年	四五年	四四年	四三年	四二年
計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男
	五三二	七五二	三三三	三二一		五一四	六三三	一一一	一五一	四四三	三一一
	一六六	〇五五	〇五四	二二九	二四七	三三四	二四八	二六八	二八八	二七二	二六七
	二九二	三三三	三八七	四四〇	四七三	四九六	五二七	五八九	六三五	六八五	七八九
年	六三年	六二年	六一〇年	六〇九年	五九年	五八年	五七年	五六年	五五年	五四年	五三年
計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男
	三一三	三二二		六四二	二二二	五三二	二一一	二一一	二一一	二二二	四三一
				五二二	六四二	六三三	四一三	七一六	八四四	二五七	六二四
	三一二	七四三	七五二	三八五	八四四	二四八	二六六	四六八	九三六	七四三	二五七
年	七四年	七三年	七二年	七一〇年	七〇九年	六九年	六八年	六七年	六六年	六五年	六四年
計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男
	二一一			三三三	三三三					三二一	六五一
										四二二	五二三
	四三三			四三三	四三三					七四三	三八四

六三

年	二三年	二二年	二一年	二〇年	一九年	一八年	一七年	一六年	一五年
計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男
	三一三	三二二		二二二	二二二				
	三〇六	二九五	二八四	二八二	二四九	二三八	二八九	九六一	五八二
	三四六	三三六	三二五	三三六	三八五	三八二	三五〇	二七一	〇三七
年	三二年	三一年	三〇年	二九年	二八年	二七年	二六年	二五年	二四年
計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男
	二一一	三二二							
	二五六	〇〇〇	三六五	三六六	三七一	二七八	二八九	二二八	二六六
	二八七	三五七	三五八	四四〇	三六〇	三二〇	三二〇	二二〇	四六八
	二八七	三五七	三五八	四四〇	三六〇	三二〇	三二〇	二二〇	四六八
年	四一年	四〇年	三九年	三八年	三七年	三六年	三五年	三四年	三三年
計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男
	八四四	四三一	八二六	五三五	三三一	二一一	三一一	二二二	
	一七五	二四六	三三九	一五六	二九三	二七九	一四七	〇一九	三三八
	二五九	三〇九	四一〇	三三五	二五二	二〇九	四五六	二四三	二三八

六二

院内社會事業團體

第一府縣立全生病院慰安會
 全生五惠會

第八 一時救護所概況

財團法人三井報恩會ヨリ寄附ノ重症舎一棟六十坪、輕症舎三棟一三五坪並ニ初度調辨設備百人分ヲ以テ一時救護所ニ充ツルコト、爲シ聯合府縣並ニ警視廳ト協議シ昭和十一年七月之ヲ開設セリ
 全生相談所一時救護所入所患者異動表
 (昭和十三年末現在)

警視廳	委託別		入所患者數	退		所		數
	性	體		死亡シタル者	逃走シタル者	非續患者ト確定シタル者	病院患者トシテ退所セシメタル者	
計	女	男	數在現始年	數所入年本	計	計	計	計
二九	四	二五	三三	一	三	三三	一	三
三三	四	二八	四三	五	三八	四三	五	三八
一	一	一	一	一	一	一	一	一
三	一	三	三	一	四	三	一	四
五	一	四	九	一	八	一	一	一
三	一	三	三	一	三	三	一	三
一	一	一	一	一	一	一	一	一
九	二	七	一〇	二	八	九	二	七
一	一	一	一	一	一	一	一	一
三	一	三	三	一	三	三	一	三
二	一	二	二	一	二	二	一	二
一七	三	一四	二八	四	一四	一七	三	一四
一五	一	一四	一五	一	一四	一五	一	一四
八三	六	八	八三	六	八	八三	六	八

第一區府縣立全生病院慰安會規則

(大正三年十一月七日創立)

主 旨 書

癩病ハ古來遺傳病トシテ久シク顧ミラレサリシカ近來ニ至リ該病ハ彼ノ結核梅毒ト等シク危險ナル慢性ノ傳染性疾患ニシテ其醜惡ナル病竈ヨリ放散スル病毒ノ多大ナルコト普ク認承セララルニ至リ明治四十年政府ハ癩預防法トシテ法律第十一號ヲ發布シ先ツ赤貧ニシテ自ラ療養スル能ハサル患者ヲ離隔收容スルノ目的ヲ以テ全國五ヶ所ノ療養所ヲ設立スルニ至レリ第一區府縣立全生病院ハ實ニ其一ニシテ所澤ヲ東ニ距ルコト里許東京府下北多摩郡東村山村ニ在リ目下東京神奈川新潟埼玉群馬千葉茨城栃木愛知靜岡山梨長野ノ一府十一縣ヨリ送致セラレタル患者四百人ヲ容ル是等ノ患者ハ幸ニ官給ノ衣食住ニヨリテ何ノ不自由ナク加之出來ル丈ノ治療ヲモ施サレ居リ患者ニ取リテハ一見此上ナキ樂天地ナルカ如キモ如何セン彼等ノ病ハ已ニ膏盲ニ入り現今ノ文明醫術ヲ以テシテモ未タ全治セシムルノ域ニ達セス從テ彼等ハ將來ニ於テ退院ノ希望ヲ發見スル能ハス空シク此狹隘ナル小天地ニ於テ無味單調ナル生涯ヲ終ハラサルヘカラス實ニ惘然ノ至リナラスヤ蓋シ國家カ癩病撲滅ノ爲メ犧牲トシテ彼等ノ自由ヲ拘束スル以上ハ彼等ノ慰安ニ努ムルハ勿論ニシテ全生病院ニ於テモ其設備ハ略ホ備ハレリト雖モ經費ニ一定ノ制限アリ充分ニ慰安ノ目的ヲ達スル能ハサルハ深ク遺憾トスルモノ、如シ若シ夫レ大方ノ慈善家ニシテ溢ル、カ如キ同情ヲ彼等ニ注カンニハ彼等ノ心中ノ喜ヒヤ蓋シ測ルヘカラサルモノアラン然リ而シテ今回篤志家ノ贊助ヲ得テ本會ヲ設立シ制限アル公費ノミニテハ充分ニナス能ハサリシ講話說教並ニ演藝ノ開催作業ノ慰勞並獎勵娛樂品ノ設備物品ノ給與患者携帶兒ノ保護其他必要ト認ムル事業ニ對シ金品ヲ寄附シ以テ患者慰安ノ目的ヲ徹底セシメントス莫クハ大方ノ紳士淑女此不幸ナル患者ニ同情セラレ奮テ本會ノ會

大正三年十一月

第一區府縣立全生病院慰安會

第一區府縣立全生病院慰安會規則

- 第一條 本會ハ第一區府縣立全生病院患者慰安會ト稱ス
- 第二條 本會ハ第一區府縣立全生病院收容患者ヲ慰藉スルヲ以テ目的トス
- 第三條 本會ノ事務所ヲ東京府北多摩郡東村山村第一區府縣立全生病院内ニ置ク
- 第四條 本會ハ患者慰安ノ方法トシテ左ノ事業ヲ爲ス
 - 一 講話、說教、演藝等ノ開催
 - 二 作業ノ慰勞
 - 三 娯樂品ノ設備
 - 四 患者攜帶兒ノ保護
 - 五 患者慰安ノ爲必要ナル物品ノ給與
 - 六 其ノ他必要ト認ムル事業
- 第五條 本會々員ハ名望家、慈善家ヲ以テ組織シ左ノ四種ニ分ツ
 - 一 名譽會員 本會ノ事業ニ特殊ノ功勞アル者
 - 二 特別會員 一時ニ金拾圓以上寄附ノ者

三 正會員 毎年金壹圓以上五ヶ年間寄附ノ者又ハ一時ニ金參圓以上寄附ノ者

四 贊助員 多少ニ拘ラス金品寄附ノ者

第六條 本會ニ左ノ役員ヲ置キ總テ無報酬トス但シ書記ニハ報酬ヲ與フルコトヲ得

- 會長 一名 副會長 一名 顧問 若干名
- 評議員 若干名 幹事 若干名 書記 若干名

第七條 會長ニハ東京府知事ヲ推ス

副會長ニハ東京府學務部長ヲ推ス

顧問ニハ第一區域聯合府縣地方長官ヲ推ス

評議員ハ第一區域聯合府縣並其ノ他必要ト認ムル處ニ置キ會長之ヲ囑託ス

幹事ハ會長之ヲ指名ス

書記ハ常務幹事之ヲ任免ス

第八條 會長ハ會務ヲ總理シ本會ヲ代表ス

副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキハ其ノ事務ヲ代理ス

顧問ハ本會ノ經營ニ關シ意見アルトキハ會長ニ提出スルモノトス

評議員ハ會長ノ諮問ニ應シ本會ノ重要事項ヲ議決ス

幹事ハ會長ノ命ヲ受ケ會務ヲ處理ス

會長ハ幹事中ヨリ常務幹事壹名ヲ指名シ幹事ヲ代表シテ會務ヲ處理セシム

書記ハ上司ノ命ヲ受ケ庶務會計ニ従事ス

第九條 本會ニ委員若干名ヲ置キ會長之ヲ囑託シ會務擴張ノ事ヲ掌ラシム

第十條 本會ハ毎年一回評議員會ヲ開ク但シ會長ニ於テ必要ナシト認ムルトキハ之ヲ省略スルコトヲ得

- 第十一條 本會ハ毎年一回幹事會ヲ開ク但シ必要アルトキハ臨時會ヲ開クコトヲ得
- 第十二條 評議員會及幹事會ハ會長之ヲ召集ス
- 第十三條 幹事會ニ於テハ左ノ事項ヲ議決ス
 - 一 本會毎年ノ歳入出豫算
 - 二 本會諸規則ノ改正
 - 三 其ノ他必要ト認ムル件
- 第十四條 評議員會又ハ幹事會ノ議長ハ會長之ニ當リ議員三分ノ一以上出席スルニ非サレハ開會スルコトヲ得
- 第十五條 本會經費ハ寄附金及其ノ利殖金ヲ以テ之ニ充ツ
- 第十六條 本會ノ會計年度ハ四月ヨリ起リ翌年三月ニ終ルモノトス
- 第十七條 常務幹事ハ毎年度會計收支決算書ヲ作り會長ノ決裁ヲ經テ評議員會ニ提出スヘシ
- 第十八條 會員ハ何時ニテモ會計帳簿ヲ閱覽シ且本會ノ事業其ノ他ニ付テ意見ヲ述フルコトヲ得
- 第十九條 會員並物品ノ寄附ヲ受ケタルトキハ謝狀ヲ送り氏名及目錄ヲ簿冊ニ登載シテ永久ニ保存ス
- 第二十條 物品現金並有價證券ハ常務幹事之ヲ保管ス但シ現金並有價證券ハ郵便局又ハ確實ナル銀行ニ預金スルコトヲ得
- 第二十一條 本會經費ニシテ殘餘ヲ生シタル場合ハ本會基本金ニ編入ス
- 第二十二條 本院ノ廢止又ハ都合ニ依リ本會ヲ解散スルトキハ評議員會ノ決議ニ依リ現在ノ金品ヲ他ノ慈善事業ニ寄附ス

●財團法人全生互惠會

(昭和六年二月十一日創立)

一、事業要項

第一項 相互扶助作業ノ獎勵及援助

本院ハ開院當初ヨリ一大家族主義ニ立脚シ相互扶助精神ノ涵養ニ努メシ結果現在千五十餘名ノ患者ハ恰モ一家族ノ如ク身ハ悲惨極リナキ病魔ト闘ヒツ、家族ノ一員トシテ重症者ノ看護ニ或ハ公益事業ニ或ハ精神修養ニ關スル種々ナル事業ニ従事セリ然レトモ病重キニ至レハ多年功績顯著ナリシモノト雖モ之レヲ顧ミル者ナク空シク病床ニ悶々トシテ生ヲ終ルヲ常トス本會ハ斯クノ如キ功勞者ニ對シ社會ニアル恩給制度ニ準ス可キモノヲ設ケ聊カナカラ其ノ功績ヲ推賞シ以テ將來此ノ種ノ事業ニ従事スルモノヲ獎勵援助シ他面相互扶助精神ノ向上ニ努メ以テ 皇太后陛下ノ優渥ナル恩召ニ副ヒ奉リ兼テ本院ヲシテ理想的療養所タラシメンコトヲ期スルナリ。

第二項 重症患者ノ慰安及救濟

本院ニ現在收容セル患者千五十餘名中大部分ハ生家貧困ニシテ彼等ノ必要トスル金品ノ送付ヲ受クルハ能ハサルナリ。然レトモ未タ病輕症ナルモノハ院内諸作業ニ従事シ日々三錢乃至六錢ノ慰勞金ヲ受クルモ重症ニシテ收容當時ヨリ病室ニ呻吟シ作業ニ従事シ能ハサルモノ或ハ從來作業ニ従事セシモ一度重症トナリ長ク病床ニ臥シテ再ヒ立ツ能ハサルモノ或ハ失明シテ咫尺ヲ辨セサルモノ或ハ手足麻痺脱落シテ自己ノ起臥スラ自由ナラサルモノ或ハ肺結核、心臟病、腎臟病等ノ如キ合併症ノ増悪シタルモノ或ハ痲痺性熱衰弱ノ甚シキモノ等カ長ク病床ニ看護ヲ受ケ囊中一錢ノ貯ヘナキニ至リタルニ於テハ其ノ心細サト周圍ノ稍當メルモノヨリ受クル刺戟ニ依ル痛苦トハ到底想像スル能ハサルナリ。而シテ之等重症患者四百名中差當リ救濟ヲ要スルモノ約二百五十名ニ達ス之等要救患者ニ毎月若干ノ小使ヲ支給シテ物質的慰安ヲ與ヘ引イテハ之ヲ精神慰安ニ及ホシ將來全患者ノ大部

分カ陥ル可キ夫明重症ノ運命ニ對スル煩悶焦躁憂慮ノ念ヲ去リ安心立命ノ境地ニ達セシメントスルモノナリ。

第三項 農業其ノ他産業ノ經營及獎勵

耕作及牧畜ハ患者ニ對シ唯一ノ持久的慰安作業ニシテ此レニ依リテ新鮮ナル野菜及肉類鶏卵牛乳等ヲ院内全般ニ供給シ又其ノ他ノ手工製作品ハ目下院内自給ヲ主眼トスルモ將來若シ生産多量ニシテ消毒可能ナル場合ニ至レハ院外ニモ供給スルニ至ラシメントスルモノナリ。

第四項 賣店ノ經營

本院ノ賣店ハ所謂消費組合ニ類似スル組織ナリ。即チ過去十數年間公費ノ及ハサル患者日用雜貨ハ小賣商人ノ手ヲ經テ購入セシモ中間商人ヲ利スルノミニシテ患者ハ高價ニシテ疎惡ナル物品ヲ入手シ且ツ商人ハ永續セス種々ノ不便尠カラス故ニ昭和三年五月患者共有金若干ヲ資本トシ賣店ヲ開キ商品ヲ大量ニ購入セシメ會長監督ノ下ニ患者ヲシテ販賣ノ任ニ當ラシメシナリ。然ルニ近來一ヶ月千八百圓以上ノ賣上ケアリテ純益約一割ヲ上クルコトハ容易ナリ。此ニ本會ハ此ノ賣店ノ權利義務ヲ繼承シ以テ全患者ヲ利セントスルモノナリ。

第五項 印刷出版及學藝ノ獎勵

本會ハ山櫻芽生等數種ノ月刊雜誌及パンフレットヲ發行シ以テ院内患者ノ文藝ニ依ル慰安並ニ精神的向上ヲ計リ外部ニ對シテハ院内ノ平和ナル生活ヲ記述シ社會ノ同情ト理解ヲ得ルニ努メ以テ癩ノ豫防宣傳ニ資スル所ヲラントス。

第六項 其ノ他理事會ノ決議ニ依リ必要ト認メタル事項

上述セル第一乃至第五項以外ニ理事會ノ決議ニ基ツキ必要ト認メタル事業ヲ行ヒ以テ院内ニ於テハ本會所期ノ同病相憐相互扶助ノ實ヲ擧ケ院外ニ於テハ癩豫防運動ノ一助トナリ本病カ一日モ早クコノ光輝アル日本ノ國土ヨリ絶滅センコトヲ期スルモノナリ。以上

二、寄附行爲

第一章 名 稱

第一條 本會ハ財團法人全生互惠會ト稱ス

第二章 目的及事業

第二條 本會ハ 皇太后陛下御仁慈ノ思召ヲ體シ第一區府縣立全生病院收容患者相互扶助ノ實ヲ擧クルヲ以テ目的トス

第三條 本會ハ前條ノ目的ヲ達スルタメ左ノ事業ヲ行フ

- 一 相互扶助作業ノ獎勵及援助
- 二 重症患者ノ慰安及救済
- 三 農業其他産業ノ經營及獎勵
- 四 賣店ノ經營
- 五 印刷出版及學藝ノ獎勵
- 六 其ノ他理事會ノ決議ニヨリ必要ト認メタル事項

第三章 事務所

第四條 本會ハ事務所ヲ第一區府縣立全生病院内ニ置ク

第四章 資産會計及贊助員

第五條 本會ノ資産ハ 皇太后陛下御下賜金諸般ノ寄附金及全生病院收容患者ノ設立シタル農會試作部全生賣店山櫻俱樂部互惠部ヨリ寄附セラレタル別紙目錄ニ掲クルモノトス（別紙略ス）

第六條 本會ハ理事會ノ議決ヲ經テ基金ヲ設クルコトヲ得

五惠會寄附行爲

基金ハ理事五分ノ三以上ノ同意ヲ得會長ノ承認ヲ得ルニアラサレハ之ヲ處分スルコトヲ得ス

第七條 本會ハ理事會ノ議決ニヨリ特別會計ヲ設クルコトヲ得

第八條 本會ノ資産中現金ハ郵便官署其ノ他確實ナル銀行又ハ信託會社ニ預入レ若クハ國債證券又ハ確實ナル有價證券ヲ買入レ利殖ヲ圖ルモノトス

但シ特別ノ事情アル場合ニハ理事會ノ議決ニヨリ不動産ヲ購入スルコトヲ得

第九條 本會ノ經費ハ資産ヨリ生スル收入及其ノ他ノ收入ヲ以テ支辨ス

第十條 本會ノ事業翼賛ノタメ寄附セラレタル金品ハ之ヲ受領シ其ノ金員ハ之ヲ基金ニ編入ス

但シ理事會ノ議決ニヨリ其ノ一部ヲ經費補充積立金ニ編入スルコトヲ得

寄附ノ目的ヲ指定シタルモノハ其ノ用途ニ充ツ

第十一條 毎會計年度ノ終ニ於テ剩餘金アルトキハ基金ニ編入ス

但シ剩餘金ノ一部ニ限り翌年度ニ繰越スコトヲ得

第十二條 本會ノ豫算ハ毎年度理事會ノ議決ニヨリ之ヲ定メ決算ハ理事會ノ認定ヲ經ルモノトス

第十三條 本會ノ會計年度ハ毎年五月一日ニ始マリ翌年四月三十日ニ終ル

第十四條 本會ノ事業ヲ翼賛スルモノハ之ヲ贊助員ト稱ス

第十五條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

- 一 會長 一名
- 二 副會長 二名
- 三 理事 若干名
- 四 監事 若干名

第十六條 會長ハ第一區府縣立全生病院長ノ職ニアルモノトス

副會長ハ第一區府縣立全生病院職員中ヨリ會長之ヲ委囑ス

第十七條 會長ハ會務ヲ總理シ本會ヲ代表ス

副會長ハ會長ヲ補佐ス會長事故アルトキハ豫メ指定シタル順序ニヨリ之ヲ代理ス

會長副會長ハ理事トス

第十八條 理事ハ之ヲ分チテ二種トス

一 甲理事ハ第一區府縣立全生病院職員中ヨリ會長之ヲ選任ス

二 乙理事ハ第一區府縣立全生病院收容患者中ヨリ會長副會長合議ノ上之ヲ選任ス

第十九條 甲乙理事ノ人員ノ割合ハ會長ノ決スル所ニ依ル

但シ甲理事十八名乙理事十二名以内トス

第二十條 對外問題ノ生シタルトキ乙理事ハ一切ノ權限ヲ甲理事ニ委任スルコトヲ要ス

第二十一條 監事ハ第一區府縣立全生病院職員中ヨリ會長之ヲ委囑ス

第二十二條 理事及監事ノ任期ハ一ケ年トス但シ再任ヲ妨ケス補缺者任期ハ前任者ノ殘任期間トス

第二十三條 理事及監事任期滿了ノ場合ニ於テ其ノ後任者ノ就職スル迄ハ仍前任者ニ於テ其ノ職務ヲ行フモノトス

第二十四條 本會ニ事務員若干名ヲ置ク

第二十五條 理事監事及事務員ニシテ其ノ職務上不都合ノ所爲アリタルトキハ會長直ニ之ヲ免ス免職セラレタルモノハ再任スルヲ得ス

第六章 理事會

第二十六條 理事會ノ職務權限左ノ如シ

五惠會寄附行為

- 一 歳入歳出豫算ヲ定ムルコト
 - 二 決算報告ヲ認定スルコト
 - 三 不動産ノ購入又ハ處分ヲ議定スルコト
 - 四 寄附行爲ヲ變更シ及處務細則ヲ設定スルコト
 - 五 其ノ他會長ニ於テ必要ト認メ理事會ニ附議シタル事項
- 第二十七條 理事會ハ會長之ヲ招集ス
理事會ノ議長ハ會長之ニ當ル
- 第二十八條 理事會ハ理事二分ノ一以上出席スルニアラサレハ會議ヲ開クコトヲ得ス
- 第二十九條 理事會ノ議決ハ出席者ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス
可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第七章 附 則

- 第三十條 本寄附行爲ノ施行ニ關シ必要ナル細則ハ理事會ノ議決ヲ經テ別ニ之ヲ定ム
- 第三十一條 將來此ノ寄附行爲ノ條項ヲ變更セントスルトキハ理事總數三分ノ二以上ノ同意ヲ經テ且主務官廳ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス
- 第三十二條 第十八條ニヨリ選任セラレタル理事就任スルニ至ル迄ノ間ハ設立者ヲ以テ理事トス
- 第三十三條 農會試作部、全生賣店、山櫻俱樂部及五惠部ノ有スル權利義務ハ法人許可ノ日ヨリ本法人ニ於テ之ヲ繼承スルモノトス

以上

關係法令

- 一 歳入歳出豫算ヲ定ムルコト
- 二 決算報告ヲ認定スルコト
- 三 不動産ノ購入又ハ處分ヲ議定スルコト
- 四 寄附行爲ヲ變更シ及處務細則ヲ設定スルコト
- 五 其ノ他會長ニ於テ必要ト認メ理事會ニ附議シタル事項

第二十七條 理事會ハ會長之ヲ招集ス
理事會ノ議長ハ會長之ニ當ル

第二十八條 理事會ハ理事二分ノ一以上出席スルニアラサレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第二十九條 理事會ノ議決ハ出席者ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス
可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第七章 附 則

第三十條 本寄附行爲ノ施行ニ關シ必要ナル細則ハ理事會ノ議決ヲ經テ別ニ之ヲ定ム

第三十一條 將來此ノ寄附行爲ノ條項ヲ變更セントスルトキハ理事總數三分ノ二以上ノ同意ヲ經テ且主務官廳
ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第三十二條 第十八條ニヨリ選任セラレタル理事就任スルニ至ル迄ノ間ハ設立者ヲ以テ理事トス

第三十三條 農會試作部、全生賣店、山櫻俱樂部及五惠部ノ有スル權利義務ハ法人許可ノ日ヨリ本法人ニ於テ之ヲ
繼承スルモノトス

以上

關係法令

關係法令

●癩豫防法(明治四十年三月十九日)

改正(大正五年三月十日 昭和四年三月二十七日
法律 第二十一號 法律 第十號
昭和六年四月一日 法律 第五十八號)

- 第一條 醫師癩患者ヲ診斷シタルトキハ患者及家人ニ消毒其ノ他豫防法ヲ指示シ且三日以内ニ行政官廳ニ届出ツヘシ其ノ轉歸ノ場合及死體ヲ檢案シタルトキ亦同シ
- 第二條 癩患者アル家又ハ癩病毒ニ汚染シタル家ニ於テハ醫師又ハ當該吏員ノ指示ニ從ヒ消毒其ノ他ノ豫防方法ヲ行フヘシ
- 第二條ノ二 行政官廳ハ癩豫防上必要ト認ムルトキハ左ノ事項ヲ行フコトヲ得
- 一 癩患者ニ對シ業態上病毒傳播ノ虞アル職業ニ従事スルヲ禁止スルコト
 - 二 古着、古蒲團、古本、紙屑、襪、飲食物其ノ他ノ物件ニシテ病毒ニ汚染シ又ハ其ノ疑アルモノノ賣買若ハ授受ヲ制限シ若ハ禁止シ、其ノ物件ノ消毒若ハ廢棄ヲナシメ又ハ其ノ物件ノ消毒若ハ廢棄ヲナスコト
- 第三條 行政官廳ハ癩豫防上必要ト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ癩患者ニシテ病毒傳播ノ虞アルモノヲ國立癩療養所又ハ

法令

第四條ノ規定ニ依リ設置スル療養所ニ入所セシムヘシ

必要ノ場合ニ於テハ行政官廳ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ前項患者ノ同伴者又ハ同居者ニ對シテモ一時相當ノ救護ヲ爲スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ行政官廳ハ必要ト認ムルトキハ市町村長又ハ之ニ準スヘキ者ヲシテ癩患者及其ノ同伴者又ハ同居者ヲ一時救護セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ市町村長又ハ之ニ準スヘキ者ニ於テ一時救護ヲ爲ス場合ニ要スル費用ハ必要アルトキハ市町村又ハ之ニ準スヘキモノニ於テ總替支辨スヘシ

第四條 主務大臣ハ二以上ノ道府縣ヲ指示シ其ノ道府縣内ニ於ケル前條ノ患者ヲ收容スル爲必要ナル療養所ノ設置ヲ命スルコトヲ得

前項療養所ノ設置及管理ニ關シ必要ナル事項ハ主務大臣之ヲ定ム

第四條ノ二 國立癩療養所及前條ノ療養所ノ長ハ命令ノ定ムル所ニ依リ入所患者ニ對シ必要ナル懲戒又ハ檢束ヲ加フルコトヲ得

第五條 私立ノ癩療養所ノ設置 管理ニ關シ必要ナル事項ハ主務大臣之ヲ定ム

第六條 北海道地方費又ハ府縣ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ第二條ノ一第一號ノ規定ニ依リ從業禁止又ハ第三條第一項ノ規定ニ依リ入所ニ因リ生活スルコト能ハサル者ニ對シ其ノ生活費ヲ補給ス

一

ヘシ

第七條 左ノ諸費ハ北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トス

一 第二條ノ二第二號ノ規定ニ依リ行政官廳ニ於テ物件ノ消毒又ハ廢棄ヲ爲ス場合ニ要スル諸費

二 入所患者（國立癩療養所入所患者ヲ除ク）及一時救護ニ關スル諸費

三 檢診ニ關スル諸費

四 其ノ他道府縣ニ於テ癩豫防上施設スル事項ニ關スル諸費

第七條ノ二 本法ニ依リ北海道地方費又ハ府縣ニ於テ負擔スヘキ費用ハ東京府伊豆七島及小笠原島ニ於テハ國庫ノ負擔トス

第八條 國庫ハ第六條及第七條ノ規定ニ依ル道府縣ノ支出ニ對シ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ六分ノ一乃至二分ノ一ヲ補助スルモノトス

第九條 行政官廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ其ノ指定シタル醫師ヲシテ癩又ハ其ノ疑ヒアル患者ノ檢診ヲ行ハシムルコトヲ得癩ト診斷セラレタル者又ハ其ノ親族ハ行政官廳ノ指定シタル醫師ノ檢診ヲ求ムルコトヲ得

行政官廳ノ指定シタル醫師ノ診斷ニ不服アル患者又ハ其ノ親族ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ更ニ檢診ヲ求ムルコトヲ得

第十條 第一條ノ規定ニ違反シ又ハ第二條ノ二ノ規定ニ依ル行政官廳ノ處分ニ違反シタルモノハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十條ノ二 第二條ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

第十一條 醫師若ハ醫師タリシモノ又ハ癩豫防事務ニ關係アル公務員若ハ公務員タリシ者故ナク業務上取扱ヒタル癩患者又ハ其ノ死者ニ關シ氏名、住所、本籍、血統關係又ハ病名其ノ他癩タルコトヲ推知シ得ヘキ事項ヲ漏泄シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 行旅死亡人ノ取扱ヲ受クル者ヲ除ク外療養所ニ入所中又ハ第三條第二項及第三項ノ規定ニ依ル一時救護中死亡シタル癩患者ノ死體又ハ遺留物件ノ取扱ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

●癩豫防ニ關スル法律施行ノ件

（明治四十年八月三日）
（勅令第二百八十四號）

改正（明治四十年十二月）
（勅令第三百五十一號）

明治四十年法律第十一號ハ明治四十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●明治四十年法律第十一號中改正

法律施行期日ノ件（昭和六年七月十四日）
（勅令第八十號）

昭和六年法律第五十八號ハ昭和六年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

●癩豫防ニ關スル法律ニ依ル

●國庫補助ノ件（明治四十年八月三日）
（勅令第二百八十五號）

明治四十年法律第十一號ニ依ル道府縣ノ支出精算額ニ對シ國庫ハ同法第八條ニ依リ左ノ區別ニ從ヒ補助ス但シ事業ニ伴フ收入又ハ寄附金等アルトキハ之ヲ控除シタル額ニ對シ補助ス

一 療養所創設費擴張費及之ニ伴フ初度調辨費 二分ノ一
二 被救護者又ハ其ノ扶養義務者ヨリ辨償ヲ得サル無籍者又ハ本籍不明者ノ救護費 二分ノ一
三 其ノ他ノ諸費 六分ノ一

四 私立ノ代用療養所ノ創設費擴張費及之ニ伴フ初度調辨費ニ對スル補助費 二分ノ一
五 私立ノ代用療養所ニ對スル其ノ他ノ補助費 六分ノ一

附 則

本令ハ明治四十年法律第十一號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●癩豫防法施行規則（明治四十年七月二十日）
（內務省令第十九號）

改正（明治四十三年六月） 大正五年六月
（內務省令第二十四號） 昭和四年十一月
昭和二年十二月廿二日 昭和三十九年十一月
內務省令第四十九號 內務省令第三十九號
昭和六年七月
內務省令第十六號

第一條 癩豫防法第一條ノ届出ハ患者又ハ死體所在地ノ警察官署

法 令

ニ之ヲ爲スヘシ

第二條 癩患者ニシテ病毒傳播ノ虞アルモノアルトキハ警察官署ハ患者ノ所在、環境及病狀等ヲ具シ地方長官ニ報告スヘシ
地方長官ニ於テ前項ノ報告ヲ受ケタル場合癩豫防上必要ト認ムルトキハ所定ノ療養所ニ照會ヲ經タル上送致ノ手續ヲ爲スヘシ
警察官署ハ必要ト認ムルトキハ第一項ノ癩患者又ハ其ノ同伴者若ハ同居者ニ對シ一時相當ノ救護ヲ爲シ又ハ市町村長若ハ之ニ準スヘキ者ヲシテ之ヲ爲サシムヘシ

第二條ノ二 療養所ノ長ハ病毒傳播ノ虞アル癩患者ニシテ直接入所ヲ申出テタルモノアルトキハ特ニ必要ト認ムル場合ニ限り前條ノ規定ニ拘ラス之ヲ直ニ收容スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ收容シタル場合ニ於テ療養所ノ長ハ國立癩療養所ニ在リテハ內務大臣道府縣ノ療養所ニ在リテハ管理者タル地方長官ノ承認ヲ求ムルコトヲ要ス

第三條 第二條ニ依リ癩患者ヲ入ラシムヘキ療養所ハ患者所在地道府縣ノ療養所又ハ國立癩療養所トス但シ療養所管理者ノ協議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得

第四條 癩豫防法第四條ノ療養所ハ內務大臣ノ指定シタル地方長官ニ於テ之ヲ建設管理スヘシ

當該地方長官ハ內務大臣ノ認可ヲ得テ療養所ノ位置ヲ定ムヘシ
第五條 癩豫防法第六條ニ依リ生活費ノ補給ヲ受クヘキ者ハ左ノ

三

各號ノ一ニ該當スルモノニ限ル

一 従業ヲ禁止セラレタル者

二 従業ヲ禁止セラレ又ハ入所セシメラレタル當時本人ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者

生活費ノ補給ハ生活ニ必要ナル限度ヲ超エルコトヲ得ス
生活費補給ノ程度、方法及期間ニ關スル事項ハ地方長官ニ於テ之ヲ定ム

第五條ノ二 療養所ノ長ハ入所患者ニ對シ左ノ懲戒又ハ檢束ヲ加フルコトヲ得

一 譴責

二 三十日以内ノ謹慎

三 七日以内常食量二分ノ一マテノ減食

四 三十日以内ノ監禁

前項第三號ノ處分ハ第二號又ハ第四號ノ處分ト併科スルコトヲ得

第一項第四號ノ監禁ニ付テハ情狀ニ依リ國立療養所ニ在リテハ内務大臣道府縣ノ療養所ニ在リテハ管理者タル地方長官ノ認可ヲ經テ其ノ期間ヲ二箇月マテ延長スルコトヲ得

第五條ノ三 前條ノ外懲戒又ハ檢束ニ關シ必要ナル細則ハ國立療養所ニ在リテハ内務大臣、道府縣ノ療養所ニ在リテハ管理者タル地方長官ノ認可ヲ經テ療養所ノ長之ヲ定ム

四

第六條 癩豫防法第九條第一項第二項行政官廳ノ職權ハ警察官署之ヲ行フ

警察官署ノ指定シタル醫師ノ診斷ニ不服アル患者又ハ其ノ親族ハ發病以來ノ症候、經過及反對意見ヲ有スル醫師ノ診斷書其ノ他不服ノ理由ヲ具シ書面ヲ以テ地方長官ニ對シ其ノ指定シタル醫師ノ檢診ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ地方長官ハ檢診ノ場所及日時ヲ請求者ニ通知シ二人以上ノ醫師ヲ指定シテ檢診ヲ行ハシムヘシ此ノ場合ニ於テ請求者ハ其ノ費用ヲ以テ反對意見ヲ有スル醫師ヲ立會セシムルコトヲ得

檢診ノ爲病院其ノ他ノ場所ニ滞留ヲ命セラレタル患者其ノ命ヲ遵守セサルトキハ檢診ノ請求ヲ取消シタルモノト看做ス

第七條 檢診ノ請求ハ行政處分ノ執行ヲ停止セス但シ當該官廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八條 行旅死亡人ノ取扱ヲ受クルモノヲ除クノ外療養所ニ入所中又ハ癩豫防法第三條第二項及第三項ノ規定ニ依ル一時救護中死亡シタル癩患者ニシテ引取者ナキモノノ死體及遺留物件ノ取扱ニ關シテハ行旅病人及行旅死亡人取扱法ノ規定ヲ準用ス但シ市町村長又ハ之ニ準スヘキ者ニ於テ一時救護中死亡シタル場合ヲ除クノ外同法中市町村長ノ職務ハ當該行政官廳之ヲ行フ
療養所入所中死亡シタル癩患者ノ死體ハ之ヲ火葬スルコトヲ得

第八條ノ二 癩豫防法第二條ノ二行政官廳ノ職權ハ内務大臣又ハ地方長官之ヲ行フ

本令ニ依リ市長ニ屬スル職務ハ東京市、京都市及大阪市ニ於テハ區長ヲシテ之ヲ補助執行セシムルコトヲ得

附 則

本令ハ昭和六年法律第五十八號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●癩患者療養所設置區域ニ關スル件

(明治四十年七月 内務省令第二十號)

改正 (明治四十三年三月 昭和二年十二月廿二日 内務省令 第一號 第五十號)

道府縣ハ左ノ區域ニ依リ其ノ區域内ニ於ケル癩患者ヲ入ラシムル爲必要ナル療養所ヲ設置スヘシ

第一 區域

東京府 (伊豆七島小笠原島ヲ除ク) 神奈川縣 新潟縣 埼玉縣 群馬縣

千葉縣 茨城縣 栃木縣 愛知縣 靜岡縣 山梨縣 長野縣

第二 區域

北海道 宮城縣 岩手縣 青森縣 福島縣 山形縣 秋田縣

第三 區域

京都府 大阪府 兵庫縣 奈良縣 三重縣 岐阜縣 滋賀縣

福井縣 石川縣 富山縣 鳥取縣 和歌山縣

法 令

第四 區域

島根縣 岡山縣 廣島縣 山口縣 德島縣 香川縣 愛媛縣

高知縣

第五 區域

長崎縣 福岡縣 大分縣 佐賀縣 熊本縣 宮崎縣 鹿兒島縣 沖繩縣

附 則

本令ハ明治四十年法律第十一號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●療養所ヲ建設管理スヘキ地方長官ニ關スル件

(昭和三年七月二十日 内務省告示第七十五號)

明治四十年法律第十一號第四條ノ療養所ヲ建設管理スヘキ地方長官ハ第一區域ニ在リテハ東京府知事、第二區域ニ在リテハ青森縣知事、第三區域ニ在リテハ大阪府知事、第四區域ニ在リテハ香川縣知事、第五區域ニ在リテハ熊本縣下所在ノモノハ熊本縣知事、沖繩縣下所在ノモノハ沖繩縣知事トス

●海外諸港又ハ臺灣ヨリ來ル癩患者ノ取扱ニ關スル件

(明治四十年九月十四日 勅令 第二百九十四號)

海外諸港又ハ臺灣ヨリ來ル船舶ニ癩患者アル場合ニ於テ其ノ患者

五

外國人ナルトキハ地方長官ハ其ノ上陸ヲ禁止スヘシ但シ已ムコトヲ得サル理由アリト認ムルトキハ條件ヲ附シテ一時上陸ヲ許可スルコトヲ得

附 則
本令ハ明治四十一年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●癲癩養所職員制 (大正十年四月二十六日勅令第一五二號)

改正 (大正十年七月 同 十二年一月 同 十三年六月 第三三九號 第一〇〇號 第一四三號)
同十五年三月 昭和二年九月 同 四年五月 第四二號 第二九四號 第一三九號
同六年九月 同 八年五月 同 十年三月 第二五一號 第九九號 第三〇〇號
同十年十月 同 十一年七月 同 十三年三月 第二九〇號 第二二六號 第一一〇號

第一條 本令ニ於テ療養所ト稱スルハ明治四十年法律第十一號第四條第一項ノ規定ニ依リ設置スルモノヲ謂フ
第二條 療養所ニ通シテ左ノ職員ヲ置ク

Table with 3 columns: Position, Number of staff, and Appointment status. Includes 所長, 醫長, 醫員, 調劑員, 看護婦長, 看護長, 看護手.

主 事 專任 五人以内 奏任官待遇
書 記 專任 二十五人以内 判任官待遇
所長ハ醫長ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 所長ハ地方長官ノ指揮監督ヲ承ケ所務ヲ掌理ス

醫長、調劑員及看護婦長又ハ看護長ハ上官ノ命ヲ承ケ療養所ニ關スル技術ニ從事ス
主事及書記ハ上官ノ命ヲ承ケ療養所ニ關スル事務ニ從事ス

附 則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●國立癲癩養所官制 (昭和二年十月十一日勅令第三〇八號)

改正 (昭和三年十月 昭和六年二月 同 八年五月 第二四一號 勅令 第一二號 第八九號)
同 九年 同 七年十月 同 八年九月 第二五〇號 第三〇一號 同 八年九月 第二八九號 同 十一年八月 同 十三年二月 第二八九號 第二七一號 第二〇〇號
同 十三年三月 第一〇九號

第一條 國立癲癩養所ハ厚生大臣ノ管理ニ屬シ癲癩患者ノ救護及療養ニ關スルコトヲ掌ル
第二條 國立癲癩養所ニ左ノ職員ヲ置ク

Table with 3 columns: Position, Number of staff, and Appointment status. Includes 所長, 醫官, 醫務官.

Table with 3 columns: Position, Number of staff, and Appointment status. Includes 醫官補, 書記, 調劑手, 看護長, 看護婦長, 技手.

第三條 所長ハ醫官ヲ以テ之ニ充ツ、厚生大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス
第四條 醫官ハ上官ノ命ヲ受ケ癲癩患者ノ救護及療養ヲ掌ル
第五條 事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル
第六條 書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス
第七條 調劑手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ調劑ニ從事ス
第八條 看護長及看護婦長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ看護ニ從事ス
第九條 國立癲癩養所ノ名稱ハ厚生大臣之ヲ定ム

●地方待遇職員令 (大正九年八月二日勅令第二四八號)

改正 (大正九年八月 同 十年四月 第三三二號 第五七一號 第一五四號)
同 三年七月 同 四年十一月 同 十三年六月 第三四〇號 第四三六號 第一四九號

法 令

第一條 第一條乃至第八條及第十條第十一條略
第九條 待遇職員ノ俸給ハ別表ニ依ル但シ他ノ官職ニ在ルトキハ俸給ヲ給セス又ハ別表ニ掲グル最低金額ヨリ低キ俸給ヲ給スルコトヲ得

Table with 3 columns: Date, Salary grade, and Salary amount. Lists various dates and corresponding salary levels.

第十二條 本令ハ左ニ掲グル職員ニシテ高等官又ハ判任官ノ待遇ヲ受ケルモノニ付之ヲ準用ス
一 防疫職員官制ニ依ル職員
二 税關官制第二十六條ノ規定ニ依ル職員
三 臨時海港檢疫所官制ニ依ル職員
四 廳府縣衛生職員制ニ依ル職員
五 癲癩養所職員制ニ依ル職員
六 家畜防疫職員制ニ依ル職員
七 職業紹介所官制及昭和十三年勅令第四百五十一號ニ依ル職員
八 傷兵保護院官制第十七條ノ規定ニ依ル職員
前項ノ規定ニ依ルノ外防疫醫檢疫臨時海港檢疫醫又ハ癲癩養

所ノ醫長若ハ醫員ハ醫師免許證ヲ有スル者ヨリ、癩療養所ノ調劑員ハ藥劑師免狀ヲ有スル者ヨリ、檢疫獸醫又ハ防疫獸醫ハ獸醫免狀ヲ有スル者ヨリ、廳府縣衛生技師又ハ衛生技手ハ其ノ職務ニ依リ各醫師免許證、藥劑師免狀又ハ獸醫免狀ヲ有スル者ヨリ、癩療養所ノ看護婦長又ハ看護長ハ看護婦免狀又ハ看護人免狀ヲ有スル者ヨリ之ヲ任用ス

(別表)

俸給待遇別	奏任官待遇 職員年俸	判任官待遇 職員月俸
特別俸	四、六五〇以下	一八〇以下
一級俸	四、〇五〇	一四五
二級俸	三、六六〇	一二五
三級俸	三、四〇〇	一一〇
四級俸	三、〇五〇	九五
五級俸	二、七七〇	八五
六級俸	二、四二〇	七五
七級俸	二、一五〇	六五
八級俸	一、八二〇	五五
九級俸	一、六五〇	五〇
十級俸	一、四七〇	四五
十一級俸	一、三〇〇	四〇
十二級俸	一、一三〇	三〇

●癩ニ關スル消毒其他豫防法ノ件

(明治四十二年三月)
(内務省訓令第四五號)

癩ハ古來本邦各地ニ蔓延シク其ノ病性ヲ誤認セラレタルモ癩菌ノ發見ニ依リテ其ノ傳染性ナルコトヲ確定セラレタルモノニシテ主トシテ觸接ニ依リ又ハ患者ノ鼻汁唾液潰瘍部ノ濃汁等ニ汚染シタル物件ヲ介シテ病毒ヲ他ニ傳播スルノ危險アルモノトス是ヲ以テ政府ハ明治四十年三月本病ノ豫防ニ關シ法律第十一號ヲ發布シ癩患者ニシテ療養ノ途ヲ有セス且救護者ナキモノハ之ヲ府縣ノ療養所ニ隔離シ其ノ他ハ各自ニ於テ消毒其ノ他豫防方法ヲ行ハシメ以テ本病ノ蔓延ヲ防止シ漸次其ノ根絶ヲ圖ラントス然ルニ本病ハ從來非傳染病ト思惟シ來レルト其ノ經過緩慢ニシテ長年月ニ涉ルヲ以テ縱令外部ヨリ督勵ヲ嚴ニスト雖一般人民ヲシテ自衛ノ道ヲ講セシメ又患者並家人ヲシテ公德ヲ重ンセシムルニ非サレハ隱微ノ間ニ於テ病毒ノ散漫ヲ來タシ所期ノ目的ヲ達センコト容易ナラス依テ一般人民ニ對シテ常ニ本病ノ性質豫防ノ方法等ヲ訓諭シ之カ誘導ヲ怠ラサルハ勿論現ニ患者アル家ニ對シテハ特ニ左記各號ノ事項ヲ指示シ學校、病院、製造所、旅店、船舶等ニ於テ患者ヲ入ラシメタルトキ亦之ニ準シ相當處置セシムル等本病豫防ノ効果ヲ收ムルニ努ムヘシ

右訓令ス
内務大臣法學博士 男爵 平田 東助

癩ニ關スル消毒其ノ他豫防方法

- 一 患者ノ居室ハ可成別ニ之ヲ定メ他ノ家人等ト雜居セサルコト
- 二 患者ノ衣類寢具其ノ他日用器具等ハ特ニ専用ノモノヲ備ヘ他ト混同セサル様注意スヘシ
- 三 患者ノ常用衣類敷布寢具等ハ時々消毒ヲ行ヒタル後洗濯スルコト
- 四 患者ノ居室ハ常ニ清潔ヲ保持スルコト
- 五 患者ノ居室ニハ消毒藥ヲ容レタル唾壺ヲ備フルコト
- 六 病毒ニ汚染シタル繻帶手巾等ハ消毒ヲ行ヒ患者ノ紙屑襤褸類ハ燒却スルコト
- 七 患者ノ外出ハ可成避ケシメ止ムヲ得ス外出セントストキハ清潔ナル衣服ヲ着用シ又潰瘍アルモノハ其ノ繻帶ヲ更ムルコト
- 八 患者ハ可成他トノ交通ヲ避ケシメ又理髮店、公衆浴場、料理店、飲食店、劇場、寄席、乗合船車等公衆ノ出入スル場所ニ立入ラサルコト
- 九 患者ハ牛乳ノ搾取、飲食物、飲食器具(金屬、陶器類ヲ除ク)製造ノ場所ニ出入セサルコト
- 十 患者ノ住居シタル家屋ハ消毒ヲ行ヒタル後ニアラサレハ他ニ使用貸與又ハ授與セサルコト

法 令

●癩患者汽車輸送賃金ニ關スル件

(大正十年七月二十九日内務省通牒衛防第一〇一五號)

各府縣知事宛

癩患者汽車輸送賃金ニ關シテハ從來後拂ノ取扱ヲ爲シツ、有之候處今回鐵道省ニ於テ現拂ニ改正相成候爲之カ取扱上支障有之旨申出ノ向モ有之候處右ハ原則トシテ現拂ニ改メタルモ警察官署ニ於テ現金支出上差支アリ其旨當該驛長ヘ申出タル時ハ驛長ヨリ所屬長ヘ經伺ノ上隨時後拂取扱ヲ爲シ得ル趣ニ付右ニ御承知相成度及通牒候也

九

前項ノ場合ニ於テ其ノ在職月ノ計算ハ僱員ノ二月ヲ以テ僱員ノ月ト看做ス但シ在職十年以上ノ僱員ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第四條 看護人ニシテ直接看護ヲ命セラレ引續キ一年以上病室ニ勤務シタルトキハ一月ニ付半月ヲ加算ス但シ引續キ三十日以上病室ニ勤務セサルトキハ全ク勤務セサル月ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

第五條 退職給與金ハ僱員又ハ在職十年以上ノ僱員ニ在リテハ退職當時ノ月俸額又ハ日給三十日分ニ在職年ヲ乘シタル金額、在職十年未滿ノ僱員ニ在リテハ日給十五日分ニ相當スル金額ニ在職年ヲ乘シタル金額トス但シ圓位未滿ハ圓位ニ滿タシム

第六條 公務ニ由リ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ其ノ職ニ堪ヘス退職シタル場合ハ前條ニ依リ算出シタル金額ノ二分ノ一以內ヲ増額ス但シ第四條ニ依リ加算セラレタルモノニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

第七條 雇傭員死亡シタルトキハ退職給與金ニ相當スル金額ヲ其ノ遺族ニ支給ス

傭員ニシテ公務ニ由リ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ死亡シタルトキハ在職五年ニ滿タサル場合ト雖モ第五條後段ニ依リ算出シタル金額ヲ其ノ遺族ニ支給ス

遺族並ニ其ノ順位ハ恩給法所定ノ例ニ依ル

附 則

本令施行ニ際シ現ニ其ノ職ニ在ル者又ハ雇傭員ヨリ職員ニ轉職シ現ニ其ノ職ニ在ル者ニ對シテハ各其ノ就職シタル月ヨリ起算シ本令ニ依リ之ヲ支給ス

第四條ノ規定ハ大正十二年十月一日以降ノ事實ニ之ヲ適用ス

大正四年八月東京府訓令第八號第一區府縣立全生病院職員退職給與金支給規則ハ之ヲ廢止ス

●第一區府縣立全生病院看護人
看護婦講習所規則

第一條 本院看護人看護婦ノ講習ハ一般患者ノ看護法ヲ教授シ併セテ慈愛ノ精神ニ基キ品性ノ向上ニ努ム

第二條 生徒ハ本院看護人看護婦見習及雜役婦ヨリ院長之ヲ選考シテ入學セシム

第三條 生徒入學資格ハ高等小學校卒業者若クハ之ト同等以上ノ學力アル者ヨリ選拔ス

第四條 本所講習生徒ノ定員ハ二十名以內トス

第五條 修業年限ハ二ケ年トシ各學年ハ四月ニ始マリ翌年三月ニ終ル第一學年及第二學年ノ前半期ハ學說ヲ授ケ第二學年後半期ハ專ラ實地ヲ習熟セシム

第六條 學科ノ教授時數ハ一週二十二時間トシ時間割及各課擔任講師ハ別紙添付ノ通り

第七條 試驗ハ學說及實地ノ二トシ第二學年ノ終リニ行フ採點法ハ一科目十點ヲ滿點トシ毎科五點以上平均點六點以上ヲ得タルモノヲ及第トス

第八條 講習生病氣其ノ他ノ事故ニヨリ授業日數中缺席三分ノ一以上ニ及フモノハ卒業セシメス

第九條 講習生ニシテ成績不良ニシテ卒業ノ見込ナキ者又ハ生徒タル體面ヲ汚ス行爲アル者ハ卒業セシメス

第十條 講習卒業者ニハ左記様式ニ依リ卒業證書ヲ授與ス

卒業證書	族 籍	氏 名
	生 年 月 日	名
本院所定ノ看護學講習課程ヲ修了セシコトヲ證ス	年 月 日	
第 號	院 長 名	

法 令

第十一條 講習料ハ徵收セサルモノトス

第十二條 本講習所ノ講師ハ本院醫員、調劑員其ノ他ノ職員之ニ當ル

第十三條 學科目ヲ左ノ通り定ム

- 一 修 身
- 二 國 語
- 三 食餌法及營養學
- 四 解剖學及生理學
- 五 一般看護法及主要ナル各科疾患看護法
- 六 衛 生 學
- 七 傳染病學、細菌學、寄生蟲病學
- 八 消毒 方法
- 九 繻 帶 學
- 一〇 醫療機械學
- 一一 救急處置法
- 一二 一般治療介補及外科的介補
- 一三 藥物學大意及調劑法
- 一四 英 語

5750
6

各學科教授時間割及各學科擔任講師

第一學年教授時間割		第二學年教授時間割	
曜時	科目	曜時	科目
午前八時……十時	解剖學 生理學 傳染病學 細菌學 寄生蟲學 解剖學 生理學 一般看護法 救急處置法	午後一時……三時	修身 國語 衛生學 消毒方法 醫療機械學 繙帶學
午前八時……十時	食飼法及榮養學 傳染病學 各科主要疾患看護法 藥物學大意及調劑學 救急處置法	午後一時……三時	修身 國語 衛生學 外科的介補 一般治療介補 繙帶學
土	國語 英語	土	
金		金	
木		木	
水		水	
火		火	
月		月	

一四

寄贈

院議衆
14.8.30
圖書館

昭和十四年七月二十五日印刷
昭和十四年七月二十八日發行

(非賣品)

發行者 第一區府縣立全生病院

東京府北多摩郡東村山村南秋津一六五五番地

電話所澤一四二番

印刷者 高島幸三郎

東京市京橋區西八丁堀三ノ二二

印刷所 高島印刷所

東京市京橋區西八丁堀三ノ二二

電話京橋二七二三番

第...卷...第...期

(第...期)

第一屆學術大會

...

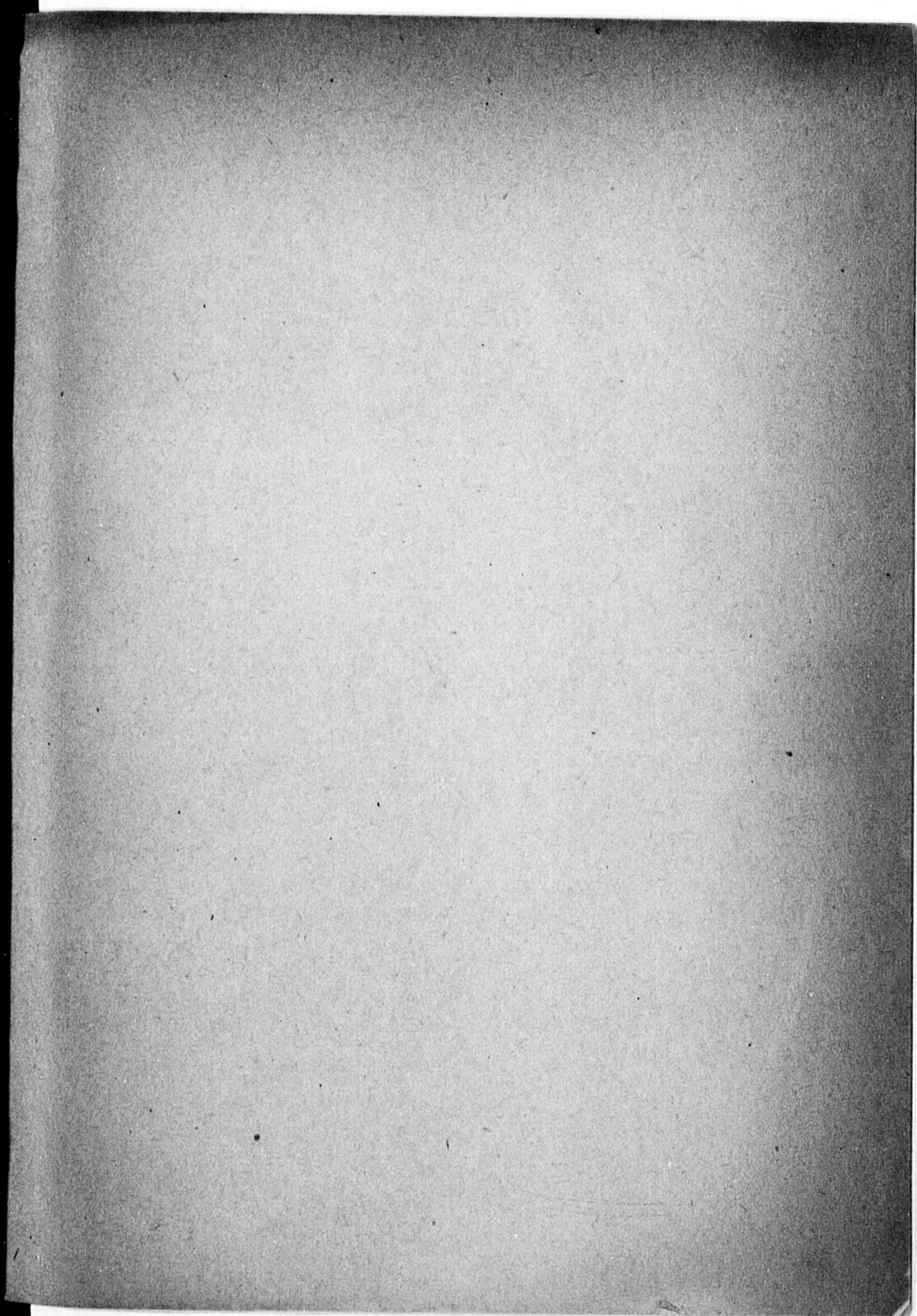
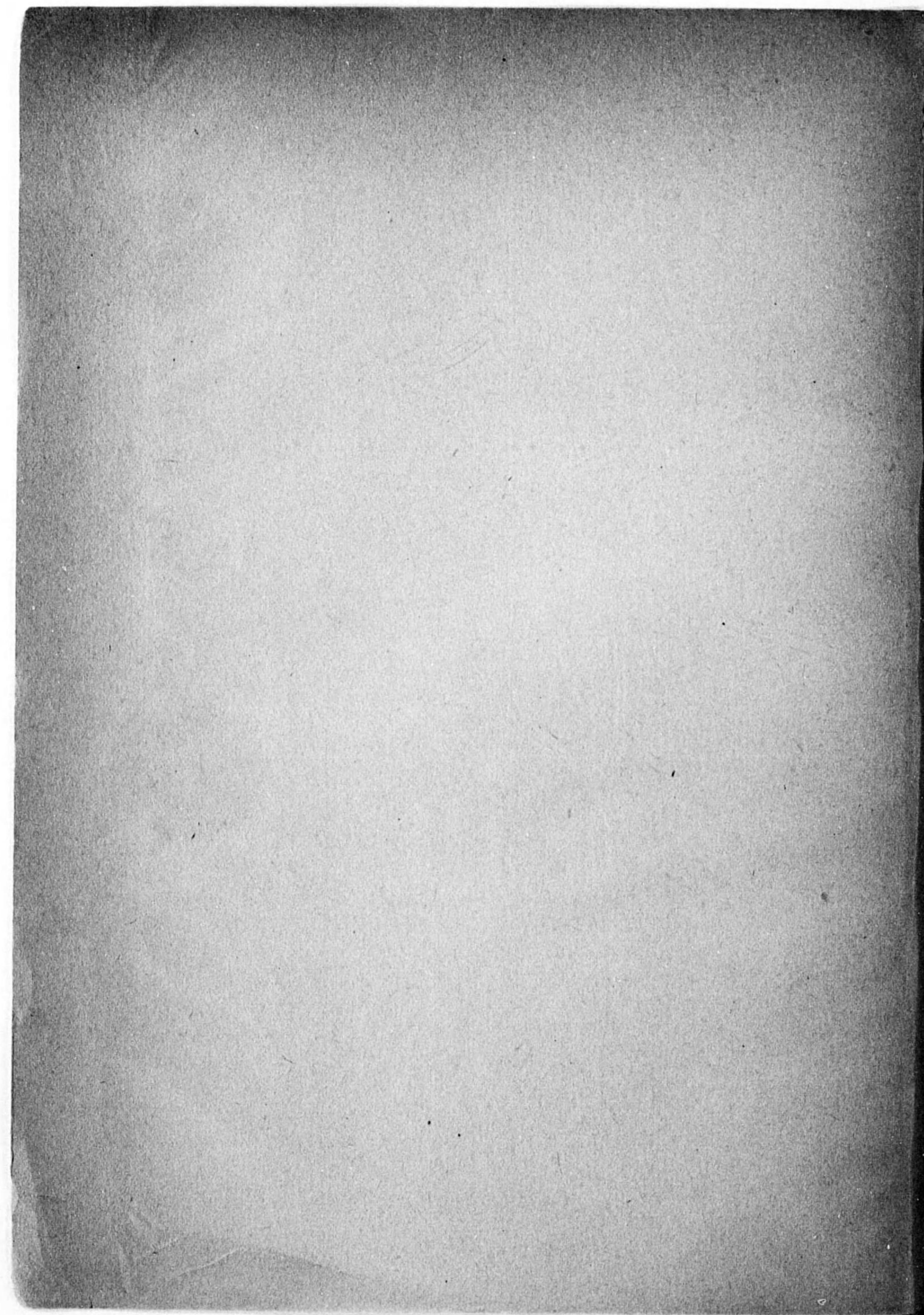
...

...

...

...

...



終

